

○海軍省達第二十號
佐世保鎮守府所管軍艦警備ヲ測量艦ト定メラル

明治二十五年五月九日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸達第四十一號

下副官及下士以下へ給與ノ被服地質中内國製麻織雲齋ハ自今厚織麻布ニ改正供用セシム
但從前ノ地質ハ在庫限り之ヲ供用スヘシ改正地質ノ標本ハ經理局ヨリ當該監督部へ交付ス
明治二十五年五月十一日
陸軍大臣子爵高島鞆之助

○陸達第四十二號

明治十九年^{五月}省令乙第七十三號工兵大隊作業器具表電信材料中左ノ通改正ス
明治二十五年五月十七日
陸軍大臣子爵高島鞆之助

同光傳信器	改	一組	同光傳信器	一四珊米	二組
-------	---	----	-------	------	----

○宮内省達甲第三號

御料局佐渡支廳附屬王子製造所職制左ノ通相定ム

明治二十五年五月十八日

宮内大臣子爵土方久元

奉 勅

王子製造所職制
第一條 王子製造所ハ御料局佐渡支廳長ノ監督ニ屬シ鑛物製煉材料製造ノ業務ヲ掌理ス
第二條 王子製造所ニ左ノ職員ヲ在勤セシム
技師

技師試補
副
技師
技手
技手補
 第三條 王子製造所ニ所長ヲ置キ技師ノ内ヲ以テ之ニ充テ該所ノ業務ヲ總理ス
 第四條 所長ハ便宜備員ヲ置クコトヲ得
 第五條 所長ハ便宜課ヲ置キ業務ノ分掌ヲ命スルコトヲ得
 第六條 技師ハ所長ノ指揮ニ依リ各其業務ニ従事ス
 第七條 技師試補ハ所長及技師ノ指揮ニ依リ業務ニ従事ス
 第八條 屬ハ上司ノ命ニ依リ庶務計算ノ事務ニ従事ス
 第九條 技手技手補ハ上司ノ命ニ依リ各其業務ニ従事ス

○陸達第四十三號
 三本木軍馬育成所支所ヲ秋田縣下由利郡院内村ニ置キ三本木軍馬育成所冬師山支所ト稱ス
 明治二十五年五月十八日 陸軍大臣子爵高島綱之助
 ○陸達第四十四號
 馬體外貌名稱左ノ通定ム
 但明治十九年五月達乙第十一號附圖ハ廢止ス
 明治二十五年五月十九日 陸軍大臣子爵高島綱之助

馬體外貌名稱圖解

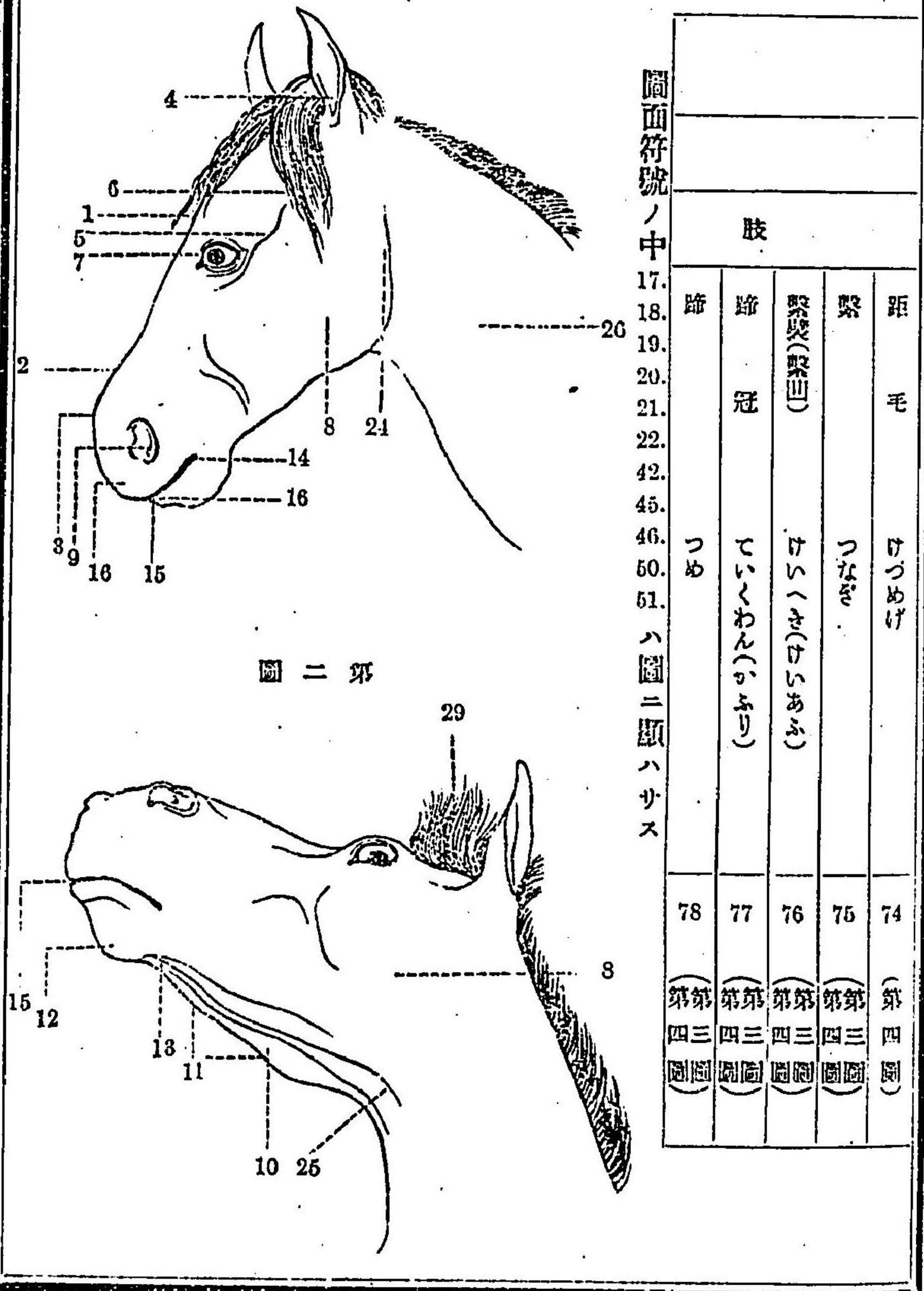
部位區分	名	稱	圖面符號
額	ひたひ		1 (第一圖)

馬		
頭		
鼻 梁	はなばら	2 (第一圖)
鼻 端	はなのさき	3 (第一圖)
耳	みみ	4 (第一圖)
額 額	こめかみ	5 (第一圖)
眼 孟	がんりゅう	6 (第一圖)
眼 目	め	7 (第一圖)
頰 頰	ほほ	8 (第一圖)
鼻 孔	はなのあな	9 (第一圖)
額 凹	おくちま	10 (第一圖)
額 線	あごの(リ)	11 (第一圖)
額 凹	たまひ	12 (第二圖)
額 凹	さめ	13 (第二圖)
口角(唇際)	くちまぶち(くちまぶちのぬひち)	14 (第一圖)
口	くちま	15 (第一圖)
唇	くちまぶち	16 (第一圖)
齒	は	17 (第一圖)
眼	はくま	18
街 受	はみまひ	19

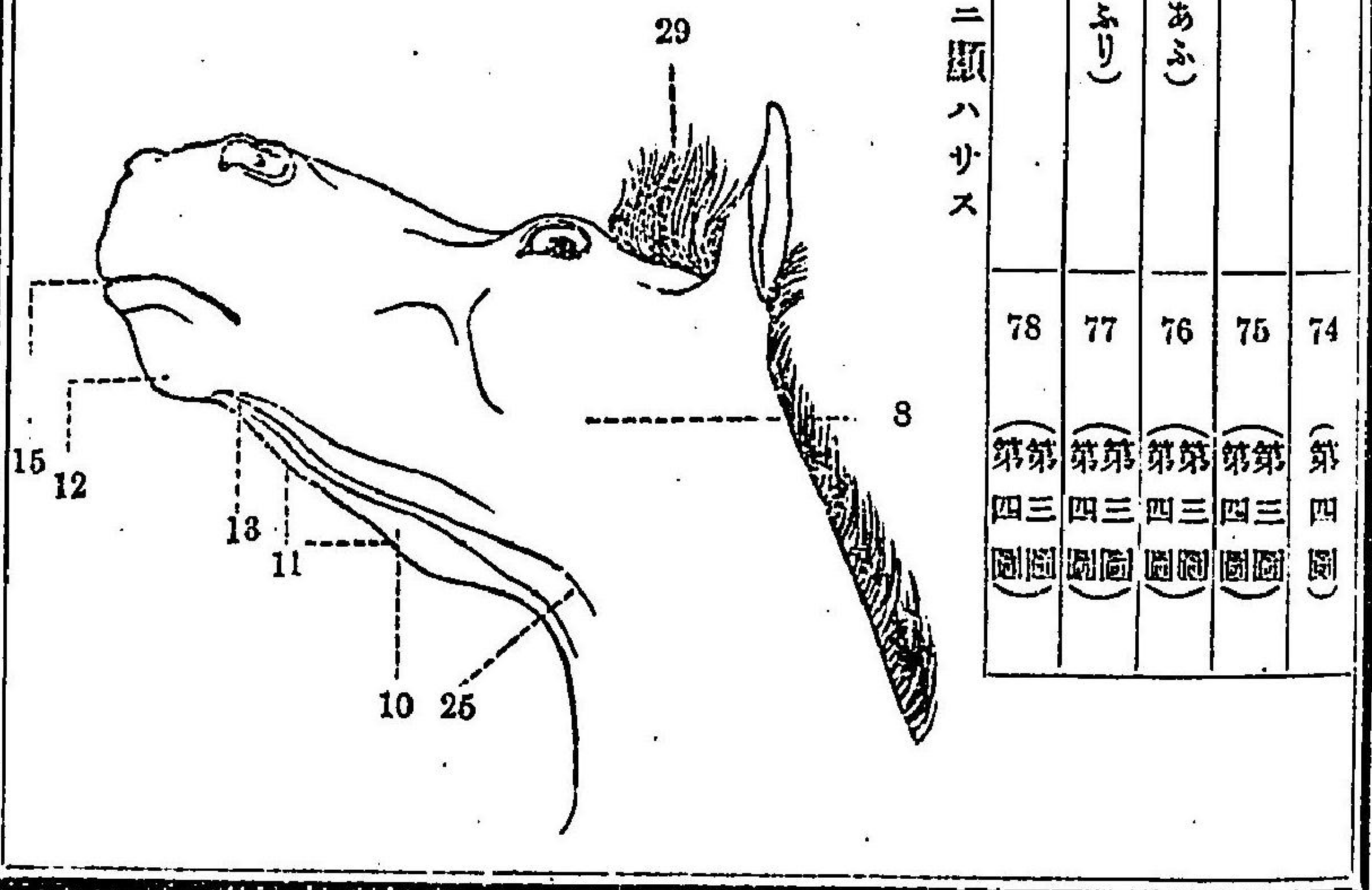
全		之	
部		部	
前	器殖生		
乳	牝		
腋	腋	腋	腋
腋	腋	腋	腋
胸	胸	胸	胸
腰	腰	腰	腰
尻	尻	尻	尻
腰	腰	腰	腰
背	背	背	背
脊	脊	脊	脊
股	股	股	股
腿	腿	腿	腿
頸	頸	頸	頸
頸	頸	頸	頸
咽	咽	咽	咽
耳	耳	耳	耳
項	項	項	項
口	口	口	口
舌	舌	舌	舌
舌	舌	舌	舌
滑	滑	滑	滑

全		之	
部		部	
前	器殖生		
乳	牝		
腋	腋	腋	腋
腋	腋	腋	腋
胸	胸	胸	胸
腰	腰	腰	腰
尻	尻	尻	尻
腰	腰	腰	腰
背	背	背	背
脊	脊	脊	脊
股	股	股	股
腿	腿	腿	腿
頸	頸	頸	頸
頸	頸	頸	頸
咽	咽	咽	咽
耳	耳	耳	耳
項	項	項	項
口	口	口	口
舌	舌	舌	舌
舌	舌	舌	舌
滑	滑	滑	滑

馬體外貌 圖一第



圖二第

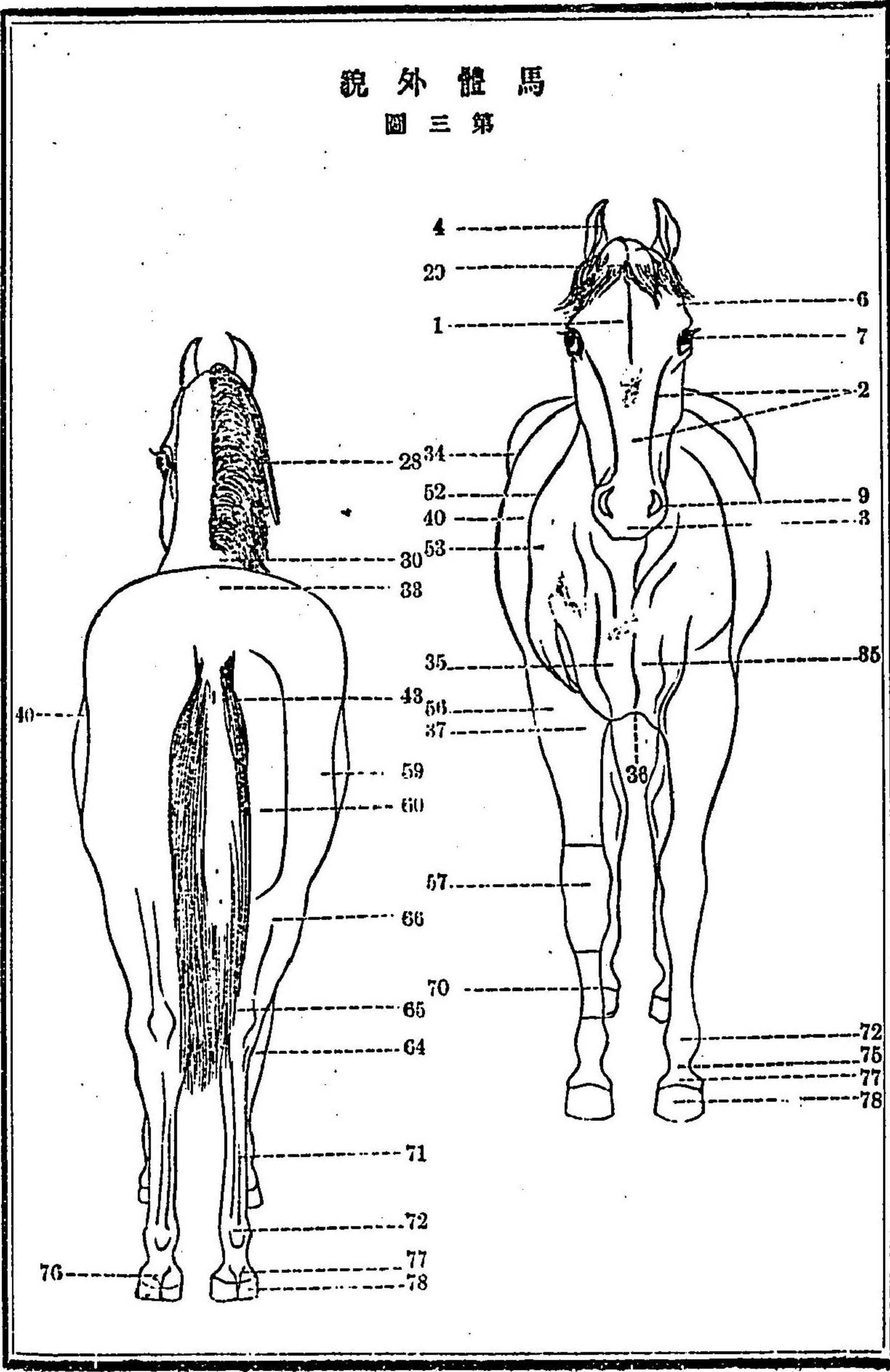


圖面符號ノ中

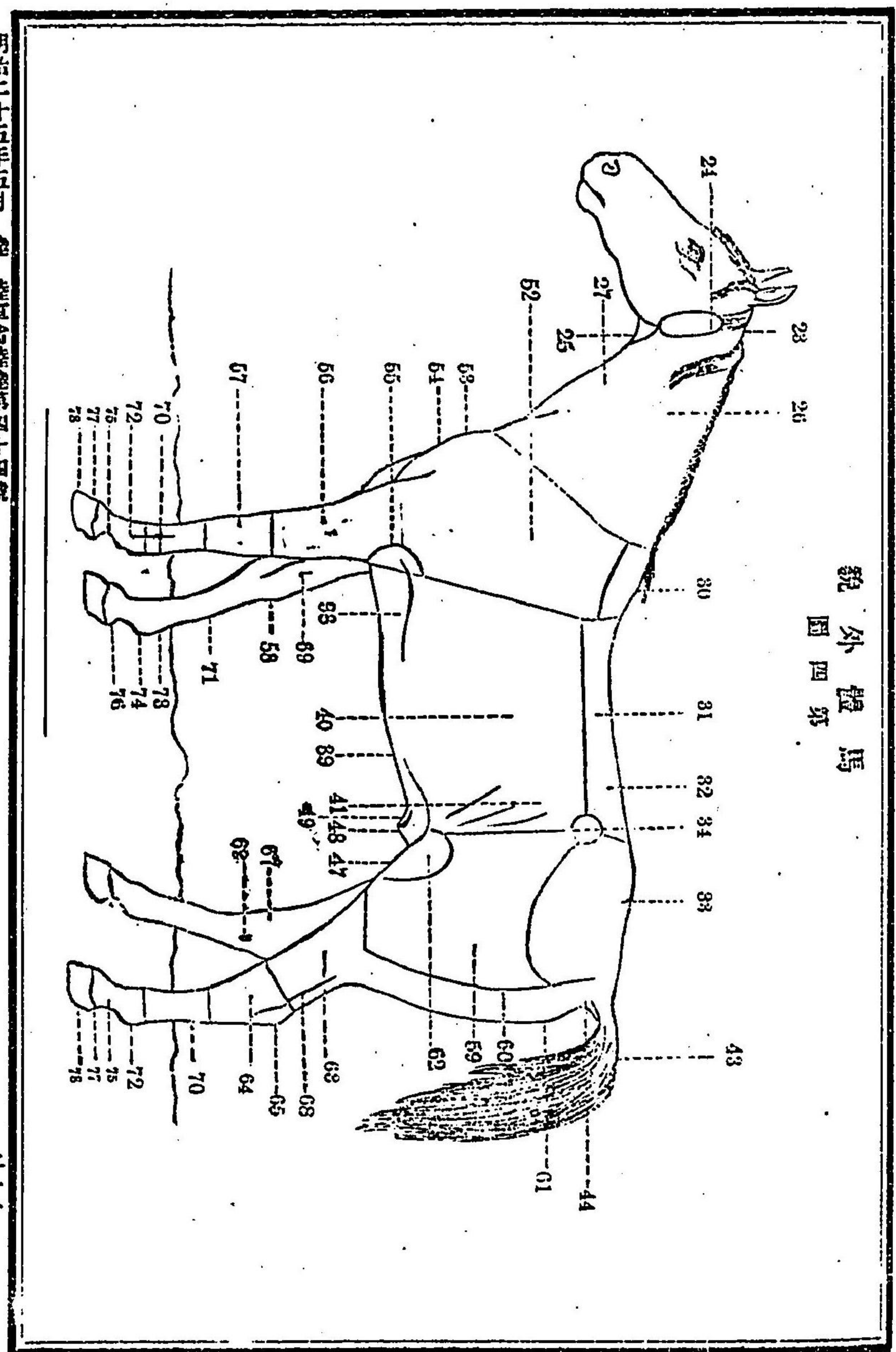
17. 蹄	蹄	鬃(鬃目)	鬃	距
18. 冠	冠	鬃(鬃目)	鬃	毛
19. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
20. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
21. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
22. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
23. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
24. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
25. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
26. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
27. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
28. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	
29. 鬃	鬃	鬃(鬃目)	鬃	

體																	
肢						肢											
後			前			肢			後								
距	球節	蹄	管	附(夜眼)	飛次	飛雙	飛綱	飛(馬頭)	飛節	脚(脛)	後膝	膝	髌	股	膝	膝	前
カシメ	キリシタキタ	ヒシ	クワン(クダ)	ヒゼン(ヒキ)	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒタシ(キリシタ)	ヒシ	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒキ	ヒキ
73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56
(第四圖)	(第三圖)	(第三圖)	(第三圖)	(第四圖)	(第四圖)	(第四圖)	(第三圖)	(第三圖)	(第三圖)	(第四圖)	(第四圖)	(第四圖)	(第三圖)	(第三圖)	(第四圖)	(第三圖)	(第三圖)

馬體外貌
圖三第



馬體外貌
圖四第



〔參照〕

明治十九年二月十日 陸軍省令第十一號ハ軍用乘馬資格其附圖ハ馬匹外貌ノ名稱ナリ

○陸軍第四十五號

村田騎銃ノ照星及照尺ヲ改正シ同歩兵銃實包ヲ應用ス

明治二十五年五月十九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

○海軍省達第三十一號

需品經理規程第二條中「測量用品及消耗品ハ鎮守府測器主管ヨリ供給シ」ノ二十一字ヲ刪除ス

明治二十五年五月十九日

海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省達第五十一號需品經理規程(明治二十四年三月二十三日)抄録

第二條 需品定額表中航海長主管ニ關スル測量用品及消耗品ハ鎮守府測器主管ヨリ供給シ圖書ハ鎮守府文庫ヨリ供給シ其他ノ需品ハ艦營需品倉庫ヨリ供給ス

○海軍省達第三十二號

艦團隊校廳需用品定額表中左ノ通改正ス

但數量表ハ第二局ヨリ送付セシム (改正文及數量表略ス)

明治二十五年五月十九日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第三十三號

兵備品測器定數表別表ノ通改正ス (別表略ス)

明治二十五年五月十九日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第三十四號

明治二十二年三月達第三百二十九號兵備品出納命令官武庫主管會計官吏表中艦營需品ノ部左ノ通改正

シ通常物品出納命令官會計官吏表中鎮守府ノ部品名ノ欄普通圖書ノ前ニ左ノ一行ヲ加フ
 明治二十五年五月十九日
 海軍大臣子爵樺山資紀

兵備品ノ部

品名	出納命令官	武庫主管會計官吏	艦營需品	
			圖書ヲ除ク	圖書ヲ除ク
	主計部長	主計部長	主計部長	主計部長
	×艦營需品倉庫主管	×艦營需品倉庫主管	×各地炭庫在勤書記	×各地炭庫在勤書記

通常物品ノ部

品名	出納命令官	會計官吏
鎮守府	測器修理用器	測器主管
器具器械及材料	測器主管	關係ノ中

○陸軍第四十六號

騎兵破壞器具別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

明治二十五年五月二十一日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

○海軍省達第三十五號

海軍少尉及相當官學術檢査規則第四條機技部檢査委員ノ部少技監一人ヲ少技監一人乃至四人ト改メ大機關士二人ヲ大機關士二人ト改メ大技士一人ヲ大技士一人乃至四人ト改ム

明治二十五年五月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第三十六號

大島定員職別表別表ノ通定ム

明治二十五年五月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

第二條ヲ刪除ス
 第四條第五條第六條第十三條第十四條第十六條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條中及營造物ノ四字ヲ總テ除ク
 第十條中「及營造物」ノ四字ヲ「ニ就テ」ノ三字ニ改ム
 第十二條ヲ左ノ如ク改ム
 第七條及第十條ノ調査書 修繕ハ五ハ工事ノ緩急ヲ精査シ緊急ノ廉ヨリ順次列記スヘシ

〔參照〕

陸軍省第三十三號陸軍營繕事務規程(明治二十四年九月二十一日)抄録
 第一條 此規程ハ陸軍所用ノ土地及建造物營造物ノ管理及其工事執行ノ方法ヲ規定ス但重要營繕砲臺及附屬建造物ニ係ル營繕事務ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ依ル
 第二條 此規程ニ於テ建造物ト稱スルハ家屋垣壁欄柵鐵柵等ヲ云ヒ營造物ト稱スルハ電信水道製作場等ノ如キ一定ノ目的ノ爲メノ建造物ヲ云フ
 第三條 新營トハ新設事業ノ爲メ又ハ編制替ノ結果其他建造物及營造物ノ毀壞燒失等ニ依リ新築増築改築等クハ模範營ヲ他土地購買等ノ類ヲ云フ
 第四條 修繕トハ建造物及營造物ノ全部若クハ其大部分毀壞ニ屬シ其他一小部ノ腐朽ニ方リ之レカ修繕ヲ要スルトキ其建造物及營造物ヲシテ住居若クハ其他ノ使用ニ適當ナラシムル爲メノ工事ヲ云フ
 第五條 建造物及營造物ハ監督部長之ヲ管理ス但憲兵及屯田兵ニ依ルモノハ該司令官砲兵工廠ハ該提理手住製鐵所ハ該所長トス
 第六條 營繕事務ハ前々年度九月十兩月ノ間ニ於テ部下監督官ハ第三條長及提理手ハ監督官及砲兵工廠ハ提理手トシテ管理ノ建造物及營造物ノ工事ヲ調査セシメ翌々年度ニ屬スル豫算ヲ計畫シ第七條第二項ノ期限內ニ進達スヘシ
 第七條 陸軍省主任課長ヨリ當該管理者ニ通牒シ各管理者ハ其概額ニ基キ當該年度ニ屬スル工事ノ總額ヲ精査シ緊急ノ廉ヨリ順次列記スヘシ
 第八條 總テ新營ニ係ルモノハ當該管理者ハ其建造物及營造物ノ圖面ヲ其使用スヘキ圖隊又ハ官廳長ニ通知シテ協議ヲ爲シ協議確定ノ上ハ該圖面ニ双方捺印スヘシ若シ其協議調ハサルトキハ陸軍大臣ノ裁決ヲ受クヘシ
 第九條 總テ現存ノ建造物及營造物ハ條例規則及編制替ノ結果ヨリ生ズルモノノ外ハ該物件ノ増減又ハ内外ノ模範營ヲ許サス但其保存上必要ノ模範營ハ此限外トス其模範營ヲ爲スハ陸軍大臣ノ許可ヲ要ス

第十六條 工事理由書ニハ起工ノ理由ヲ詳悉説明スヘシ但陸軍大臣ノ令達ニ係ルモノハ之ヲ要セス
 各圖面ニハ建造物及營造物ノ形状位置ヲ明記スルヲ例トスレトモ構造ノ紛雜ニ涉ルモノハ前後圖面ノ外向二十分一ノ割合ヲ以テ各部明細圖ヲ附製スヘシ
 第十七條 工事仕様書ニハ工事ノ計畫材料ノ品質等總テノ計畫ヲ詳記スヘシ
 第十八條 工事計算書ニハ工事ニ要スル諸材料ノ代價及其員數位職工人夫ノ工數賃金等詳記スヘシ
 第十九條 工事落成スルトキハ當該管理者ハ建築主任官ヲシテ建造物及營造物ノ履歴書式ニ依リテ調製セシメ工事落成當日ヨリ二十日以内ニ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ
 第二十條 既成ノ建造物及營造物ニシテ増築模範營若クハ修繕ヲ爲シ終リタルトキハ其箇所及金額ヲ第二號書式ニ依リ當該年度後三箇月以内ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 第二十一條 總テ建造物及營造物修理保存ノ注意ハ當該管理者ノ責任トス故ニ時々部下吏員ヲシテ現場ヲ巡視セシムヘシ
 第二十二條 建造物及營造物修理保存ノ注意ハ前條ノ如シト雖モ尚使用者ニ於テモ其保存ニ注意スヘシ故ニ修繕ヲ要スヘキ箇所ヲ認メタルトキハ當該官廳長又ハ隊長ヨリ當該管理者ニ照會スヘシ
 第二十三條 建造物及營造物ニ對スル工事土地掘削樹木伐採等ハ當該使用者ニ於テ之ヲ爲スヲ許サス

○陸軍第四十九號
 本年二月陸軍第六號陸軍報告例月報例目軍馬現數表ノ次ニ「徵兵令第十條現役志願者人員表」ノ一項ヲ加ヘ第三表ノ二ト爲シ月報様式末ニ別表ヲ追加ス
 明治二十五年五月三十一日
 陸軍大臣子爵高島綱之助

明治二十五年五月 陸軍省陸軍第四十九號

何年徵兵令第十條現役志願者人員表 師團司令部

月	兵種		格		計
	區	別	合	不合	
步兵第何聯隊	探	用	不探	用	
騎兵第何大隊	探	用	不探	用	

備考	計	報
一採用區畫ニハ服役ヲ許可シタルモノ不採用ノ區畫ニハ身體検査ニ合格スルモ志願兵タルノ實格ナキモノト認メ煩惑ヲ許可セサルモノヲ記スヘシ		、 、 、 、 、 、 、 、
二大隊區隊兵糧同檢査所ニ於テ検査シタル人員ハ合格不合格ヲ別ニ備考區畫中ニ記スヘシ		、 、 、 、 、 、 、 、
三採用區畫ニハ服役ヲ許可シタルモノ不採用ノ區畫ニハ身體検査ニ合格スルモ志願兵タルノ實格ナキモノト認メ煩惑ヲ許可セサルモノヲ記スヘシ		、 、 、 、 、 、 、 、
四採用區畫ニハ服役ヲ許可シタルモノ不採用ノ區畫ニハ身體検査ニ合格スルモ志願兵タルノ實格ナキモノト認メ煩惑ヲ許可セサルモノヲ記スヘシ		、 、 、 、 、 、 、 、
五採用區畫ニハ服役ヲ許可シタルモノ不採用ノ區畫ニハ身體検査ニ合格スルモ志願兵タルノ實格ナキモノト認メ煩惑ヲ許可セサルモノヲ記スヘシ		、 、 、 、 、 、 、 、

○海軍省達第三十九號
千島國樺提島留別ニ石炭庫ヲ置キ留別炭庫ト稱ス

明治二十五年五月三十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第四十號
患者費用規則第四條ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治二十五年五月三十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

但下士卒入院中現役ヲ離ル、ニ際シ重症ノ爲メ身體ノ運営自由ナラス衛生會議議長ニ於テ實際
退院セシメ難シト認定スルトキハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ經テ病症ノ輕快ニ至ルマテ本條ニ準
スルコトヲ得

〔参照〕

海軍省達第二百一號患者費用規則(明治二十二年六月十三日)抄録
第四條 生徒在校中下士卒現役中割病者ニ依リ軍醫ノ治療ヲ受クルトキハ其藥價及療用品ハ官費ト
ス又軍醫トシテ入院治療ヲ適當トシ所轄長ニ之ヲ認可シタルトキハ入院中ノ治療費材料及體廢取扱ニ係ル費用ハ總
テ官費トス

○陸軍第五十號

教導團ヨリ配賦スル下士ノ内各師團増設新設ニ要スル者ハ増設新設完成迄ヲ限り配賦後六箇月以
内其他ノ諸隊ニ要スル者ハ明治二十七年迄ヲ限り配賦後二箇月以内各隊編制表ノ定員ニ超過スル
コトヲ得ルコトニ定メラル

明治二十五年六月二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

○陸軍第五十一號

明治二十四年十月陸軍第四百十六號海岸砲砲煩履歴編纂規則中左ノ通改正ス
明治二十五年六月四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

海岸砲砲煩履歴表編纂規則中改正

第四條中「命中試驗成果表ヲ竣工試驗成果表ニ改ム」
第五條第六條及第七條ヲ別冊ノ如ク改メ第八條ヲ第十一條第九條ヲ第十二條ニ改ム以下之レニ
準ス
第十二條中「第二類砲煩履歴表ハ火砲ノ下ニ及ヒ砲床ヲ加ヘ」移轉及修理表ノ下ニ「並ニ砲床検査
及ヒ修理表ヲ加フ」
第十七條中「但シ移轉及ヒ修理表ノ下ニ並ニ砲床検査及ヒ修理表ヲ加フ」
第二十條中「火砲ヲ點檢シ且ツ腔中検査ノ下ニ及ヒ砲床検査(第八條ニ準ス)ヲ」中隊長腔中検査
表ノ下ニ「及ヒ砲床検査表ヲ加ヘ」記入ヲ完了ス」ノ下ニ「而シテ砲床ノ傾度一度ノ十分二以上ニ達
スルトキハ直ニ改築ノ手續ヲナスヘシ」ヲ加フ
第二十六條中「陸軍大臣ノ許可ヲ得テ」第六條及第七條ニ據リニ云々ヲ「附則第一條及第二條ニ據リ」
云々ニ改ム、但シ本試驗ニ在テハ云々」ノ一項ヲ削除ス
命中試驗成果表ヲ第一類砲煩履歴表トス

本則ノ終リニ左ノ二條ヲ加フ

附則

第一條 命中試験ハ加農ニ在テハ千米綫白砲ニ在テハ三千米榴彈砲ニ在テハ五千米ノ射程ニ於テ各々六發ヲ發射シテ其躲避ヲ精測ス

但シ十五珊米綫白砲ニ在テハ射程ヲ二千米九珊米綫白砲ニ在テハ千五百米トス

第二條 射場ノ地勢上止ヲ得サルトキハ前條ノ射程ヲ増減スルモ妨ケナク且ツ標的ノ尺度ハ全數必中ヲ目的トシテ定ムヘシ

(別冊)

第五條 第一類砲煩履歴表編纂ニ要スル検査及ヒ試験左ノ如シ

一 製造完成ノ後 砲煩一般ノ検査

二 一般検査ノ後 竣工試験

三 竣工試験ノ後 腔中検査

第六條 竣工試験ハ火砲ノ抗堪力砲架ノ機能砲床ノ抗堪力及ヒ緊塞具ノ作用ヲ檢スルニ在リ其發射ハ九發ニシテ之ヲ二次ニ分チ第一表ノ順序ニ由リ緊塞具射角及ヒ射線ノ方向ヲ變換シテ逐次施行シ且ツ毎次第一發ノ腔壓ヲ測定スヘシ

但シ九發中其三發ハ空射ニシテ緊塞具ヲ變換スル毎ニ之ヲ施行ス而シテ其藥量ハ第二表ノ如シ

第七條 竣工試験ニ於テ瓦斯漏逸セルトキハ其實射ト空射ナルトニ係ハラヌ該緊塞具ヲ引換ヘ更ニ該次ノ試験ヲ復行スヘシ

第八條 竣工試験中毎次ノ終ニ於テ砲床ヲ検査ス其法榴彈砲及ヒ白砲ニ在テハ晝度級ノ零位加農ニ在テハ射扇形ノ一端ニ於テ火砲ヲ水平ナラシメテ次ニ架匡ヲ回轉シ逐次四十五度毎ニ其水

平ヲ檢スヘシ而シテ其差一度ノ二十分一以上ニ達スルヲ許サス

但シ榴彈砲及ヒ白砲ニ在テハ其水平ヲ檢スル毎ニ必ラス架匡ヲ降下スヘシ

第九條 竣工試験第一次ノ終リニ於テ砲床ノ傾度一度ノ二十分一以上ニ達スルトキハ試験ヲ中止シ修繕ノ後續テ第二次ノ試験ヲ施行ス若シ第二次ノ終リニ於テ同上ノ傾度ヲ生スルトキハ修繕ノ後第一表ノ最大仰角ヲ以テ更ニ二發ノ試験射撃ヲ施行スヘシ

第十條 竣工試験ハ砲兵工廠検査官及ヒ當該砲兵方面支署長協議ノ上之ヲ施行スヘシ

(參照)

陸軍第四百十六號海岸砲煩履歴編纂規則(明治二十四年十月三十一日)抄録

第四條 第一類砲煩履歴表ハ製造時ノ狀況ヲ詳悉スルヲ以テ目的トシ砲煩一般検査表命中試験成果表及腔中検査表ヨリ成リ砲兵工廠検査官之ヲ編纂ス

第五條 第一類砲煩履歴表編纂ニ要スル検査及ヒ試験左ノ如シ

一 製造完成ノ後 砲煩一般検査

二 一般検査ノ後 命中試験

三 命中試験ノ後 腔中検査

第六條 命中試験ハ加農ニ在テハ千米綫白砲ニ在テハ三千米榴彈砲ニ在テハ五千米ノ射程ニ於テ各々六發ヲ發射シテ其躲避ヲ精測シ且ツ二發毎ニ緊塞具ヲ交換ス

但シ十五珊米綫白砲ニ在テハ射程ヲ二千米九珊米綫白砲ニ在テハ千五百米トス

第七條 砲架据付ノ後命中試験ヲ行フカ若クハ射場ノ地勢上止ヲ得サルトキハ前條ノ射程ヲ増減スルモ妨ケナク且ツ標的ノ尺度ハ全數必中ヲ目的トシテ定ムヘシ

第十二條 第二類砲煩履歴表ハ火砲狀況ノ變遷ヲ詳悉スルヲ目的トシ年次編纂ノ腔中検査表發射表移轉及ヒ修理表ヨリ成ル但シ使用セサル火砲ニシテ此限リニアラス

第十七條 中隊長ハ中隊附士官ヨリ出ス處ノ假表ニ依リ詳細復審ヲ遂ケ取捨折衷シテ第二類砲煩履歴表ヲ編纂ス但移轉及ヒ修理表ハ方面支署ニ於テ記入スルコトアルヘシ

第二十條 支署長若クハ其代理者ハ中隊長立會ノ上同官ノ編纂ニ係ル履歴表ニ照シテ火砲ヲ點檢シ且ツ腔中検査ヲ行ハシ其成績ニ依テ中隊長腔中検査表ノ記入ヲ完了ス

第二十六條 支隊長ハ前條ノ報告ヲ受ケルハ直ニ陸軍省ニ其成績ヲ方面提理ニ上申スルハ陸軍大臣ノ許可ヲ得
テ第六條及第七條ニ據リ命中試験ヲ施行シ之ヲ方面提理ニ報告シ方面提理ハ之ヲ陸軍大臣ニ上申ス
但本試験ニ在テハ緊要具ハ交換スルヲ要セス

○海軍省達第四十一號
淺間ヲ横須賀水雷隊攻撃部附屬ト定ム
明治二十五年六月八日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第四十二號
日進ヲ佐世保鎮守府海兵團附屬ト定ム
明治二十五年六月八日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第四十三號
吳鎮守府所管練習艦比叡第三檢査施行ニ付役務ヲ解カル
明治二十五年六月八日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍第五十二號

村田步兵銃照尺遊標ノ内部左側ニ小溝ヲ穿テ遊標發條ヲ裝置ス
但軍隊學校等ハ渡濟ノ分ハ該部修理ノ際各所管兵器費定額内ヲ以テ修正スルモノトス

明治二十五年六月十日 陸軍大臣子爵高島綱之助

○陸軍第五十三號
營内備附銃工器具中ハ柳杖溝掃除桿ヲ追加ス
明治二十五年六月十日 陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍大臣子爵高島綱之助

○海軍省達第四十四號
明治二十二年三月達第六十號中左ノ通改正ス

明治二十五年六月十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

第三項左ノ通改ム

一新履歴表ニ事項ヲ記入シタルトキ等級及進級善行章行狀等級乘艦入營退艦退營ノ件ハ體團
隊長及各廳長ノ捺印ヲ受ケ又進級試験及第總得點ニハ試験委員長ノ捺印ヲ受ケ其他ハ記入者
捺印スヘシ

第三項ノ次ニ左ノ項ヲ加フ

一徵兵現役滿期歸郷ノ節服役中ノ成績ハ行狀等級ノ欄ニ記入スヘシ
附表記入中砲術ノ欄ヨリ主廚學術ノ欄ニ至ル各欄ノ下七欄目ヨリ十三欄マテ左ノ通改ム (改正表
略ス)

〔参照〕

海軍省達第六十號(明治二十二年三月二十二日)抄録

下士卒履歴表取扱方左ノ通心得ヘシ

第三項

一新履歴表ニ事項ヲ記入シタルトキ等級及進級善行章行狀等級乘艦入營退艦退營ノ件ハ體團隊長及各廳長ノ捺印ヲ受ケ
其他ハ記入者捺印スヘシ

○海軍省達第四十五號

明治二十三年七月達第二百六十六號ヲ廢ス
明治二十五年六月十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

〔参照〕

海軍省達第二百六十六號(明治二十三年七月二十一日)

下士卒學術檢査規則第一條第二項ニ該ル者ヲ特別觀察セシムルトキハ左ノ成績表ヲ調製シ甲種團隊長ヨリ乙種團隊長
ハ送付スヘシ(表略ス)

○海軍省達第四十六號

常備艦隊軍艦大和修理ニ付常備艦隊ヨリ解カル
明治二十五年六月十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第四十七號
吳鎮守府所管警備艦千代田ヲ常備艦隊ニ編入セラル

明治二十五年六月十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍省第五十四號

砲臺出入規則左ノ通改正ス

明治二十五年六月十三日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

砲臺出入規則

第一條 凡ソ砲臺ニ出入セント欲スルモノハ陸軍大臣ニ出願シ其許可ヲ經ヘシ

第二條 左ニ掲クル諸官職務ノタメ砲臺内ニ出入スルヲ要スルトキハ前條ノ手續ヲ經ルヲ要セ

陸軍次官 軍務局長 陸軍省副官 軍務局第一軍事課長 同局砲工兵事務課將校
砲工兵會議將校 大阪砲兵工廠將校
參謀總長 參謀次長 參謀本部第一局第二局將校 參謀本部副官

監軍 監軍部參謀長 同參謀 同副官 要塞砲兵監 同副官

海軍次官 海軍大臣傳令使 海軍參謀部長 同傳令使 海軍參謀部第一課第二課將校

第三條 左ニ掲クル諸官職務ノ爲メ砲臺内ニ出入スルヲ要スルトキハ管内ノ砲臺ニ限り第一條ノ手續ヲ經ルヲ要セ

師團長 同參謀長 同參謀 同副官

屯田兵司令官 同副司令官 同參謀 同副官
鎮守府司令官 同參謀長 同參謀 同傳令使

軍港司令官 同傳令使 同副官 要港司令官 同副官

第四條 師團長及屯田兵司令官ハ管内ノ砲臺ニ限り部下將校ノ職務上必要ト認定スルトキハ出入ヲ許可スルコトヲ得

砲工兵會議々長ハ試驗其他防禦上ノ實査ニ關シ所要ノ人員ヲ砲臺内ニ出入セシムルコトヲ得
大阪砲兵工廠提理ハ試驗射擊若クハ備砲檢査ニ關シ所要ノ人員ヲ砲臺内へ出入セシムルコトヲ得

第五條 前三條ニ依リ砲臺ニ入ラントスルトキハ其所管ヨリ砲臺所管ノ工兵方面提理若クハ同支署長ニ通知スヘシ

第六條 砲工兵方面提理同支署長及同官僚ハ所管砲臺ニ限り第一條ノ手續キヲ經スシテ出入シ且ツ工作若クハ備砲ニ關シ所要人員ヲ出入セシムルコトヲ得

警備隊司令官要塞砲兵隊長警備隊砲兵隊長ハ管内ノ砲臺ニ限り第一條ノ手續ヲ經スシテ出入シ且ツ其部下將校下士卒ヲ出入セシムルコトヲ得

第七條 舊砲臺ハ本則ニ據ラス

○陸軍省第五十五號

要塞堡壘砲臺圖籍取扱規則左ノ通定ム

明治二十五年六月十三日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

要塞堡壘砲臺圖籍取扱規則

第一條 要塞堡壘砲臺ニ關スル圖籍ハ國防ノ機務ニ涉リ取扱上最モ嚴密ヲ要スヘキ者タルカ故ニ爰ニ其貯藏及保管ノ方法ヲ規定ス

第二條 左ノ諸官衙ニ在テハ全國内ノ要塞堡壘砲臺ニ關スル圖籍ヲ貯藏シ得ヘシ
陸軍省軍務局砲工兵事務課 砲工兵會議

參謀本部第二局

海軍參謀部第二課(海防ニ係ルモノニ限ル)

第三條 左ノ諸官衙ニ在テハ管内ニ在ル要塞、堡壘、砲臺ニ關スル圖籍ニ限リ之ヲ貯藏シ得ヘシ

師團司令部

屯田兵司令部

警備隊司令部

砲兵方面本署及要塞地ノ同支署

工兵方面本署及同支署

鎮守府

第四條 前二條ニ掲グル官衙ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ該圖籍ヲ貯藏スルヲ得ス若シ他ニ必要

ノ事件アルトキハ陸軍大臣ニ申請シ大臣參謀總長ト協議ノ上其許否ヲ決ス

第五條 該圖籍ノ保管ハ各官衙長官ノ責任トス故ニ部下將校ノ中ニ就キ適當ノ主任官ヲ定メ他人

ヲシテ猥ニ其出納等總テ取扱ヲ爲サシム可ラス

第六條 各官衙ノ長官ハ職務上必要ノ關係アル將校及高等官ニハ該圖籍ノ閱覽ヲ許スヲ得可シ

第七條 各官衙長官ハ其官衙ノ必要アルニ際シテハ該圖籍ヲ謄寫スルヲ得但シ其他ハ何人タリト

雖トモ之ヲ謄寫スルヲ許スヘカラス

○陸軍第五十六號

鍛冶谷澤軍馬育成所支所ヲ福島縣下西白川郡西鄉村ニ置キ鍛冶谷澤軍馬育成所追原支所ト稱ス

明治二十五年六月十六日

陸軍大臣子爵高島勲之助

○陸軍第五十七號

本年經理學校監督學生ハ四名軍吏學生ハ二十名ヲ召集ス

明治二十五年六月十七日

陸軍大臣子爵高島勲之助

○海軍省達第四十八號

軍艦統波、海門、天城、鳳翔定員職別表中備考ノ欄左ノ通改正ス

明治二十五年六月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

備	五等水兵五等火夫ヲ練習ノ爲メ乘艦セシムルトキハ其練習人員以內ノ卒ヲ定員中ヨリ減 少スルモノトス
考	掌船長屬中一人ハ水雷術卒業ノ者ヲ以テ之ニ充テ水雷長屬ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ 得

○海軍省達第四十九號

掌砲兵、掌水雷兵及水雷工業ヲ卒業シタル機關手、火夫配置表中兵學校ノ欄左ノ通改正ス

明治二十五年六月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

艦隊校名	掌 砲 兵	掌 水 雷 兵	水雷工業ヲ卒業シ タル機關手、火夫
兵 學 校	十 二 人	五 人	二 人

○陸軍第五十八號

左ノ通近衛第一及第二師團へ相達候條此旨心得ヘシ

明治二十五年六月二十二日

陸軍大臣子爵高島勲之助

本年秋季ニ第一第二師管下ニ於テ近衛第一及第二師團ヲ以テ特別大演習ヲ施行セラル

○海軍省達第五十號

歳入歳出豫算事務順序左ノ通定メ其第一條乃至第十條及第十四條ハ明治二十六年年度豫算ヨリ施行

ス但歳入歳出豫算調理規程ハ本順序施行ノ日ヨリ廢ス

明治二十五年六月二十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

歳入歳出豫算事務順序

第一條 歳入歳出豫算ハ第三局長之ヲ統理シ豫算ニ關スル行務ノ成績ニ就テハ各局長各主務事項ニ對シ共責ニ任ス

第二條 鎮守府司令長官各廳長ハ翌々年度ノ施行ニ係ル事項中左ニ掲クル費途ニ對シテハ入費概算書ヲ作り令示ノ期日マテニ各主務局長ヘ出スヘシ

歳出經常部

修繕費、艦營需品費、兵器彈藥及水雷費、造船及修理費、囚徒費、廳費、雜給

歳出臨時部

土木費、營繕費、受託造船費

鎮守府司令長官其他各廳長ハ翌々年度ニ係ル歳入概算書ヲ作り令示ノ期日マテニ第三局長ニ出スヘシ

第三條 各局長ハ翌々年度ニ係ル主務事項ニ就キ事項調書ヲ作り之ニ事項ノ興廢伸縮ニ關スル理由ヲ詳記シ令示ノ期日マテニ大臣ニ出スヘシ

第四條 參謀部長ハ前條事項調書ノ例ニ倣ヒ翌々年度ニ係ル艦船役務書ヲ作り之ニ艦船ノ役務進退及航海其他歳出ノ増減ニ關スヘキ計畫事項ヲ記載シ令示ノ期日マテニ大臣ニ出スヘシ

第五條 歳入歳出ノ豫算ハ豫算會議ニ於テ大臣之ヲ決定シ豫算會議ニハ左ノ職員ヲ列セシム但須要ニ依リ中央衛生會議議長中央會計監督部長又ハ主務課長ヲ參列セシムルコトアルヘシ

次官

參謀部長

局長 豫算會議ハ分テ第一會議第二會議第三會議トス

第一會議ニ於テハ參謀部長及各局長ヨリ提出シタル事項施行ノ可否及其伸縮興廢ヲ審議ス

第二會議ニ於テハ第七條ニ掲クル豫算事項表及其概算書並ニ同條ニ掲クル歳入歳出豫算概算書ヲ審議ス

第三會議ニ於テハ第八條ニ掲クル歳入歳出豫算概算書ヲ審議決定ス

第七條 第一會議ニ於テ翌々年度ノ施行ニ係ル事項決定ニ至ルトキハ第三局長ハ決定事項ニ基キ豫算事項表ヲ作り之ニ概算書ヲ添ヘ七日以内ニ大臣ニ出スヘシ

第三局長ハ海軍全般ノ歳入歳出豫算概算書ヲ作り前項ノ豫算事項表ヲ提出スルト同時ニ大臣ニ出スヘシ

第八條 第二會議ニ於テ豫算事項表及其概算並歳入歳出豫算概算決定ニ至ルトキハ第三局長ハ決定概算ニ基キ歳入歳出豫算概算書ヲ作り七日以内ニ大臣ニ出スヘシ

第九條 第三會議ニ於テ歳入歳出豫算概算書決定ニ至ルトキハ第三局長ハ其決定概算書ニ依リ式ノ如ク之ヲ調製シ大臣ニ送附ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 歳入歳出豫算概算書内閣ニ於テ決定セラレタルトキハ第三局長ハ歳出概算額ニ基キ豫定經費要求額及其各自明細書ヲ式ノ如ク調製シ説明上必要ナル參考書類ヲ添附シ前年度六月三十日迄ニ大臣ニ送附ノ手續ヲ爲スヘシ

内閣ニ於テ決定セラレタル概算書第三會議ニ於テ決定シタル事項ト異動ヲ生シタルトキハ大臣ハ更ニ豫算會議ヲ開キ事項ノ伸縮興廢ヲ審議セシメ第三局長ハ其審議決定ニ基キ概算書ヲ作り會議ノ審議決定ニ附スルモノトス

第十一條 豫算公布セラレタルトキハ第三局長ハ收入額ヲ收入ヲ監督スル官吏ニ令示ノ手續ヲ爲シ歳出ハ委任仕拂命令官毎ニ仕拂豫算額ヲ定メ式ノ如ク明細豫算書ヲ調製シ委任仕拂命令官ニ令示ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 鎮守府司令長官及各廳長ハ豫算ノ令示アリタルトキハ豫算ニ依リ定メラントル事項ノ執行ヲ監視シ其成績ニ就キ責ニ任ス

各委任仕拂命令官ハ前條ニ依リ仕拂豫算ノ令示ヲ受クルトキハ常ニ支出ノ景況ヲ調査シ之レカ
結了ヲ全カラシムルヲ要ス

第十三條 第三局長ハ鎮守府及各廳ニ於ケル仕拂豫算ノ成績及支出ノ景況ヲ調査シ豫算ニ依リ定
メラレタル行務ニ應シ經費ノ支出ヲ監視スルヲ要ス

第十四條 死亡賜金死傷手当其他臨時ノ支出ニ屬スル費途若クハ豫備額トシテ須要ニ應シ配付ヲ
要スル費途ヲ除クノ外ハ委任仕拂命令官ハ第十一條ノ令示豫算額内ニ於テ處辨シ臨時増額ヲ請
求スルヲ得ス但豫備額トシテ臨時ニ交附ヲ要スル費途ノ種類ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 豫算ニ依リ定メラレタル費途中現ニ減少シ若クハ増加スヘキノ事實ヲ生セントキハ委
任仕拂命令官ニ於テ速ニ其金額科目並事由ヲ詳記シテ具申スヘシ

第十六條 委任仕拂命令官ハ豫算額ニ對シ目節ノ金額ヲ彼是流用セントスルトキハ金額並事由ヲ
詳記シ第三局長ノ承認ヲ受クヘシ但俸給及諸給ノ各節ハ委任仕拂命令官ニ於テ彼是流用シ其金
額科目及事由ヲ詳具シ其都度第二局長ニ報告スヘシ

鎮守府委任仕拂命令官ハ本府經費ト艦隊經費トヲ彼是流用スルコトヲ得
鎮守府委任仕拂命令官ハ艦隊經費ヨリ項目節増減ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト思料
シタルトキハ艦隊經費豫算各項目節中ニ於テ處辨スヘシ

第十七條 收入ヲ監督スル官吏ハ第十一條ノ令示豫算ニ對シ其年度末日マテニ測定ヲナシタル金
額ニ比シ増減アリシトキハ其理由ヲ詳記シ豫算令示額測定額對照表ヲ作り年度經過後十日マ
テニ第三局長ニ報告スヘシ

第十八條 鎮守府及各廳ニ於テ豫備金ノ支出ヲ要スヘキ事項ヲ生セントキハ其金額科目並其要求ノ
理由ヲ附記シ式ノ如ク請求書ヲ作り之ヲ第三局長ニ送附スヘシ第三局長ハ其請求書並要求ノ主旨
ヲ調査シ適當ト思料シタルトキハ更ニ式ノ如ク請求書ヲ調製シ大藏大臣ニ照會ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 委任仕拂命令官ニ於テ會計法第二十一條及第二十二條ニ依リ翌年度ニ繰越使用ヲ要ス
ルモノアルトキハ年度經過後十日以内ニ會計規則第五十七條及第五十八條ニ依リ記載スヘキ事
項ヲ記入シタル繰越計算書ヲ作り第三局長ニ送附スヘシ但同項中ニ繰越ヲ要スル金額ト同規則

第四十四條ニ依ルヘキ支出未済ノ金額トアルトキハ其金額ヲ區分記載スヘシ

第二十條 第三局長前條ノ書類ヲ受クルトキハ之ヲ調査シ適當ト思料シタルトキハ式ノ如ク繰越
計算書ヲ調製シ年度經過後一箇月以内ニ大藏大臣ニ照會ノ手續ヲナシ其承認ヲ得タルトキハ更
ニ委任仕拂命令官毎ニ繰越仕譯書ヲ作り令示ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 此事務順序ニ依リ作ルヘキ様式ハ第三局長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

○海軍省達第五十一號
艦隊校應需用品定額表中左ノ通改正ス
但數量表ハ第二局ヨリ送付セシム (改正及數量表略ス)

明治二十五年六月二十三日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十二號
橫須賀鎮守府所管軍艦筑波ヲ練習艦ト定メラル

明治二十五年六月二十三日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十三號
橫須賀鎮守府所管練習艦筑波ヲ當分ノ内吳鎮守府ノ役務ニ從事セシメラル

明治二十五年六月二十三日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十四號
明治二十二年達第百十九號但書ヲ删除ス

明治二十五年六月二十三日
海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省達第百十九號(明治二十二年五月三日) アキツシヤ
横須賀海軍造船所ニ於テ製造スヘキ防禦巡洋艦ヲ秋津洲ト命名セラル
但命名式相濟マテハ假名ト心得ヘシ

○宮内省達甲第四號

明治二十二年十二月達第二十二號學習院官制中院長ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十五年六月三十日

奉 勅

學習院次長 現任院長ノ次等以下

院長ヲ輔ケ院務ヲ整理ス

宮内大臣子爵土方久元

○陸達第五十九號

陸軍經理學校學生召集規則中監督學生志願者入學願書差出期限並ニ各監督部長ヨリ該志願者ヲ經理局長ニ呈スル期限ハ本年ニ限り第四條ノ期限ヲ七月盡日迄第五條ノ期限ヲ八月盡日迄延期ス

明治二十五年六月三十日

陸軍大臣子爵高島綱之助

〔參照〕

陸達第二百二號陸軍經理學校學生召集規則(明治二十三年十一月七日)抄録
第四條 監督學生ノ志願者ハ六月盡日迄ニ入學願書ヲ聯隊長(聯隊長以下ノ名ニアルモノ)又ハ所屬長官ニ出ス可シ聯隊長又ハ所屬長官之ヲ調査シ監督勤務ニ適當ト認ムル者ハ其願書ニ志願者ニ在リテハ其願書ヨリ局長ニ呈シ該局長ニ移ス可シ
第五條 常設監督部長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ當該志願者ニ係ル自己ノ意見ヲ附シ又下軍吏中監督學生ニ適當ト認ムル者アルトキハ之ヲ選抜シ其書類ト共ニ七月盡日迄ニ之ヲ陸軍省會計局長ニ呈ス可シ
陸軍省内ノ軍吏ニ在リテハ會計局長ニ選抜シテ其書類ヲ直ニ會計局長ニ呈ス可シ

各官廳

本月十一日ヨリ來ル九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜フ但明治七年七月第八十四號達ノ通心得ヘシ
休暇中内閣ニ於テハ要急事務ノ外ハ取扱ハサルヘシ

明治二十五年七月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

〔參照〕

太政官第八十四號達(明治七年七月三日)
本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員休暇ヲ賜候條各員申合御用差支無之候可致尤賜暇中旅行ノ儀モ裁差許候間其行先可届出
此旨相達候事
但各廳共長官ヨリ御用ノ都合見計休暇可申達事

○陸達第六十號

停年名簿編纂規則左ノ通定ム

但明治二十二年六月陸達第百五號達廢止ス

明治二十五年七月一日

陸軍大臣子爵高島綱之助

停年名簿編纂規則

- 第一條 停年名簿ハ分ツテ實役停年名簿服役停年名簿ノ二種トシ毎年七月一日ヲ以テ編纂ス
- 第二條 實役停年名簿ハ現役將校同相當官現官ノ實役年數ニ應シ左ノ區別ニ從フ
 - 一 將官同相當官ハ各官ニ區分ス
 - 二 步騎砲工輜重兵科ノ大尉以上及憲兵屯田諸兵科監督衛生獸醫軍吏軍樂部ノ上長官士官ハ各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス
 - 三 步騎砲工輜重兵科ノ中少尉ハ各將校團毎ニ各官ニ區分ス
- 第三條 服役停年名簿ハ豫備後備將校同相當官現官ノ服役年數ニ應シ左ノ區別ニ從フ
 - 一 將官同相當官ハ各官ニ區分ス

二 各兵科及監督衛生獸醫軍吏軍樂部ノ上長官士官ハ各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

第四條 同日同官ニ任官ノ者ハ任官ノ順序ニ依ル
轉科ノ者ハ原兵科ノ停年ヲ通算シテ列次ヲ定メ共同停年者アルトキハ原兵科ノ列次ニ從フ
豫備後備各官ノ列次ハ現役職トモ豫備後備服役合計年ノ多ニ從フ
豫備見習士官ヨリ任官シタル少尉也田諸兵ニシテ同日任官ノ者アルトキハ其年長ニ依リ列次ヲ定ム

第五條 實役停年ノ算法ハ辭令書日附ノ日ヨリ起シ曆年月及日數ヲ以テス其端日數ハ通算シテ起算ノ月ノ日數ニ滿ツルモノヲ一箇月ニ積算ス尙休職停職及就職等ノ爲メ端日數ヲ生スルトキハ逐次各其月ノ日數ニ滿ルヲ以テ一箇月トス

第六條 休職停職ノ將校同相當官ハ實役停年名簿ノ末尾ニ將官同相當官各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

〔參照〕

明治二十二年六月四日陸軍省第五號達ハ停年名簿編纂規則ナリ

○海軍省達第五十五號

海軍准士官下士増修規則第三條中「ナシ」ノ下ニ「又待命休職停職及收禁處刑中ノ者ハ増修スルコトナシ」ノ二十四字ヲ加ヘ第六條中「休職收禁處刑」ヲ「待命休職停職收禁處刑」ト改ム
明治二十五年七月二十二日 海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省令第九十九號海軍准士官下士増修規則(明治十九年十月九日)抄録

第三條 增修資格ヲ備フル者ト雖モ職務勤惰技能進歩行狀方正ナル者ニ非サレハ増修スルコトナシ

第六條 休職收禁處刑及自己ノ願ニ依リ停年中ノ日數ハ實役停年ニ算入スルヲ得ス

○海軍省達第五十六號

治療品出納規程第二表療用品定數年額及保存期表甲第一ニ左ノ備考ヲ追加ス
明治二十五年七月二十二日 海軍大臣子爵樺山資紀

備考 砲術練習艦ニ限リ携帶藥籠一具及携帶外科藥一箇ヲ増加スルコトヲ得

○海軍省達第五十七號

造船工務規程左ノ通定ム
明治二十五年七月二十三日 海軍大臣子爵樺山資紀

造船工務規程

第一章 職工

第一條 職工ノ年齡ハ滿十六年以上滿五十五年マテトス但特別ノ工業者ヲ要スルトキハ滿十四年以上又ハ五十五年以上ノ者ヲ採用スルコトヲ得

第二條 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ職工ニ使役スルコトヲ得ス

第三條 職工賃金ノ等級及其日給額ヲ定ムルコト左ノ如シ但職工總人員ノ賃金ハ一人ニ付平均三拾五錢ヲ超過スルコトヲ得ス

一 等	壹圓四拾錢	二 等	壹圓三拾錢
三 等	壹圓貳拾錢	四 等	壹圓拾錢
五 等	壹圓	六 等	九拾五錢
七 等	九拾錢	八 等	八拾五錢

九 等	八拾錢	十 等	十二等	七拾五錢
十一 等	七拾錢	十一 等	十四等	六拾五錢
十三 等	六拾錢	十二 等	十六等	五拾五錢
十五 等	五拾錢	十三 等	十八等	四拾五錢
十七 等	四拾錢	十四 等	二十等	三拾五錢
十九 等	三拾錢	十五 等	二十二等	貳拾五錢
二十一 等	貳拾錢	十六 等	二十四等	拾八錢
二十三 等	拾六錢	十七 等	二十六等	拾四錢
二十五 等	拾貳錢	十八 等		拾錢

第四條 職工ノ定例休業日ハ左ノ如シ

大祭祝日

日曜日

新年宴會

新造軍艦命名式施行ノ翌日

十二月二十九日ヨリ一月四日迄

第二章 工場及建物

第五條 造船部ニ左ノ工場ヲ置ク但工場ハ其設置ヲ必要トスルニ至リ漸次之ヲ創置シ其都度鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ

製圖工場	造船工場	船渠工場	機械工場
鍊鐵工場	鑄造工場	製罐工場	船具工場

第六條 造船部及材料倉庫ニ屬スル各建物及各工場ニ屬スル諸機械ハ總テ公稱番號ヲ附シ圖面及

目録ニ記載スヘシ但諸機械ハ各工場毎ニ區別シ番號ヲ附スヘシ

第七條 左ニ掲グル場合ニ於テ鎮守府司令長官ハ計畫全體ノ圖案、起工竣工ノ期限及入費概算書ヲ添ヘ海軍大臣ニ稟申スヘシ

- 一、造船工業所ヲ新設セントスルトキ
 - 二、造船部及材料倉庫ニ屬スル諸建物並ニ船渠船臺艦船引揚臺ヲ新設改造セントスルトキ
 - 三、造船部製造用諸機械ヲ購入、製造若クハ改造セントスルトキ
- 第八條 造船部製造用ノ諸機械ヲ廢却セントスルトキハ鎮守府司令長官ハ其都度海軍大臣ニ伺出ヘシ

第九條 造船部各工場等ニ附屬スル諸機械ノ現配置圖面及其明細ハ第一號書式ニ依リ毎年四月鎮守府ヨリ第二局ニ報告スヘシ

第十條 造船部及材料倉庫附屬ノ諸建物船渠船臺艦船引揚臺鐵道等其他工場或ハ建物外ニアル造船用諸機械ノ現配置圖面、艦船電力試驗標柱位置並ニ距離ヲ示シタル圖面、造船部ノ境域ヲ示シタル圖面及諸建物ノ明細ハ第二號書式ニ依リ又船渠船臺ノ明細ハ第三號甲乙表式ニ依リ毎年四月鎮守府ヨリ第二局ニ報告スヘシ

第三章 報告

第十一條 鎮守府司令長官ハ毎年度四月ニ於テ其年度中ノ造船部工業程度ヲ第四號表式ニ依リ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條 鎮守府司令長官ハ毎年度四月ニ於テ該年度ニ要スル造船材料ノ數量及價格ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條 鎮守府ハ造船部ニ於テ製造修理スル艦船其他同部工業ニ關スル費用ノ實算、職工ノ員數賃金及各工業ニ使用シタル材料ノ數量價格等ニ就キ左ノ件々ヲ所定ノ各表式ニ依リ第二局ニ

- 報告スヘシ但第一、第二、第四ノ事項ハ毎月報告シ其他ハ毎年四月ニ報告スルモノトス
- 一、新造ノ軍艦水雷艇其他臨時部ノ製造費ヲ以テ新造スル船舶ノ實算等(第五號表式)
 - 二、軍事費中ノ製造修理費ノ實算等(第六號甲乙丙表式)
 - 三、軍事費中ノ製造用具機械費ノ實算等(第七號甲乙丙表式)
 - 四、使役職工ノ員數及賃金額(第八號表式)
 - 五、前年度中ニ施行シタル受託艦船造修費ノ實算等(第九號表式)
 - 六、前年度中ニ施行シタル海軍部内依託工事其他造船部ノ職工ヲ使役シタル各工事ノ實算等(第十號表式)
 - 七、前年度中造船部ノ各工業ニ使用シタル材料ノ數量及價格(第十一號表式)
- 第十四條 鎮守府ニ於テ艦船附屬物品ヲ除クテ減却或ハ廢却シタルトキハ其都度其明細及價格ヲ第二局ニ報告スヘシ
- 第四章 受託艦船

第十五條 受託艦船ノ入渠噸數ハ左ノ式ニ依リ算定シ之ニ對スル船渠料ハ左表ニ依リ徵收スヘシ但尺度ハ總テ米突ヲ用フヘシ

艦船入渠噸數算式

入渠噸數ハ長幅深ヲ相乘シ得ル處ノ積ヲ三、八ニテ除ク

長ハ單甲板ノ艦船ニテハ甲板内部ノ長、二層以上ノ甲板ヲ有スル艦船ニテハ最上甲板内部ノ長サト船脊骨ノ保船船尾骨ノ後面ヨリ船ノ前部ニ於テ長サトノ平均トス

幅ハ船肋ノ内面ヨリ内面マテノ最大幅トス

深ハ船梁ノ中央頂ヨリ船床ノ頂上マテハ其上面マテキハ其上面マテキノ深サトス

艦船入渠料表

噸數	三日間以上ノ船渠料	四日以下ノ船渠料
三百噸以下	四五〇圓	四五〇圓
三百噸以上四百噸以下	四七〇圓	四五〇圓
四百噸以上五百噸以下	四九〇圓	四五〇圓
五百噸以上六百噸以下	五〇〇圓	四五〇圓
六百噸以上七百噸以下	五三〇圓	四五〇圓
七百噸以上八百噸以下	五六〇圓	四五〇圓
八百噸以上九百噸以下	五九〇圓	四五〇圓
九百噸以上一千噸以下	六二〇圓	四五〇圓
一千噸以上一千二百噸以下	六五〇圓	四五〇圓
一千二百噸以上	六八〇圓	四五〇圓

船渠料ハ日曜日公休日及風雨ノ日等造船部ノ都合ニ依リ入渠艦船ノ工事ヲナサ、ル日及出渠ノ日ハ徵收セズ

平口、日曜日及公休日ト雖モ入渠艦船ニ於テ工事ヲ施行スルトキハ造船部ノ職工ヲ使用スルト否トニ關ラズ船渠料ヲ徵收ス又船底乾燥ノ爲メ工事ヲ爲サ、ル日及船底検査ノ爲メ艦船ノ都合ニ依リ工事ヲ見合ストキモ船渠料ヲ徵收ス又無届ニテ入渠期日ニ廻船入渠セサルトキハ其日入渠準備ノ爲メニ費シタル費用ヲ徵收ス艦船ノ要求ニ依リ船渠内盤木ノ位置ヲ變更スルトキハ船渠料ノ外之ニ關スル費用ヲ徵收ス

第十六條 受託艦船造修ニ使用スル諸機械料ハ左表ニ依リ徵收スヘシ

諸機械使用料表

機械種類	使用料
汽鍋、汽機、及起重器	一時間ニ付 貳〇〇〇圓
鋸、鑽、及並給機器	成量一キログラムニ付 〇、壹〇〇圓
右ノ外諸機械並ニ小燈	一時間ニ付 〇、壹〇〇圓
一時間未満ノ端數ハ一時間ニ繰上ケ計算ス	

第十七條 受托艦船造修ニ使用スル船舫料ハ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ニ届出ヘシ
第十八條 受托艦船心得ニ關スル事項ハ總テ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ニ届出ヘシ
(第一號乃至第十一號舊式及表式略ス)

○陸軍第六十一號

七珊米野山砲用複働信管發機ニ螺線發條ヲ加フ

明治二十五年七月二十六日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

○陸軍第六十二號

村田銃實包及空包材料中紙塞ノ寸度ヲ徑十二密米厚サ一密米ニ實包ノ全長ヲ七十八密米ニ改メ空包ニハ紙塞一枚ヲ用ユ
但既製ノ分ハ其儘應用ス可シ

明治二十五年七月二十六日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

○陸軍第六十三號

陸軍給與令細則及屯田兵給與令細則中左ノ通改正ス

明治二十五年八月三日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

陸軍給與令細則

第四章 糧食

第十條 第一項中「露營」ノ下ニ「ヲ爲ストキ」ノ五字及「又ハ」ノ下ニ「夜間作業若クハ」ノ七字ヲ加フ
第十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十一條 本令第三十條ノ糧食ハ現食數ニ應シ定額ヲ所屬部隊ニ交付シテ之ヲ賄ハシム

第五章 被服

甲表中左ノ如ク改ム

肩章ノ調製順序中「滿三年」トアルヲ「滿十八箇月」ニ改ム

日覆ノ調製順序中「滿七年」トアルヲ「滿四十二箇月」ニ改ム

乙表中左ノ如ク改ム

肩章ノ給與順序中「滿三年」トアルヲ「滿十八箇月」ニ改ム

日覆ノ給與順序中「滿六年」トアルヲ「滿二年」ニ改ム

作業衣袴ノ給與順序中「滿一年」トアルヲ「滿十八箇月」ニ改ム

蚊帳ノ名稱中「青森」ノ上ニ「仙臺新發田」ノ五字ヲ加ヘ同給與順序中「滿十二年」トアルヲ「滿十四年」ニ改ム

第六章 馬匹

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ馬糧ハ大麥干草葉ヲ給スルモノト雖モ時宜ニ依リ代用品ヲ以テ飼養スルコトヲ得此場合

ニ於テハ之ニ對スル大麥干草葉ハ其當時買入契約價格ニ依リ代金ヲ交付ス其代金ニ過不足アルトキハ前項ニ依リ取扱フヘシ

第六條 但書ヲ削除ス

屯田兵給與令細則

甲表中左ノ如ク改ム

日覆ノ調製順序中「滿七年」トアルヲ「滿四十二箇月」ニ改ム

〔參照〕

陸軍第七十八號(明治二十三年四月十九日)抄録

陸軍給與令細則

第四章 糧食

第十條 本令第二十九條ノ夜食料ハ左ノ各項ニ依リ支給ス

一 准士官以上ノ士以下軍馬馬丁渡習中隊營又ハ夜中行軍四時間以上ニ及フトキハ其人員ニ隨シ本令第九條ノ定額ヲ所屬隊ニ交付シテ賄ハシム其定額ニ過不足アルトキハ第二條ニ依リ取扱フヘシ

第十一條 本令第三十條ノ食料及糧食ハ現食費ニ應ジ定額ヲ給ス但食料ハ本人ニ給シ糧食ハ所屬隊ニ交付シテ之ヲ賄ハシム

第六章 馬匹

第十四條 本令第四十四條ノ馬糧ハ現飼費ニ應ジ定額ヲ以テ之ヲ備養シ其定額ニ殘餘アルトキハ其殘餘及委任經理ニ屬スル物品賣却代金ハ各隊各部ニ於テ馬糧積立金ト爲シ馬糧ニ係ル一切ノ費用ニ充ルモノトス但總飼費計算法ハ朝餉抄二升秣五百目百目トシ夕餉ハ麥二升秣一貫目百目トス

第十六條 軍隊旅行演習陸軍移轉演習地屯在中及河馬ヲ他ニ依リシ治療シタルトキノ馬糧ハ第四條ニ準シ各隊各部ノ馬匹費ニ組入仕拂フヘシ但代用品ヲ要スル場合ニ在テハ之ニ對スル馬糧ハ各隊屯在地ニ於テ其當時買入契約相場ニ依リ代金ヲ交付シ適宜ニ備養セシム其代金ニ過不足アルトキハ第四條ニ依リ取扱フヘシ

○陸軍第六十四號

陸軍士官下士一等給給與内則左ノ通定ム

但從前士官下士一等給ニ係ル規定ハ總テ廢止ス

明治二十五年八月四日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

陸軍士官下士一等給給與内則

第一條 一等給ハ左ノ各項ノ一ニ當該スルモノニ之ヲ給ス但准士官以上ニ在テハ任官後一箇年下

士ニ在テハ任官後三箇月以上ノ者ニシテ勤務勉勵品行方正ニアラサレハ其擢ニ當ラス

一 步騎砲工輜重兵大尉憲兵大中尉屯田諸兵大中尉及監督補一二等軍醫一二等藥劑官一二等獸

醫一二等軍吏並砲工兵上等監護一二等軍樂長ハ各兵科各部毎ニ各官在職現員ノ上一半トス

但特別條ヲ給スルモノハ在職現員中之ヲ算入セス

二 各兵科 砲兵 屯田 中尉ハ將校團毎ニ在職現員ノ上一半トス

三 隊附各兵科及軍樂部下士ハ各隊各部毎ニ各官現員ノ上一半トス

四 隊外砲工兵監護及砲臺監守ハ各官衛毎ニ各官現員ノ上一半トス

五 衛生部下士ハ師團ヲ包含ス及屯田兵管區毎ニ各官現員ノ上一半トス

六 軍吏部下士ハ各監督部管區毎ニ各官現員ノ上一半トス

第二條 左ノ各項ノ一ニ當該スル者ハ第一條各項ノ規定ニ拘ハラズ一等給ヲ支給スルコトヲ得

一 各兵科曹長ニシテ下副官及教官補ノ職ニアルモノ

二 各兵科下士ニシテ定員一八ニ限ルモノ

三 各兵科下士 砲工兵監護砲臺監守ハ除クニシテ隊外ニアルモノ

四 衛生部下士ニシテ校團所舍ニアルモノ

五 軍吏部下士ニシテ經理局管理ノモノ

第三條 一等給ヲ給シタルモノハ左ノ各項ノ一ニ當該スルニ非サレハ其支給ヲ止ムルコトナシ

一 憲兵下士ニ轉シタルモノ

二 砲工兵監護トナリタルモノ

- 三 砲臺監守トナリタルモノ
- 第四條 一等給下賜ノ手續ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
- 一 各兵科士官砲工兵上等監護及一二等軍樂長ニ在テハ所管長官ヨリ陸軍大臣へ移讓若クハ上申スルモノトス
 - 二 監督部及軍吏部士官ニ在テハ經理局長ヨリ陸軍大臣ニ上申スルモノトス
 - 三 衛生部士官ニ在テハ醫務局長獸醫部士官ニ在テハ軍務局長ヨリ陸軍大臣ニ上申スルモノトス
 - 四 各兵科隊附生徒隊及教導下士ニ在テハ當該隊長ヨリ所管長官歩兵ハノ認可ヲ經テ之ヲ命シ各兵科隊外及生徒隊若クハ教導隊附下士並一二等軍樂手ニ在テハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ヨリ所管長官ノ認可ヲ經テ之ヲ命スヘシ但蹄鐵學舎及軍馬育成所ニ在テハ該長官ヨリ軍務局馬政課長ノ認可ヲ經テ之ヲ命シ旅團及大隊區司令部ニ在テハ旅團長之ヲ命シ砲工兵會議砲工兵方面及砲兵工廠砲兵工科學舎東京砲兵工廠ニ在テハ該長官直チニ之ヲ命スルモノトス
 - 五 衛生部下士ニ在テハ當該軍醫長ヨリ師團長若クハ屯田兵司令官ノ認可ヲ經テ之ヲ命スヘシ但第二條第四項ノ場合ニ在テハ所管軍醫長ヨリ醫務局長ノ認可ヲ經テ之ヲ命スヘシ
 - 六 軍吏部下士ニシテ經理局管理ノ者ニ在テハ經理局長ノ認可ヲ得テ當該課長之ヲ命シ各監督部管區内ノ者ニ在テハ當該監督部長直チニ之ヲ命スヘシ但中央司計部ハ經理局第一課長被服工長學舎及被服廠ハ經理局第二課長之ヲ命スルモノトス
- 第五條 一等給ノ人員ヲ調査スルトキ端數ヲ生スルトキハ下一半ニ屬スルモノトス
- 第六條 本内則ニ於テ隊附ト云フハ軍隊附及憲兵隊附並生徒隊若クハ教導隊附ノ者ニシテ其他ヲ隊外トス
- 海軍省達第五十八號

水雷艇ノ現狀ハ自今別表ノ通記載シ毎月水雷隊攻撃部司令ヨリ海軍參謀部長ニ出スヘシ但水雷隊攻撃部司令ノ附近ニアラサル水雷艇ハ各艦長ヨリ直チニ海軍參謀部長ニ出スヘシ

明治二十五年八月六日 海軍大臣子爵樺山資紀

(別表)

艇名(號)現狀月報 明治年月一日 某水雷隊攻撃部司令(艇長)官姓名印

艇名	竣工或豫定年月	竣工或豫定年月	竣工或豫定年月	竣工或豫定年月
船體				
船具				
關機				
兵				
人				
見施行ノ内				
一般				
要旨				

事 記

本表ハ本艦ノ現狀ヲ一覽瞭然タラシムルヲ目的トス故ニ(前月ニ同シ)等ノ如キ記載ヲ爲ス可カラズ
本表一欄ニ記載シ盡サ、ル場合ニハ二欄以上ヲ用ニヘシ但シ二欄以上ヲ用フルトキハ中欄ノ竣工或ハ收受後定年月ノ
間ハ朱線ニテ消スヘシ
本艦ノ進退或ハ兵備上ニ關スル如キ重要ナル事件ハ例規ノ外ニ遺漏ナク之ヲ記載シ臨時報告トシテ速ニ參謀部長ニ出
スヘシ
要旨其他ノ記事等ハ艦船現狀月報ト同様ニ記入スヘシ

○海軍省達第五十九號
羅織經歷誌別冊ノ通定

但別冊ハ之ヲ要スル各廳へ第二局ヨリ配付ス (別冊略ス)

明治二十五年八月六日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第六十號

艦團隊校應需用品定額表中左ノ追加ス (追加略ス)

明治二十五年八月六日

海軍大臣子爵樺山資紀

○宮内省達甲第五號

明治二十年一月宮内省達第一號華族就學規則左ノ通改正ス

明治二十五年八月十二日

華 族

宮内大臣子爵土方久元

華族就學規則

第一章 通則

第一條 本則ハ華族學齡男子ノ教育ヲ規定スルモノトス

第二條 學齡ハ滿六年以上滿二十四年以下トス

第三條 華族ノ男子ハ學齡中ニ於テ少クモ學習院中等學科又ハ之ニ相當スヘキ程度ノ學科ヲ修了
スルヲ要ス

第四條 華族學齡男子ノ本則ニ關スル學事ニ付テハ其ノ戶主又ハ後見人責任ヲ負フヘキモノトス

第五條 本則ニ關スル願届ハ總テ戶主又ハ後見人ヨリ差出スヘキモノトス
但シ疾病傷痍等ニ原由スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二章 修學

第六條 學齡者ハ學習院ニ入り修學スヘキモノトス

第七條 東京府外ニ住居スル十四年未滿ノ學齡者及東京府内ニ住居スル十年未滿ノ學齡者ニシテ

學習院ニ入學シ難キ事由アルトキハ便宜ノ學校ニ就キ普通教育ヲ受クヘシ

本條ノ場合ニ於テハ其ノ事由及學校ノ位置名稱入學ノ年月日ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ

第八條 第七條ノ年滿ヲ過クルノ後尙ホ學習院ニ入學シ難キ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ年月ヲ豫期シ

宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ニ延期ノ認可ヲ請フヘシ

第九條 第八條ニ依リ學習院入學延期ヲ許サレタル者ハ疾病ニ原由スル者ノ外仍ホ其ノ年滿學力

ニ應ジ總テ普通教育ヲ受クヘシ若シ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由及修

學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 疾病傷痍ニ由リ一時就學ノ延期ヲ要スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

廢疾不具又ハ體質虛弱ニシテ學齡ニ至リ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣

ノ認可ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ體質ニ適當ナル學業ヲ修メシムルトキハ其ノ方法ヲ詳記

シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十一條 學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者

ニシテ陸軍各兵科現役士官候補生又ハ陸海軍所轄各學校ノ學生ヲラント欲シ其ノ入學試験ニ合格シタル者ハ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ專門ノ學校ニ入ラント欲スル者ハ其ノ學校ノ名稱學科ノ種類等ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十三條 第三條ノ學科程度ヲ修了シタル者ニシテ海外留學ヲ爲サント欲スルトキハ其ノ國名地名及修業セント欲スル學科ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ第三條ノ學科程度ヲ修了セスニテ留學ヲ必要トスル特別ノ事由アル者ニハ特ニ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條 第十一條第十二條及第十三條ノ目的ヲ達スルニ便宜ナル豫備ノ修學ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ年月ヲ豫期シ修學ノ場所及其ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第三章 廢學及退學

第十五條 疾病傷痍ニ由リ成學ノ目的ナク廢學セント欲スル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十六條 官吏又ハ公吏ニ任用セラレ修學ノ餘暇ナク廢學セントスル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十七條 學齡中ニ於テ陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學科ヲ卒業シタル者若クハ學齡滿期ニ至リ廢學スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十八條 學齡中ニ於テ第三條ノ學科程度ヲ修了シタル後止ムヲ得サル事由アリテ廢學セントスル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ後見人ヨリ願出ツル場合若クハ成年ニ達シタル戸主廢學セントスル場合ハ宗族親屬ノ連署ヲ要ス

第十九條 戸主又ハ嫡長子孫ヲ除クノ外第三條ノ學科程度ヲ修了スルニ至ラスシテ後來自活ノ計ヲ爲サンカ爲メ廢學セサルヲ得サル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第二十條 第十一條及第十二條ニ依リ修學中半途ニシテ退學シタル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條 學習院學則第十五條ニ依リ事故ヲ以テ退學シタル者及陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學校ニ於テ修學中半途ニシテ退學シタル者若クハ海外留學中半途ニシテ歸朝シタル者ハ尙ホ本則ノ規定ニ依リ修學ヲナスヘキモノトス

第四章 督責

第二十二條 本則ノ規定ニ違ハサル者アルトキハ宮内大臣之ヲ督責ス

第二十三條 第二十二條ニ依リ督責ヲ加フルモ尙ホ之ニ從ハサル者アルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ宮中ノ禮遇ヲ停止スルコトアルヘシ

第五章 雜則

第二十四條 學習院外ニ於テ修學中ノ者三箇月以上引續キ休學セサルヲ得サル事故アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第二十五條 學習院外ニ於テ修學スル者ハ毎年一回學年ノ終ニ於テ其ノ修業シタル成績ヲ記載シ學校長若クハ教師ノ證明ヲ求メ爵位局長ニ届出ツヘシ

但シ海外留學ノ者亦本條ノ例ニ準ス

第二十六條 學習院學生ノ轉學退學休學等ニ關スル事項ハ總テ學習院ノ規則ニ依ルヘキモノトス

○陸軍第六十五號

七珊米野山砲車輪ノ殼及殼筒ノ滑動ヲ防ク爲メ殼筒ノ外面ニ三稜柱狀ノ突起部ヲ設ク但既製ノ分ハ各所管兵器彈藥費定額内ヲ以テ漸次修正スルモノトス

明治二十五年八月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第六十一號

備人職工人夫給與規則ヲ備人給與規則ト改メ其第六條中馬丁ノ下「及官役職工人夫」ノ七字及第七條ヲ刪除ス

明治二十五年八月十五日

海軍大臣子爵仁禮長範

〔參照〕

海軍省達第四百六十六號備人職工人夫給與規則(明治二十三年四月一日抄録)

第六條 器機手兵器保護手取者馬丁及官役職工人夫公務ニ原因シテ死傷シタル者ニハ明治八年四月第五十四號公布ニ依リ扶助料及埋葬料ヲ給ス

第七條 官役職工人夫官役中負傷シ治療セシムルトキハ其日數百日マテハ賃金ノ五分ノ一ヲ給ス

○海軍省第六十二號

海軍工場定時外服業者及潜水者加給規則ヲ廢ス

明治二十五年八月十五日

海軍大臣子爵仁禮長範

○海軍省第六十三號

職工人夫給與規則左ノ通定ス

明治二十五年八月十五日

職工人夫給與規則

海軍大臣子爵仁禮長範

第一條 職工人夫ハ現ニ服業セシ日數ニ依リ日給ヲ給ス

第二條 職工人夫ハ就業シタル日ト雖モ午前ニ退業シタルトキハ日給ヲ給セス午後ニ退業シタルトキハ日給ノ半額ヲ給ス但公務負傷ノ爲メ退業スルトキハ此限ニ在ラス

第三條 職工人夫傳染病ニ因リ隔離法施行ノ爲メ服業ヲ禁シタルトキハ其日數中日給ノ半額ヲ給ス

第四條 職工人夫公務ニ原因シテ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ爲ニ服業セサルトキハ其翌日ヨリ百日マテハ日給五分ノ一ヲ給ス但入院治療ヲ必要トセサルトキハ其治療日數ハ軍醫官ノ定ムル所ニ依ル

第五條 職工人夫公務ニ原因シテ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ治療セシムルトキハ其治療費等ハ患者費用規則第三條ノ規定ニ依ル

第六條 職工人夫公務ニ原因シテ死傷シタル者ニハ明治八年第五十四號達ニ依リ相當ノ扶助料及埋葬料ヲ給ス

第七條 各工場ニ使役スル職工人夫定時外又ハ潜水其他特種ノ事業ニ服スルトキハ左表ニ依リ日給ヲ加給ス但公暇日ニ服業セシムルモ定時内ハ加給スルノ限ニ在ラス

第 一	第 二	種 別	區 別	
			種 別	每一時間加給額
定時外服業	一	第一	停業時限後三時間以内	日給十分ノ一
			停業時限後三時間外六時間迄及始業時限前二時間以内	日給二十分ノ三
			停業時限後六時間外及始業時限前二時間外	日給十分ノ二
			停業時刻後始業時刻マテ當直トシ艦船ニ服業スル者ニ限ル	日給三十分ノ一
二	第二	第二	水底五尋未満	六錢乃至拾五錢
			水底五尋以上	八錢乃至貳拾錢

考 備	第 三	第 四	第 五	第 六
潜水器ヲ用ヒサル水中ノ事業	五月及十月	十一月ヨリ四月マテ	八月乃至貳拾錢	拾貳錢乃至三拾錢
腰及脚下ヲ水中ニ入ルヘキ事業	五月及十月	十一月ヨリ四月マテ	壹錢五厘乃至三錢	貳錢乃至五錢
傳染病アリタル艦船内ノ服藥			貳錢乃至五錢	壹錢乃至貳錢五厘
天災其他非常防禦ノトキノ服藥				
船泊ヲ要スル派遣工事定時間内				
艦船ニ重底及二重底ノ如キ決陸				
不健康ナル場所ノ服藥				
艦船内側修理ノ服藥				
橋上及艦船煙突上ノ服藥				
試運轉ノ爲メ艦船ニ乗組港外ニ				
出張シ旅費ヲ給セサル間ノ服藥				
第一第二ニ於ケル端時間ハ三十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第三ニ於ケル端時間ハ十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第四ニ於ケル端時間ハ八十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第五ニ於ケル端時間ハ六十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第六ニ於ケル端時間ハ四十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第七ニ於ケル端時間ハ二十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第八ニ於ケル端時間ハ十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第九ニ於ケル端時間ハ五分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第十ニ於ケル端時間ハ一分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
第十一ニ於ケル端時間ハ一分ノ十分ノ一毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス				
本表ニ掲クル事業ニシテ二種以上ノ同時服藥スルトキハ多額ノ一種ニ依テ加給ス				

第八條 各工場ニ使役スル職工人夫ノ疎虞懈怠過失等刑法ニ該ラサル事項ニシテ懲戒スヘキ所爲アリタルトキハ廠長部長其所犯ノ情狀ニ依リ半日分以上七日分以内ノ日給ヲ減給スルコトヲ得

第九條 職工人夫ノ増給減給ハ其命令ヲ受ケタル當日ヨリ之ヲ給シ死亡者ノ日給ハ其當日マテ之ヲ給ス

第十條 職工人夫ノ日給ハ毎月二十日ヲ以テ締切毎月末日(二十八日)ニ之ヲ給ス但死亡解雇ノ場合ニ於テハ其翌日之ヲ給ス

第十一條 各工場ニ使役スル職工人夫ノ事業ノ須要ニ依リ左ノ被服類ヲ貸與ス

- 一 事業帽及帽章 常時貸與
- 一 事業服 臨時貸與
- 一 前掛 同上
- 一 手籠 同上
- 一 頭巾 同上

〔参照〕

海軍省達第二百一號患者費用規則(明治二十二年六月十三日)抄録

第三條 軍人軍屬及職工人夫公務ニ原因シ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ治療セシムルトキハ其藥價及療用品ハ官費トス又軍醫トキハ入院治療ヲ適當トシ所轄長之ヲ認可シタルトキハ入院中ノ治療費藥料及體察取扱ニ係ル費用ハ總テ官費トス

○海軍省達第六十四號 英國ニ於テ製造ノ巡洋艦ヲ吉野ト命名セラル

海軍大臣子爵仁禮景範

明治二十五年八月三十日

海軍大臣子爵仁禮景範

○海軍省達第六十五號

各應物品購買賣却通則第十一條第二項中「免除スヘシ」トアルヲ「免除スルコトヲ得」ト改ム

〔参照〕 海軍省達第五十六號各應物品購買賣却通則(明治二十三年二月十四日)抄録

第十一條第二項 隨意契約ノ場合ニ於テ豫定價格五百圓未満ノ物品ヲ購買シ又ハ豫定價格五百圓未満ノ物品ヲ賣却スルトキハ請負人ノ契約保證金ヲ免除スヘシ其他ノ賣買ニ於テ請負人ノ請負金ノ免除ヲ至當ト認テ思考スルトキハ理由由ツ具シ何出ツ可シ

○陸軍第六十六號

陸軍砲臺監守採用候條該補充條例第三條ニ依リ來ル十一月一日迄ニ申出可シ

但同條例第一條年限ヲ算スルハ來ル二十六年二月一日調ヲ以テス

明治二十五年九月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

勅令第七十四號陸軍砲臺監守補充條例(明治二十三年八月十六日官報抄録)

第一條 砲臺監守ノ補充ハ現役砲工兵科曹長同一等軍曹中志願者ニシテ其入隊ノ日任職シテ其任官ノ日より起算シ七箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

○海軍省第六十六號

筑紫非役艦タル間ノ常置人員表ヲ廢ス

明治二十五年九月八日

海軍大臣子爵仁禮景範

○陸軍第六十七號

陸軍被服工長學會第三期學生拾七名(縫工科拾七名)本年十二月ニ於テ入舍セシメ候條二十四年六月陸軍第八十一號陸軍被服工長學會學生召集規則ニ基キ左ノ検査格例ニ依リ検査ノ上其書類ヲ取經メ來ル十月盡日迄ニ陸軍省經理局長ニ送付スヘシ

明治二十五年九月十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十五年陸軍被服工長學會學生召集検査格例

第一條 陸軍現役ノ兵卒ニシテ學生タルヲ志願シ得ヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

一 行狀方正身體強壯ニシテ明治二十四年十二月入營ノ者

二 裁縫造靴或ハ之ニ類似ノ業ヲ採リタル者

第二條 前條ノ資格ヲ備フル者ハ検査ヲ行フ其科目ハ左ノ如シ

明治二十五年九月 陸軍省陸軍第六十六號 陸軍第六十七號 海軍省第六十六號

合計	三百八十八名	少尉		航海士		分隊士		船匠師	一等船匠師	二等船匠師	一等鐵治手	二等鐵治手	一等火夫	二等火夫	三等火夫	一等看病夫	二等看病夫	三等看病夫	四等看病夫	一等府夫	二等府夫	三等府夫	四等府夫																
		一	七	一	七	一	七																	一	七	一	七	一	七	一	七	一	七	一	七	一	七	一	七
		三	二	三	二	三	二																	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二	三	二
機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一	機關少監	一														
水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一	水雷主操兼務	一														
大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三	大機關士	三														
少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二	少機關士	二														
大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二	大軍醫	二														
大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二	大主計	二														
少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一	少主計	一														

○海軍省達第七十一號
 總營需品中左ノ品目ハ自今兵器ニ屬ス
 但現在品ハ此際保管ノ轉換ヲナスヘシ
 明治二十五年九月二十六日
 一白熱電燈 一四管 一呼鐘機電氣 一軍用電話器
 ○海軍省達第七十二號
 鎮守府衛生會議議長艦團隊校廠軍醫長軍醫服務通則中左ノ通改正シ本年十月二日ヨリ施行ス
 海軍大臣子爵仁禮景範
 明治二十五年九月二十八日 海軍大臣子爵仁禮景範

第八條中「流行病發生スルトキハ」ヲ「流行病發生シ蔓延ノ虞アルトキハ」ト改ム

第十五條ヲ刪ル

第十六條中「疾病略年表」ノ五字ヲ刪ル

第四十三條但書ノ終ニ「又他鎮守府軍港ニ在ルトキハ其衛生會議議長ニモ報告ス可シ」ノ二十七字ヲ加フ

第七十四條中第一項醫事日誌書式「紀元二五四三年何月何日」ノ下ニ「何曜」ノ二字ヲ加ヘ第四項事項ヲ記載ス可シ」ノ下ニ「但輕症ニシテ三日以内ニ治癒スル者ハ之ヲ製スルヲ要セス」ノ二十六字ヲ加ヘ「○入籍年月日」○入籍場所「○來所」○入所年月日「ヲ刪リ」第九項「發病ノ月日官職姓名年齢生國入籍ノ月日入籍ノ場所入所來所病名」其下ニ「可成羅旬名ヲ横文字ニテ記ス可シ」ヲ「病名」其下ニ「可成羅旬名ヲ横文字ニテ記ス可シ」徵兵志願兵官職姓名年齢生國發病ノ月日初診ノ月日原因」ト改メ但書及第十項全文第二十七項中「第十項」ノ三字ヲ刪ル
 醫第八號野紙ヲ刪ル
 醫第二十七號野紙内譯左ノ通改ム

- 金 軍醫官俸給
- 金 同航海手當
- 金 同食料
- 金 同旅費
- 金 看護手看病夫俸給
- 金 同善行章加俸
- 金 同航海手當

- 金 同 外宿手當
- 金 同 救授手當
- 金 同 家族扶助金
- 金 同 糧食 費(現食ノ費用但嗜好品費共)
- 金 同 被服 費(修補費共)
- 金 同 旅費
- 金 同 患者被服費
- 金 同 洗濯料
- 金 同 雜費 費(傳染病ノ際汚穢物質上費及矯治費消毒費其他患者直接ニ係ル雜費若クハ雜費ノ類但シ患者用臥具其修理費共其他病舍借入費等)
- 金 同 醫務報告用野紙野版等ノ費用
- 金 同 醫務ニ係ル郵便電信料
- 金 藥品運搬費

〔參照〕

海軍省達第六十二號鎮守府衛生會議議長兼艦隊校隊軍醫長軍醫服務規則(明治二十一年十二月十七日抄録)
 第八條 鎮守府衛生會議議長ハ病院艦船等及其地方ニ傳染病流行病發生スルトキハ所管長ニ具申シ又其現況ヲ(電報ヲ用テ)速ニ中央衛生會議議長ニ報告ス可シ
 但艦船遺隔ノ地ニ在リテ軍醫長ヨリ已ニ中央衛生會議議長ニ報告シタルトキハ之ヲ要セス
 第十五條 鎮守府衛生會議議長ハ第七十四條十項ニ照シ疾病略年表ヲ製シ之ニ艦船等人員健康ノ其否及ヒ其地方ノ衛生疾病ノ現況ヲ附記シ所管長ノ認可ヲ經テ毎年一月二十日限リ中央衛生會議議長ニ出ス可シ流行病ハ其種類ヲ問ハズ速ニ其現況ヲ詳報ス可シ
 第十六條 鎮守府衛生會議議長ハ天候表患者月報人員月表患者四分年報疾病略年表疾病要略體重表體重報告身體檢查體種

○海軍省達第七十三號
 海軍病院軍醫部員服務規則中左ノ通改正シ本年十月一日ヨリ施行ス
 明治二十五年九月二十八日 海軍大臣子爵仁禮長範

- 第九條中第五ヲ刪ル
- 第十三條中「疾病略年表」ノ五字ヲ刪ル
- 第二十三條中治療掛長ハ「ノ下ニ」上等着護手ノ五字ヲ加フ
- 第二十七條第十項ヲ刪ル
- 第四十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
- 第四十一條 上等着護手ハ看護一般ノ事務ニ服ス
- 院第四號野紙ヲ刪ル

〔參照〕

海軍省達第六十三號海軍病院軍醫部員服務規則(明治二十一年十二月十七日抄録)
 第九條 鎮守府衛生會議議長ハ左ノ諸表報告證書等ヲ中央衛生會議議長ニ出ス可シ
 第五 疾病略年表
 第十三條 鎮守府衛生會議議長ハ治療掛長ヲシテ天候表患者月報人員月表疾病略年表體重報告傳染病報告診斷書死亡證書病歴書種痘結果表衛生費年報ヲ調製セシメ之ニ記名捺印シ又醫事日誌患者日誌患者四分年報疾病要略體重表病負傷證書ヲ調製セシメ調査捺印シテ成規ニ據リ送分ス可シ
 第二十三條 治療掛長ハ看護手看護夫ヨリ出ス所ノ職務明細年報ハ鎮守府衛生會議議長兼艦隊校隊軍醫長軍醫服務規則第六十二條ニ據リ記入捺印シテ院長ニ出ス可シ

第二十七條 軍醫ハ治療掛長ノ指揮ヲ受ケ左項ノ世類ヲ起案調製ス可シ

第十項 疾病略年表 此年表ヲ分テ甲乙ノ二種トス甲ハ入院患者乙ハ院内外士以下及外来患者ニ係ルモノトス

甲ハ院第四號紙ヲ以テ毎年一月十日限リ調製ス可シ而シテ本紙ニ記入スルノ法ハ空冠欄内ニハ院名場所欄内ニハ院ノ位置發熱欄内ニハ前期未治患者ノ數新患欄内ニハ當期入院患者ノ數計欄内ニハ舊新患者ノ合計輕快全癒止療離院院除籍死亡發達欄内ニハ各其數ヲ記入シ各欄ノ左端ニ合計ヲ掲ケ比較欄内ニハ各其項減ヲ記入スヘシ

乙ハ領守府衛生會議議長總隊校隊軍醫長軍醫服務通則第七十四條第十項ニ據リ調製ス可シ

○海軍省達第七十四號

職工入夫給與規則第十條中「毎月末日(二十八日)ニテ」毎月末日マテニト改ム

明治二十五年九月二十八日

海軍大臣子爵仁禮景範

〔參照〕

海軍省達第六十三號職工入夫給與規則(明治二十五年八月十五日)抄録

第十條 職工入夫ノ日給ハ毎月二十日ヲ以テ締切毎月末日(二十八日)ニテ之ヲ給ス但死亡解雇ノ場合ニ於テハ其翌日之ヲ給ス

○陸軍第六十八號

下士兵卒用雜糞制式別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

但標本ハ經理局ヨリ當該監督部ニ交付ス

明治二十五年九月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十九號

文官名簿書式及料紙別紙ノ通改定ス (別紙略ス)

但自今初任官ノ者ハ拜命後五日間ニ人事課ヘ送致スヘシ且所轄轉換等ノトキ舊所管ヨリ新所管ヘ送付方ハ明治十六年六月達乙第六十四號達ノ通心得ヘシ

明治二十五年九月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍省達乙第六十四號達(明治十六年六月十五日)

○陸軍第七十號

屯田兵給與令細則中左ノ通り改正ス

明治二十五年九月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第七十七條中「本令第十表及其第十表」ノ下ニ「第十一表」四字ヲ加フ

第九十二條中「命スルトキ」ノ下「及其統裁官補助官屬員」ノ十字並「作業中」ノ下「集各地到着翌日」ノ

割註ヲ挿入シ及左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ在テ己表ノ金額ヲ支給スルモノ時宜ニ依リ該定額内ヲ以テ實費支辨スルコトヲ得

第九十三條本文中但書ヲ「時宜ニ依リ定額内ヲ以テ實費支辨スルコトヲ得」ニ改メ及左ノ一項ヲ加

本條ノ旅費ニシテ演習ニ係ルモノハ演習費ニ屬ス

〔參照〕

陸軍第二十三號屯田兵給與令細則(明治二十三年十一月二十八日)抄録

第七十七條 本令第十表及ヒ第十二表ノ定額ヲ交付シ其第十表ノ定額ニ殘餘アルトキハ之ヲ消耗品積立金トシ第十二表ノ

定額ニ殘餘アルトキハ之ヲ隊營具水糧料積立金トナスヘシ但第十表及ヒ第十二表ノ定額ハ一箇月未滿ノ端日數ト雖モ月

額ヲ交付ス

第九十二條 將校演習旅行ノ爲メ上長官士官召集ヲ命スルトキハ該所管ヨリ將校演習旅行地(集合地及ヒ往返ハ陸軍給與

令第三十二表(旅費)ニ依リ旅費ヲ給ス作業中ハ日數ニ應シ己表ノ金額ヲ給ス若シ舟車馬ヲ要スルトキ

ハ實費支辨ス其作業中ニ係ルモノハ總テ演習費ニ屬ス

第九十三條 左ノ各項ニ該ル者ハ庚表ノ旅費(甲)ヲ給ス但演習ニ係ルモノハ演習費ニ屬ス(各項略ス)

○會計検査院達第一號

明治二十四年三月三十日本院達第三號郵便爲替金出納計算證明規程第一條中第二號書式ニ依リ下へ郵便爲替貯金管理本支所出納ニ係ルモノハ第七號書式ニ依リノ二十七字ヲ追加ス
明治二十五年十月一日
會計検査院長子爵渡邊 昇

〔参照〕

會計検査院達第三號郵便爲替金出納計算證明規程(明治二十四年三月三十日)抄録
第一條 郵便爲替貯金出納官吏ノ職明スヘキ計算書ハ爲替貯金出納ニ係ルモノハ第一號書式ニ貯金出納ノミニ係ルモノハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ年度經過後二箇月以内ニ郵便爲替貯金局長ニ送付スヘシ
郵便爲替貯金局長ハ第三號書式ニ依リ爲替貯金總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ年度經過後五箇月以内ニ前項計算書ト共ニ下検査官吏ニ送付スヘシ

○陸達第七十一號

歩兵ニ在テ從來工具ト稱スルモノハ總テ器具トシ又駄馬工具ハ駄馬器具ト換稱シ且工兵ニ屬スル器具材料ノ諸表中工具トアルモノヲ器具トシ積土トアルモノヲ土工ト稱スヘシ

明治二十五年十月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第七十二號

陸軍軍人參内參拜ノ節自今左ノ通心得ヘシ

明治二十五年十月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 一 參内ノ節ハ昇殿ノ際ヨリ室内ハ勿論廊下ト雖トモ脱帽スヘシ
- 一 宮中諸御祭典並ニ賢所參拜ノ節ハ脱帽拜禮スヘシ

○海軍省達第七十五號

明治二十二年五月達第百二十八號中左ノ通改ム

明治二十五年十月十一日

海軍大臣子爵仁禮景範

第一項第二ノ左ノ通改ム

二、高等軍法會議東京軍法會議鎮守府軍法會議艦隊軍法會議鎮守府海兵團印ハ曲尺方一寸五分ニシテ某軍法會議某鎮守府軍法會議某鎮守府海兵團印ト刻ス

第二項第一第二ノ左ノ通改ム

一、鎮守府海兵團印鎮守府軍法會議印及鎮守府司令長官印並鎮守府司令長官ノ部下ニ下付スヘキ官印ハ鎮守府ニ於テ彫刻シ印影ヲ海軍大臣ニ届出ツヘシ
二、艦隊司令長官司令官及大臣直隸ノ各廳長ノ印及各其部下ニ下付スヘキ官印ハ艦隊及各廳ニ於テ彫刻シ印影ヲ海軍大臣ニ届出ツヘシ但經費ヲ主管セサル廳長其他ノ官印ハ本省第三局ニ於テ彫刻セシメ下付ス

〔參照〕

海軍省達第百二十八號(明治二十二年五月九日)抄録
一、官印ノ寸法及刻字ハ左ノ通印材ハ木角石ノ中通五タルヘシ
二、鎮守府海兵團鎮守府軍法會議印ハ曲尺方一寸五分ニシテ某鎮守府海兵團某鎮守府軍法會議印ト刻ス
一、官印彫刻及渡方ハ左ノ通タルヘシ
一、鎮守府印海兵團印鎮守府軍法會議印及鎮守府部下ノ職員ニ下付スヘキ官印ハ鎮守府ニ於テ彫刻シ印影ヲ本省ニ届出ヘシ
二、艦隊司令長官司令官及大臣直隸ノ各廳長ノ印及其部下ノ職員ニ下付スヘキ官印ハ艦隊及各廳ニ於テ彫刻シ印影ヲ本省ニ届出ヘシ但經費ヲ主管セサル廳長其他ノ官印ハ本省會計局ニ於テ彫刻セシメ下付ス

○海軍省達第七十六號

兵備品測器定數表中左ノ通改正ス (改正文略ス)

明治二十五年十月十一日

海軍大臣子爵仁禮景純

○海軍省達第七十七號

艦隊校應需用品定額表中左ノ通改正ス

明治二十五年十月十一日

海軍大臣子爵仁禮景純

但數量表ハ第一局ヨリ送付セシム (改正文及數量表略ス)

明治二十五年十月十一日

海軍大臣子爵仁禮景純

○陸達第七十三號

工兵操典第二編架橋ノ部別冊ノ通改正セララル

但別冊ハ追テ配布スヘシ (別冊略ス)

明治二十五年十月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第七十四號

明治二十三年四月陸達第七十八號陸軍給與令細則第四章第一條第二項中及ノ下ニ豫備見習士官ノ六字ヲ加フ

明治二十五年十月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸達第七十八號(明治二十三年四月十九日)抄録
陸軍給與令細則
第四章 糧食
第一條 營内居住ノ下士以下糧食ハ現食數ニ應シ本令第九表ノ定額ヲ以テ之ヲ賄フヘシ但左ノ各項ニ該ルモノハ現食數ニ算入スヘシ
二 將校ノ家宅ニ宿泊スル從卒及警備隊下士兵卒ニシテ外泊ヲ許可シタル者

○海軍省達第七十八號

常備艦隊軍艦高千穂修理ニ付常備艦隊ヨリ解カル

明治二十五年十月十八日

海軍大臣子爵仁禮景純

○海軍省達第七十九號

佐世保鎮守府所管軍艦松島ヲ警備艦ト定メラル

明治二十五年十月十九日

海軍大臣子爵仁禮景純

明治二十五年十月 陸軍省陸達第七十三號 陸達第七十四號 海軍省第七十八號 第七十九號

○陸軍第七十五號

明治二十六年陸軍工兵監護志願者學術檢査格例及檢査方法左ノ通り定ム
明治二十五年十月二十日 陸軍大臣伯耆大山 巖

學術檢査格例

應問 建築學 埤塘 灰砂 工兵操典 測地ノ部
算術 代數學 平面幾何學 平面三角學
製圖 建築圖

檢査方法

- 一 檢査ハ所管長官ノ監視ヲ以テ行フモノトス
- 一 檢査ハ各地共ニ同一ノ時日ニ於テ行ハシム其時日ハ問題配賦ノ時軍務局工兵事務課長ヨリ通知スルモノトス
- 一 問題ハ軍務局工兵事務課長ヨリ密封シテ豫メ各所管長官ニ送付セシム長官ハ各科試験ノ始時ニ於テ之ヲ受驗者ニ與ヘ受驗者ヲシテ自ラ開封セシム可シ
- 一 受驗者ハ各問題表面ニ掲ル時間内ニ答解ヲ筆記若クハ淨寫スヘシ
- 一 答解書類ハ點數ヲ付スルニ及ハス檢査終レハ所管長官ハ直ニ之レノ軍務局工兵事務課長ニ送付スヘシ
- 一 應問算術用紙ハ之レヲ送付スルモ製圖用紙ハ各所管ニ於テ調辨スヘシ
- 一 受驗者ハ筆墨圖引具ノ外檢査場内ニ携ルヲ許サス

○陸軍第七十六號

明治二十二年一月陸軍第五號陸軍工兵監護補充手續左ノ通改正ス
明治二十五年十月二十一日 陸軍大臣伯耆大山 巖

陸軍工兵監護補充手續

- 第一條 工兵監護ハ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬シ之レカ補充ヲ計畫スルハ工兵事務課長ノ任務トス
- 第二條 工兵監護志願者ノ檢査ハ其所管長官ヲシテ之レヲ行ハシム其時日及檢査方法等ハ補充ヲ要スルニ方リ之レヲ告達ス
- 第三條 候補名簿決定ノ上ハ之レヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ之レヲ工兵事務課長ニ下シ同課長ハ缺員アル毎ニ該名簿ノ列序ニ從ヒ工兵監護ニ任ス但シ此名簿ハ決定ノ日ヨリ起算シ一箇年間採用スルモノトス
- 第四條 工兵監護補充條例第一條年限算定ノ日ハ召募告達ノ都度之ヲ定ム

○海軍省達第八十號

海軍内國旅費規則中左ノ通加除改正ス
明治二十五年十月二十五日 海軍大臣子爵仁禮長範

第二十八條ヲ左ノ通改ム

第二十八條 被告人若クハ患者ノ護送者被告人若クハ患者ヲ護送スル爲メ同車同船ヲ要スル場合ニ於テ被告人若クハ患者ノ旅費等級護送者ノ旅費等級ヨリ上級ナルトキハ之ニ被告人若クハ患者ト同等ノ汽車料船料ノ定價ヲ給スルコトヲ得

第三十四條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但他應所轄ニ屬スル被告人旅費モ本條ニ依ル

第二號甲表中「大船大機関」仙臺鹽竈間「仙臺」ノ關問ノ各欄ヲ刪リ「米原金崎間」ヲ「米原金ヶ崎間」ト改メ同表末ニ左ノ十一欄ヲ加フ

第二號甲表附屬汽車料累計表ヲ左ノ通改ム
第一號甲表附屬

地名	旅費等級						
	一	二	三	四	五	六	七
仙臺岩切間	四〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二〇	一〇
岩切 鹽竈間	三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	一〇	一〇
岩切 一ノ關間	三六〇	三一〇	三一〇	二六〇	一五〇	一〇	一〇
盛岡 三戸間	三九〇	三三〇	三三〇	二八〇	一七〇	一〇	一〇
三戸 野邊地間	三二〇	二八〇	二八〇	二三〇	一四〇	一〇	一〇
野邊地 青森間	一八〇	一六〇	一六〇	一三〇	八〇	五〇	五〇
大船 藤澤間	一〇	一〇	一〇	一〇	〇六	〇四	〇四
藤澤 大磯間	七〇	六〇	六〇	五〇	三〇	二〇	二〇
倉敷 尾道間	二七〇	二三〇	二三〇	一九〇	一〇	一〇	一〇
尾道 三原間	四〇	三〇	三〇	三〇	二〇	一〇	一〇
島 栢佐賀間	一一〇	九〇	九〇	八〇	五〇	三〇	三〇

汽車料累計表

地名	旅費等級						
	一	二	三	四	五	六	七
大磯間	二八〇	二四〇	二四〇	二〇五	一一六	八〇	八〇
沼津間	五八〇	五三〇	四二五	二四六	一六五	一六五	一六五
江尻間	七七〇	六九〇	五六五	三二六	二二〇	二二〇	二二〇
静岡間	八二〇	七三〇	六〇五	三四六	二四〇	二四〇	二四〇
武豊間	一六一〇	一四一〇	一一七五	六九六	四七〇	四七〇	四七〇
名古屋間	一六一〇	一四〇〇	一一七五	六八六	四七〇	四七〇	四七〇
米原間	一九五〇	一七〇〇	一四二五	八三六	五七〇	五七〇	五七〇
京都間	二二六〇	一九七〇	一六四五	九六六	六六〇	六六〇	六六〇
大阪間	二四四〇	二一三〇	一七七五	一〇四六	七一一〇	七一一〇	七一一〇
神戸間	二五八〇	二二五〇	一八七五	一一〇六	七五〇	七五〇	七五〇
三原間	三五七〇	三〇八〇	二五八五	一五二六	一〇四〇	一〇四〇	一〇四〇
東京 仙臺間	一四八〇	一二六〇	一〇七〇	六四〇	四三〇	四三〇	四三〇
東京 鹽竈間	一五五〇	一三一〇	一一二〇	六七〇	四五〇	四五〇	四五〇
青森間	三一五〇	二六九〇	二二八〇	一三六〇	八九五	八九五	八九五
横川間	五九〇	五一〇	四四〇	二七〇	一七〇	一七〇	一七〇
横濱間	一三八	一一四	一〇〇	五二	三八	三八	三八
鎌倉間	四四	三二	三〇	一六	一四	一四	一四
大磯間	一三八	一一四	一〇〇	五八	四二	四二	四二

第二號乙表中「廣島馬關間」ヲ「廣島門司間」「馬關博多間」ヲ「馬關博多間」ト改メ同表末ニ左ノ二欄ヲ加

同	沼津間	四三八	四〇四	三二〇	一八八	一二七
同	江尻間	六二八	五六四	四六〇	二六八	一八二
同	靜岡間	六七八	六〇四	五〇〇	二八八	二〇二
同	武豐間	一四六八	一二八四	一〇七〇	六三八	四三二
同	名古屋間	一四六八	一二七四	一〇七〇	六三八	四三二
同	米原間	一八〇八	一五七四	一三二〇	七七八	五三二
同	京都間	二二一八	一八四四	一五四〇	九〇八	六二二
同	大阪間	二二九八	二〇〇四	一六七〇	九八八	六七二
同	神戸間	二四三八	二一二四	一七七〇	一〇四八	七一二
同	三原間	三四二八	二九五四	二四八〇	一四六八	一〇〇二
同	横川間	八二八	六九四	六一〇	三五八	二四〇
同	仙臺間	一七一八	一四四四	一二四〇	七二八	五〇〇
同	鹽竈間	一七八八	一四九四	一二九〇	七五八	五二〇
同	青森間	三三八八	二八七四	二四五〇	一四四八	九六五
同	吳	二九〇	二五〇	二一〇	一一〇	八〇
同	尾道間	二六〇	二二〇	一八〇	一一〇	七〇
同	三原間	二六〇	二二〇	一八〇	一一〇	七〇

〔參照〕

海軍省達第六十四號海軍内國旅費規則(明治二十四年八月十六日)抄錄
 第二十八條 被告人ノ隨送者被告人ヲ隨送スル爲メ同車同船ヲ要スル場合ニ於テ被告人ノ旅費等級隨送者ノ旅費等級ヨリ
 上級ナルトキハ之ニ被告人ト同等ノ汽車料船料ノ定價ヲ給ス
 第三十四條 第一項
 第十四條第十五條第二十四條第七項ノ事項及其他轉勤轉乘等ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本人ノ請求アルトキハ前條ニ於
 テ見附額以内ヲ以テ其旅費ヲ支給決算シ其給額ヲ後附ヘ通知スヘシ
 第二號甲表 汽車料

第二號甲表附屬

地名	旅費等級	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
米原	金崎間	二二〇	一九〇	一六〇	九〇	六〇					

汽車料累計表

地名	旅費等級	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
東京	鎌倉間	二一四	一八二	一五五	八六	六〇					
同	横須賀間	二五八	二一四	一八五	一〇二	七四					
同	大磯間	二九〇	二五〇	二一五	一二〇	八六					
同	沼津間	五九〇	五四〇	四三五	二五〇	一七二					
同	江尻間	七八〇	七〇〇	五七五	三三〇	二二六					
同	靜岡間	八三〇	七四〇	六一五	三五〇	二四六					
同	武豐間	一六二〇	一四二〇	一一八五	七〇〇	四七六					

同	名古屋間	一六二〇	一四一〇	一一八五	六九〇	四七六
同	米原間	一九六〇	一七一〇	一四三五	八四〇	五七六
同	京都間	二二七〇	一九八〇	一六五五	九七〇	六六六
同	大阪間	二四五〇	二二四〇	一七八五	一〇五〇	七一六
同	神戸間	二五九〇	二二六〇	一八八五	一一一〇	七五六
東京野上	仙臺間	一四八〇	一二六〇	一〇七〇	六四〇	四三〇
同	鹽竈間	一五四〇	一三一〇	一一二〇	六七〇	四五〇
同	横川間	五九〇	五一〇	四四〇	二七〇	一七〇
横須賀	横濱間	一三八	一一四	一〇〇	五二	三八
同	鎌倉間	四四	三二	三〇	一六	一四
同	大磯間	一四八	一二四	一一〇	六二	四八
同	沼津間	四四八	四一四	三三〇	一九二	一三三
同	江尻間	六三八	五七四	四七〇	二七二	一八八
同	静岡間	六八八	六一四	五一〇	二九二	二〇八
同	武豊間	一四七八	一二九四	一〇八〇	六四二	四三八
同	名古屋間	一四七八	一二八四	一〇八〇	六三二	四三八
同	米原間	一八一八	一五八四	一三三〇	七八二	五三八
同	京都間	二二三八	一八五四	一五五〇	九一二	六二八

第二號乙表 船舶料

同	大阪間	二三〇八	二〇一四	一六八〇	九九二	六七八
同	神戸間	二四四八	二一三四	一七八〇	一〇五二	七一八
同	横川間	八三八	六九四	六一〇	三五八	二四〇
同	仙臺間	一七一八	一四四四	一二四〇	七二八	五〇〇
同	鹽竈間	一七七八	一四九四	一二九〇	七五八	五二〇

○陸達第七十七號
 捆包積載教範別冊ノ通定メラレ候條本年十二月一日ヨリ實施スヘシ
 但別冊ハ追テ配布スヘシ (別冊略ス)
 明治二十五年十月二十九日
 陸軍大臣伯爵大山 巖

○會計検査院達第二號
 明治二十四年三月三十日本院達第二號郵便爲替金郵便貯金出納計算證明規程自第一號至第五號書
 式左表ノ通明治二十五年度ヨリ改正ス
 明治二十五年十月二十九日
 會計検査院長子爵渡邊昇

明治何年度 貯金計算書 (第二號)									
摘 要	收 入 高				支 出 高				備 考
	資金受高		貯金預高		貯金拂渡高		資金拂高		
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
四 月 中									
五 月 中									
六 月 中									
七 月 中									
八 月 中									
九 月 中									
十 月 中									
十一 月 中									
十二 月 中									
一 月 中									
二 月 中									
三 月 中									
計									
	收入合計				支出合計				
	越 高				残 高				
	總 計				總 計				

明治何年度貯金計算書面ノ通り相違無之候也
明治何年何月何日
國 何郵便電信局貯金出納官吏氏名印
會計検査院長宛

明治何年度 爲替貯金計算書 (第一號)									
摘 要	收 入 高				支 出 高				備 考
	資金受高	貯金預高	貯金拂渡高	資金拂高	貯金預高	貯金拂渡高	資金拂高	資金受高	
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
四 月 中									
五 月 中									
六 月 中									
七 月 中									
八 月 中									
九 月 中									
十 月 中									
十一 月 中									
十二 月 中									
一 月 中									
二 月 中									
三 月 中									
計									
	收入合計				支出合計				
	越 高				残 高				
	總 計				總 計				

明治何年度爲替貯金計算書面ノ通り相違無之候也
明治何年何月何日
國 何郵便電信局爲替貯金出納官吏氏名印
會計検査院長宛

(第三號)

借方						貸方		明治何年度
現計	摘要	現計内詳		前年度口 り越	殘高	備考		
		振替勘定	現金勘定					現金勘定
□□□□	爲替貯金勘定部							郵便爲替貯金計算書
□□□□	爲替資本金							
□□□□	貯金拂戻準備金							
□□□□	郵便爲替貯金							
□□□□	郵便爲替貯取消							
□□□□	貯金拂戻取書							
□□□□	立替受							
□□□□	外國郵便爲替出金							
□□□□	外國郵便爲替込金							
□□□□	外國爲替出托金							
□□□□	未交換金							郵便爲替貯金管理所
□□□□	貯金利息							
□□□□	預送金							
□□□□	逓送金							
□□□□	假故損							
□□□□	事故							
□□□□	外							
□□□□	計							
□□□□								
□□□□								

借方						貸方	
現計	摘要	現計内詳		前年度口 り越	殘高		
		振替勘定	現金勘定				
□□□□	爲替貯金勘定部						
□□□□	爲替資本金						
□□□□	貯金拂戻準備金						
□□□□	郵便爲替貯金						
□□□□	郵便爲替貯取消						
□□□□	貯金拂戻取書						
□□□□	立替受						
□□□□	外國郵便爲替出金						
□□□□	外國郵便爲替込金						
□□□□	外國爲替出托金						
□□□□	未交換金						
□□□□	貯金利息						
□□□□	預送金						
□□□□	逓送金						
□□□□	假故損						
□□□□	事故						
□□□□	外						
□□□□	計						
□□□□							
□□□□							

證 書		借 方						
下 渡 高 枚數	高 額 面	備 考	殘 高	前年度ヨ リ越高	現 計 内 詳		現 計	
					振替勘定	現金勘定		

貸 方						
摘 要	現 計	現 計 内 詳		前年度ヨ リ越高	殘 高	備 考
		現金勘定	振替勘定			
現金勘定部						
現 一 等 局						
二 等 局						
三 等 局						
貯金取扱三等局						
爲替取扱所						
貯金預所						
合 計						
合計一覽						
爲替貯金勘定部						
現金勘定部						
總 計						

明治二十五年十月 達 會計検査院第二號

明治何年度 為替貯金精算書										(第四號)
摘要	收入高					支出高				備考
	現金受取高	郵便為替 取込高	貯蓄為替 取込高	貯蓄高	貯蓄為替 取込高	郵便為替 取込高	貯蓄為替 取込高	貯蓄高	現金取付高	
四月中										
五月中										
六月中										
七月中										
八月中										
九月中										
十月中										
十一月中										
十二月中										
一月中										
二月中										
三月中										
計										
	收入合計					支出合計				
	越 高					残 高				
	總 計					總 計				

明治何年度為替貯金出納精算書面ノ通相違無之候也
 明治何年何月何日
 國 何郵便為替取扱所取扱人氏名印
 郵便為替貯金管理所長宛

二八三

明治二十五年十月 達 會計検査院第二號

公 債		
摘要	購入高	
	枚數	額面
明治何年度郵便為替貯金計算書面ノ通相違無之候也		
明治何年何月何日 郵便為替貯金管理所長氏名印		
會計検査院長宛		
前年度ヨリ保管越高		
本年度中購入保管高		
本年度中下渡高		
本年度末現在保管高		
總 高		

二八二

明治何年度 貯金精算書

(第五號)

摘要	收入高		支出高		備考
	資金受高	貯金預高	貯金拂渡高	資金拂高	
中					
中					
中					
中					
中					
中					
中					
中					
中					
計					
	収入合計		支出合計		
	越 高		殘 高		
	總 計		總 計		

明治何年度貯金出納精算書面ノ通り相違無之候也

明治何年何月何日

國 何郵便貯金預所取扱人氏名印

郵便爲替貯金管理所長宛

○海軍省達第八十一號
 明治二十二年四月達第七十四號中「各地出張」ノ下ニ「及待命休職停職豫備後備ノ准士官ニシテ府外居住」ノ二十二字ヲ加フ
 明治二十五年十月三十一日
 海軍大臣子爵仁禮景範

〔参照〕

海軍省達第七十四號(明治二十二年四月四日)
 新年紀元節天皇節ニ當リ東京各府ノ武文判任官ニシテ各地出張ノ報ハ名刺ヲ本省ニ差出シ府外在勤ノ輩ハ其所管官又ハ所屬長ニ於テ適宜時限ヲ定メ發賣ヲ受ケ他ニ出張ヲ命シ又ハ在勤セシムル者アルトキハ名刺ヲ差出サシムヘシ但生徒及卒等ニシテ正七位以下勳七等以下ヲ有スル者ハ總テ本項ノ例ニ據ル

○海軍省達第八十二號（十月分）
糧食經理規程中左ノ通改正ス

明治二十五年十月三十一日

海軍大臣子爵仁禮長純

第二十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但直接購買シタルトキハ上納證書並ニ領收證書ヲ添へ本管鎮守府主計部ニ報告スヘシ

第二十九條ヲ左ノ通改ム

第二十九條 艦船出航中貯糧品缺乏シ鎮守府遠隔ノ地ニ在テ主計部ニ供給ノ請求ヲ爲スノ暇ナキトキハ直接購入スルコトヲ得此場合ニ於テハ賣上ノ人ヨリ規定ノ上納證書ヲ徴シ之ニ領收證書ヲ添へ本管鎮守府主計部ニ對シ受授ノ順序ヲ爲スヘシ

第三十五條中其他ノ場合ニ於テハ以下ヲ其他ノ場合ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲シ其顛末ヲ届出且衣糧課長ハ物品會計規則ニ依リ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシト改ム

第四十條ヲ左ノ通改ム

第四十條 主計部衣糧課長ハ毎年六月三十日マテニ前年度間ノ糧食品貯糧品出納計算書(物品出納式第一)ヲ作り證書類並ニ受拂代價仕譯書ヲ添へ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之ヲ調査シ會計検査院ニ送附スヘシ但衣糧課長交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本項ノ例ニ依リ計算書ヲ調製シ差出スヘシ

艦隊其他糧食品需用廳ニ在ル主任官ハ毎月五日マテニ前月分ノ糧食品支出報告書ヲ作り所管鎮守府主計部ヲ經テ會計監督部ニ出シ尙毎年十月四月ノ二期ニ於テ前期中ノ糧食品受拂報告書ヲ作り證書類ヲ添へ其月十五日マテニ所管鎮守府主計部ヲ經テ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之ヲ調査シ第三局ニ送附スヘシ但主任官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本項ノ例ニ依リ報告書ヲ調製シ差出スヘシ

糧食品計算帳簿報告書様式第四號初葉末葉及第十四號ヲ改メ第十六號ヲ加フル別紙ノ通 (別紙略)

〔参照〕

海軍省達第三百三十一號糧食經理規程(明治二十三年三月二十八日)抄録

第二十五條第一項

生糧品ハ主計部ニ於テ便宜ノ地ニ請負人ヲ配キ供給セシメ請負人ヲ配カサル地方ニ於テハ毎年定ムル所ノ糧食品代價ヲ標準トシ適宜購買ス可シ

第二十九條 艦船出航中貯糧品關之シ主計部ニ供給ノ請求ヲ爲ス暇ナキ場合ニ於テハ直接購買スルコトヲ得

第三十五條 主計部ニ於テ貯糧品ノ腐敗損壞ヲ發見シ前條第二項ノ制限ヲ超過スルトキハ所管長官ニ報告スヘシ該長官ハ委員二名ヲ命ジテ其檢査ヲ行ヒ官吏ノ不注意ニ出タルカ又ハ品質ノ不良若クハ製造ノ粗悪ニ原因スルカヲ判定セシメ若シ品質ノ不良製造ノ粗悪ニ因リ腐敗損壞シ其發見時日保存期限内ニ在ルトキハ速ニ請負人ヲシテ引換セシメ其他ノ場合ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲シ其額未ヲ届出ツヘシ

第四十條 衣糧課及艦船醫務舍學校病院監獄ニ於テハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ毎月十五日(衣糧課ハ前月分糧食品ノ出納計算書ヲ作り證憑書類ト共ニ會計檢査院ニ送付スヘシ)會計檢査院ニ於テハ該課領收ノ日ヨリ十日間内ニ之ヲ調査シ第一局ヲ經テ會計檢査院ニ送付スヘシ但衣糧課長其他主任主計官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ其時々本條ノ例ニ依リ計算書ヲ送付スモノトス

○海軍省達第八十三號(十月分)

被服經理規程中左ノ通改正ス

明治二十五年十月三十一日

海軍大臣子爵仁禮景範

第七條乙ニ左ノ但書ヲ加フ

但貸與品ナルトキハ主計官其品名數量代價並ニ事由ヲ詳記シ所轄廳長ノ證明ヲ得テ直ニ本管鎮守府主計部ニ報告スヘシ

第十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但其交換期限ハ前ニ交付若クハ交換シタルトキヨリ起算スルモノトス

第十五條ヲ左ノ通改ム

第十五條

下士卒自己ノ怠慢ニ依リ被服物品ヲ亡失若クハ毀損シ使用ニ適セサルトキ貸與品ハ其代價ヲ辨償セシメ代品ヲ交付シ其他ハ相當代價ヲ以テ貯藏品ヲ拂下其代金ヲ上納セシムヘシ

但本條ノ物品貸與品ナルトキハ主計官其品名數量代價並ニ事由ヲ詳記シ直ニ本管鎮守府主計部ニ報告シ又拂下品ノ交換期限ハ前ニ交付若クハ交換シタルトキヨリ起算スルモノトス

第十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十六條乙 主計部ニ於テ艦團隊廳へ被服物品ヲ交付スルトキハ艦團隊廳主計官ノ領收證書ヲ徵シ總テ之ヲ供用トシ艦團隊廳主計官ヨリ各自へ交付濟領收證書ノ送附ヲ受クルニ隨ヒ之ニ依リ決算整理スヘシ

第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條乙 主計部衣糧課長ノ保管ニ屬スル被服物品ニシテ天災其他ノ事故ニ依リ亡失毀損シタルトキハ物品會計規則ニ依リ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第十八條乙 艦團隊廳主計官主計部ヨリ被服物品ヲ領收シタルトキハ其保管出納ノ責ニ任シ之ヲ交付ハ除クシタルトキハ領收證書(交換請求書)ニ各自ノ領收印ヲ徵シ直ニ本管鎮守府主計部ニ送附スヘシ

第十八條丙 艦團隊廳主計官ノ保管ニ屬スル被服物品ニシテ天災其他ノ事故ニ依リ亡失毀損シタルトキハ所轄廳長委員三名ヲ命ジテ之ヲ審査セシメ之ニ意見ヲ附シ速ニ本管鎮守府司令長官ニ届出ヘシ司令長官ハ之ヲ主計部ニ移シ調査セシメタル後相當ノ處分ヲ爲シ其額未ヲ届出ヘシ但此場合ニ於テハ衣糧課長ハ物品會計規則ニ依リ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クルモノトス

第十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

艦船外國航海中貯藏品關之シ實際差支アルトキハ直接購買スルコトヲ得此場合ニ於テハ賣上

人ヨリ適宜ノ上納票ヲ徴シ之ニ規定ノ領收證書ヲ添ヘ本管鎮守府主計部ニ對シ受授ノ順序ヲ爲スヘシ

第二十條第二十一條ヲ左ノ通改ム

第二十条條 分隊長機關長衛兵司令其他下士卒ヲ統率スルモノハ部下下士卒ノ被服物品交換期限ノ至リタルモノヲ取調毎月一回所轄長ノ認印ヲ得テ主計官ニ請求シ主計官ハ速ニ之ヲ調査シ各自ニ之ヲ交付シ領收證書ヲ依ルニ捺印セシメ直ニ第十八條乙ニ依リ之ヲ主計部ニ送付シ貸與品ニ係ルモノハ主計官之ヲ保管スヘシ但微章類ノ交付ニハ其請求書式ヲ用ユヘシ新兵入營ノトキ又ハ進級等ノ事故ニ依リ被服物品或ハ微章類ノミノ交付若クハ交換ヲ要スル場合ニハ前項ノ期日ニ拘ハラズ其都度請求ノ手續ヲ爲スヘシ

毛布蒲團履ハ交換定數ニ拘ハラズ實際使用ニ堪ヘサル員數ニ限り請求スヘシ
雨衣毛布蒲團履衣蓋脚絆劔及劔帶ノ交換ニ於テハ所轄長委員二名主計官一名ハヲ命シ尙使用ニ堪ユルヤ否ヤヲ検査セシメタル後請求スヘシ

第二十一條 第三表ノ被服物品ハ分隊長機關長衛兵司令其他下士卒ヲ統率スルモノ、請求ニ因リ主計官之ヲ各自ニ貸與シ又番兵外套ノ如キ聯帶貸與ニ屬スルモノハ伍長ノ印ヲ徴シ貸與スヘシ但患者在監人及第十一條乙ニ依リ貸與スルモノハ適宜其方法ヲ定メ之ヲ貸與スルコトヲ得

第二十二條第二項「被服物品」ノ下「第十九條ノ貯藏品」ニ「割注」ヲ加フ

第二十五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但此場合ニ於テハ該書類ヲ主計部ニ下付スヘシ

第二十六條 主計部ニ於テ他鎮守府所管艦船ニ被服物品ヲ交付シタルトキハ其時々送狀ヲ作り

之ニ請求書領收證書出タルモノヲ添ヘ該艦船所管ノ鎮守府主計部ニ保管轉換ヲ爲スヘシ
主計部ニ於テ貯藏ノ被服物品一時闕乏シ若クハ過剩シタルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ彼此保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第三十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但貯藏ノ現品ナキトキハ最終ニ受授セシ新品ノ代價ニ依ル

第三十二條中「第一局」ヲ「第三局」ト改ム

第三十三條ヲ左ノ通改ム

第三十三條 主計部衣糧課長ハ毎年六月三十日マテニ前年度ノ被服物品出納計算書物品出納

式樣ヲ作り證憑書類並ニ受拂代價仕譯書ヲ添ヘ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之ヲ調査

シ會計検査院ニ送附スヘシ但衣糧課長交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本項ノ例

ニ依リ計算書ヲ調製差出スヘシ

艦團隊屬ノ主任主計官ハ毎年四月十月ノ二期ニ於テ前六箇月間ノ被服物品受拂報告書ヲ作り

證憑書類ヲ添ヘ其月三十日マテニ本管鎮守府主計部ヲ經テ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之

ヲ調査シ第三局ニ送附スヘシ但主任主計官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本項

ノ例ニ依リ報告書ヲ調製差出スヘシ

第一表中裁縫區別ノ欄左ノ通改ム

官名	品目	裁		
		最	大	中
一等兵曹	正 上衣	二尺五分	一尺九寸	一尺八寸
	副 上衣ニ準ス	二尺五分	一尺九寸	一尺七寸
一等信賴手	正 袴	二尺二寸	二尺五分	一尺九寸
	副 袴	二尺二寸	二尺五分	一尺八寸

同表中下士卒ノ部射的袖章ノ次ニ左ノ通加フ

卒士下	服業事	
	外	内
上	一尺五寸五分	一尺四寸
中	二尺二寸	二尺五分
下	二尺三寸五分	二尺二寸
脚	二尺二寸	二尺一寸
袴	二尺一寸	二尺
靴	九寸五分	八寸八分

同表中職工ノ部頭巾ノ次ニ左ノ通加フ

頭巾	布製
頭巾	布製
頭巾	布製

(第一表附屬被服裁斷入尺表第三表貸與被服物品定備表及圖樣式中追加改正アリ略ス)

[参照]

海軍省第四十九號被服經理規程(明治二十三年四月一日)抄録
 第七條 下士卒傳染病ニ罹リタルトキ病毒傳播預防ノ爲メ被服物品ヲ燒却若クハ棄却セシメタルトキハ代用品ヲ交付ス
 第十條 逃亡者クハ在監ノ下士卒六箇月ヲ經過シ復歸セザルトキハ所持ノ被服物品ヲ收メ復歸シタルトキハ收メタル員數ニ相當スル古被服物品ヲ交付ス
 第十五條 下士卒自己ノ意ニ依リ被服物品ヲ亡失シタルトキ若クハ毀損シテ使用ニ適セザルトキハ貸與品ナレハ其代價ヲ辨償セシメ其他ノ被服物品ナレハ代用品ヲ交付シ其代價ヲ辨償セシム但辨償代金ヲ即納スルコト能ハサルトキハ保證人二名ヲ立テシメ本人俸給ヨリ上納スルコトヲ許ス若シ事故アリ上納スルコト能ハサルトキハ保證人ヲシテ辨償セシムルモノトス
 前項ニ依リ被服物品ノ代用品ヲ交付シタルトキハ其交換期限ハ前ニ被服物品ヲ交付シ若クハ交換シタル時ヨリ起算スルモノトス
 第十九條 艦船外國又ハ鎮守府附屬ノ地ニ航海スルトキハ適宜被服物品ヲ貯藏スヘシ
 第二十條 分隊長機關長衛兵司令部長其他下士卒ヲ統率スル者ハ被服物品交換期限ノ至リタル者若クハ進級其他ノ事故

ニ依リ被服物品若クハ徽章類ノミヲ交付スヘキ者ヲ取調毎月末日マテニ所屬長ノ檢印ヲ受ケ主計官ニ請求シ主計官ハ速ニ之ヲ調査シ被服物品ナレハ證明表ニ本人ノ印ヲ徵シ交付若クハ交換シ被服物品ノミナレハ請求書ニ本人ノ印ヲ徵シ交付若クハ交換スヘシ但新兵入營其他臨時至急ヲ要スル場合ハ其都度請求ノ手續ヲ爲スモノトス
 毛布及蒲團履ノ交換ハ交換定數ニ關セズ實際使用ニ堪ヘサル員數ニ限リ請求スヘシ
 所屬長ニ於テ請求書ヲ受ケルトキ脚絆毛布蒲團履衣蓋劍及劍帶ノ交換ナルトキハ委員二名主計官ハラ命シ倫使用ニ堪ヘルヤ否ヤヲ檢査セシムヘシ
 第二十一條 第三表ノ被服物品ヲ貸與スルトキハ分隊長機關長衛兵司令部長其他下士卒ヲ統率スル者ノ印ヲ徵シ聯帶ニ貸與スルトキハ伍長ノ印ヲ徵シ貸與スヘシ但患者及在監人ハ此限ニ在ラス
 第二十二條 艦隊隊主計官ニ於テ交換シタル古被服物品ハ還納票ヲ作り便宜最寄鎮守府主計部ニ還納シ第十九條ニ依リ請込ミタル被服物品ニシテ歸港ノ際殘餘アルモノハ還納票ヲ作り便宜本管鎮守府主計部ニ還納スヘシ
 主計部ハ前項ニ依リ還納シタル被服物品ヲ差別シ後來使用ニ適スルモノハ洗濯修補ヲ加ヘ格納シ全ク使用ニ適セザルモノハ所管長官ノ認可ヲ得テ艦船裁減用トシテ保管ノ轉換ヲ爲シ若クハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ
 第二十五條 第七條ニ依リ被服物品ヲ交付若クハ交換シタルトキハ證明書ヲ添ヘ本管鎮守府司令長官ニ届出ツヘシ
 鎮守府司令長官ハ委員二名ヲ命シ該屆書ヲ審査セシムヘシ
 第二十六條 主計部ニ於テ貯藏ノ被服物品一時缺耗若クハ過剩シタルトキ又ハ他鎮守府所管艦船ニ交付シタル被服物品ノ戻入ヲ要スルトキハ司令長官ノ認可ヲ受ケ互ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 第一項 艦隊隊主計官ニ於テ交換若クハ免役死亡等ニ依リ還納ニ係ル古被服物品ヲ受込ムトキハ當時貯藏ノ新被服物品ノ代價二十分ノ一ヲ其平均代價トシテ徵收スヘシ
 第三十二條 衣箱庫ハ毎月末日調ニ依リ被服物品現在高ト本府所轄兵員トヲ對照シタル準備品一覽表ヲ作り翌月十日マテニ第一局ニ報告スヘシ
 第三十三條 衣箱庫及艦隊隊主計官ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ半年度間ノ被服物品出納計算書ヲ作り上半年度分ハ十月十五日マテ下半年度分ハ四月十五日マテニ證據書類ト共ニ會計監督部ニ送附スヘシ會計監督部ニ於テハ該證據收ノ日ヨリ十日間内ニ之ヲ調査シ第一局ヲ經テ會計檢査院ニ送附スヘシ但衣箱庫長及艦隊隊主計官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ其時々本條ノ例ニ依リ計算書ヲ提出スモノトス

○海軍省達第八十四號(十月分)
 治療品出納規程中左ノ通改正ス
 明治二十五年十月三十一日

海軍大臣子爵仁禮景範

第二條ヲ左ノ通改ム

第二條 艦隊應ニ要スル治療品ハ各其本管鎮守府主計部ニ於テ供給シ鎮守府所管ニアラサル
校應ニ要スル治療品ハ最寄鎮守府主計部ニ於テ供給スヘシ但有年期無年期療用品ハ供用品ト
シテ供給スヘシ

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

艦隊旗艦海兵團海軍病院ニハ分道治療所用トシテ第三條第一表第二表ニ掲クル品種量額ノ外
第四表ニ依リ治療品ヲ供給ス但其出納保管ハ前項ニ依ルヘシ

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

艦隊應備付有年期療用品ニシテ年期滿限ニ至ルモ尙使用ニ堪ユルモノハ其儘使用シ實際使
用シ難キトキニ至リ還納シ代品ノ請求ヲ爲スヘシ

第十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條乙 主計部ニ於テ治療品ヲ受込トキハ病院課長第八號還納票第十四號上納票又ハ送付
票ニ出納命令官ノ捺印ヲ得テ庫納保管スヘシ但規定ノ上納票ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ
ハ他ノ上納書類ヲ代用シ之ニ其事由ヲ記シ本條ノ手續ヲ爲スモノトス

第十七條第一項ヲ左ノ通改ム

艦船外國航海中又ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在リテ臨時治療品ヲ要シ定規ノ請求ヲ爲ス暇ナキトキ
ハ直接購買スルコトヲ得此場合ニ於テハ賣上人ヨリ上納票ヲ徴シ之ニ領收票ヲ添ヘ事由書ヲ
付シ本管鎮守府衛生會議ヲ經テ主計部ニ對シ受授ノ順序ヲ爲スヘシ但本條ノ購入物品有年期
療用品ナルトキハ主計部ハ第六號品目證ヲ製シ送付票ト共ニ各其艦船ニ發送スヘシ

第十八條第二項中領收票ノ下ニ第十四號送附票ヲ添ヘノ十一字ヲ加フ

第二十四條ヲ左ノ通改ム

第二十四條 主計部病院課長ハ其保管ニ屬スル治療品ニシテ天災其他ノ事故ニ依リ亡失毀損シ
タルトキハ物品會計規則ニ依リ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十五條ヲ左ノ通改ム

第二十五條 艦隊應主任軍醫官若クハ藥劑官ノ保管ニ屬スル治療品ニシテ天災其他ノ事故ニ
依リ亡失毀損シ若クハ事故アリ使用ニ適セサルトキハ詳細其理由ヲ認メ本管鎮守府衛生會議
ニ出シ該會議々長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シ主計部ニ移シ主計部ハ之ヲ調査シ所管長官ニ其處
分ヲ乞フヘシ所管長官之ヲ處分シタルトキハ其願末ヲ届出ヘシ但供用品ニ對シテハ病院課長
物品會計規則ニ依リ會計検査院ノ検査判決ヲ受クルモノトス

第二十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但無年期療用品ハ主任軍醫官若クハ藥劑官品名數量代價並ニ事由ヲ詳記シタル調書ヲ作り之
ニ所轄廳長ノ認印ヲ受ケ本管鎮守府衛生會議ヲ經テ主計部ニ報告スヘシ

第二十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但第十三條ノ場合ニ於テハ其都度報告スヘシ

第三十條ヲ左ノ通改ム

第三十條 主計部病院課長ハ毎年六月二十日マテニ前年度ノ治療品出納計算書物品證明程式
第一號様式ヲ
作り證書類並ニ第十五號治療品受拂供用代價仕譯書ヲ添ヘ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ
之ヲ調査シ會計検査院ニ送附スヘシ但病院課長交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ
本項ノ例ニ依リ計算書ヲ調製差出スヘシ
艦隊應主任軍醫官若クハ藥劑官ハ毎年四月二十日マテニ前年度ノ治療品受拂報告書ヲ作
リ證書類ヲ添ヘ所管鎮守府主計部ヲ經テ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之ヲ調査シ第三局
ニ送附スヘシ但主任官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本項ノ例ニ依リ報告書ヲ

調製差出スヘシ

第三十二條第三十三條ヲ削ル

(第一表第二表第三表及第四表追加並ニ様式中加除アリ略ス)

〔參照〕

海軍省達第四百十號治療品出納規程(明治二十四年七月三日抄録)
 第二條 治療品ハ本管領守府主計部ニ於テ購買供給スヘシ但領守府ノ所管ニアラサル校屬ニ於テ要スル治療品ハ最寄領守府主計部ニ於テ供給スルモノトス
 第五條 艦隊醫院ニ於テ使用スル治療品ハ主任軍醫官之ヲ出納保管シ病院ニ於テ使用スル治療品ハ藥劑官之ヲ出納保管スヘシ但病院勤務ノ軍醫ヲ派出シタル屬ニ於テ要スル治療品ノ出納ハ便宜ノ爲メ病院ニ於テ共ニ出納保管スルコトヲ得
 第十條 主計部ハ貯藏スル所ノ治療品ノ内使用ニ適セスト認ムルモノアルトキ又ハ運納ニ係ル治療品アルトキハ領守府衛生會議ノ検査ヲ受ケ其適否ヲ判別シ尚使用ニ堪ユルモノハ修補ヲ加ヘ格納シ其他ハ所管長官ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ
 有年期療用品ニ修補ヲ加ヘタルトキハ領守府衛生會議ノ判定ヲ受ケ更ニ其保存期ヲ定ムヘシ
 第十七條第一項
 艦船外國航海中又ハ領守府遠隔ノ地ニ在リテ臨時治療品ヲ要シ定規ノ請求ヲ爲ス暇アラサルトキハ艦船ニ於テ直接購買スルコトヲ得但之ヲ購買シタルトキハ時々品名數量及代價ヲ領守府衛生會議ヲ經テ主計部ニ報告スヘシ主計部ニ於テ此報告ヲ受ケタルトキ有年期療用品ナルトキハ第六號品目註シテ之ヲ發送スヘシ
 第十八條 艦船航海中本管領守府遠隔ノ地ニ在テ臨時至急ニ治療品ヲ要スルトキハ最寄領守府主計部ニ之ヲ請求スルコトヲ得其手續ハ第十五條ノ例ニ依ルモノトス
 前項ノ請求ニ依リ主計部ニ於テ治療品及消耗用品ヲ供給シタルトキハ之ヲ該艦船所管領守府主計部ニ報告シ有年期療用品及無年期療用品ヲ供給シタルトキハ附票要及領收票ヲ該艦船所管領守府主計部ニ送附シ該品保管ノ轉換ヲ爲スヘシ
 第二十四條 艦隊醫院ニ於テ治療品ヲ亡失毀損シタルトキ若クハ該品ノ使用ニ適セサルモノアルヲ發見シタルトキハ詳細其理由ヲ領守府衛生會議及主計部ヲ經テ該府司令長官ニ具申シ認可ヲ受ケ處分スヘシ
 第二十五條 主計部ニ於テ治療品ヲ亡失毀損シタルトキ若クハ該品ノ使用ニ適セサルモノアルヲ發見シタルトキハ詳細其理由ヲ認メ領守府衛生會議ヲ經テ所管長官ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ
 第二十六條 無年期療用品及消耗療用品ニシテ患者免役ノ際治療上尙携帯ヲ必要トスルモノアルトキハ之ヲ給與スルコトヲ得

第二十八條 艦隊醫院ノ主任軍醫官若クハ藥劑官ハ第十號様式ニ依リ毎年一月ヨリ十二月ニ至ル治療品ノ消費報告書ヲ作リ翌年一月二十日マテ中央衛生會議ニ送附スヘシ
 第三十條 主計部病院課長艦隊醫院主任軍醫官若クハ藥劑官ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年五月三十一日マテニ第十二號様式ニ依リ前年度治療品ノ出納計算書ヲ作り證憑書類ト共ニ會計監督部ニ送附スヘシ會計監督部ニ於テハ該書領收ノ日ヨリ十日間内ニ之ヲ調査シ第一局ヲ經テ會計検査院ニ送附スヘシ但病院課長艦隊醫院主任軍醫官若クハ藥劑官交代ヲ爲ストキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ其時々本條ノ例ニ依リ計算書ヲ差出スモノトス
 第三十二條 主計部病院課ニ於テ供用中シテ記帳シタル有年期療用品及無年期療用品ハ各艦隊醫院毎ニ品名數量及代價ヲ記入シタル圖書ヲ作り主計部長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ證憑書類トシテ此際簿ノ部ニ轉記スヘシ
 第三十三條 本則第三十條ノ事項ハ本年四月一日ヨリ施行ス

○陸軍第七十八號

陸軍蹄鐵學會ニ於テ蹄鐵工卒教授上必要ノ時ハ他ノ依頼ニ應シ其馬匹ニ裝蹄スルコトヲ得但其裝蹄ニ要スル諸品ハ總テ依頼者ヨリ現品ヲ以テ之ヲ辨セシム

○陸軍第七十九號

明治二十年陸軍第十七號中歩兵土工及破壞器具表別紙ノ通改正ス (別紙略ス) 陸軍大臣伯爵大山 儀

○陸軍第八十號

陸軍工兵監護補關トシテ來ル二十六年二月學術検査施行候條該志願者人名來ル十二月二十日迄ニ軍務局工兵事務課長ヘ送付スヘシ 但服役年限ヲ算スルハ二十六年二月一日調トス 陸軍大臣伯爵大山 儀

○會計検査院達第三號

租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序中左ノ通追加改正ス 會計検査院長子爵渡邊昇

明治二十五年十一月七日

第十條ノ次へ左ノ一條ヲ追加シ第十一條以下順次繰下
 第十一條 鑛業税ニ關スル 證憑書類ハ鑛業條例第三十九條ニ據リタル 届書トス
 第一號書式中銃獵免許税ノ次へ左表ノ 通追加ス

(「内ハ未達」)

鑛 業 税				
摘 要	製産高	課税似格	税 額	備 考
金銀何々	0 0 0	0 0 0	0 0 0	
調定済額			0	

鑛 區 税			
摘 要	鑛區坪數	税 額	備 考
何年四月一日鑛區現在高	0	0	「鑛區坪數中二千坪未滿ノ鑛數ハ掲載スルニ及ハス」
増ノ部			
何月某へ何所何鑛區特許	0	0	
何	0	0	
計	0	0	
減ノ部			
某鑛區廢業	0	0	
何	0	0	
計	0	0	
自何年四月至十二月増減差引計	0	0	
何年一月一日鑛區現在高	0	0	
増ノ部			
何	0	0	
何	0	0	
計	0	0	
減ノ部			
何	0	0	
何	0	0	
計	0	0	
自何年一月至三月増減差引計	0	0	
調定済額		0	

○海軍省達第八十五號

明治二十二年六月達第八十九號第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十五年十一月八日

明治二十五年十一月 逓 海軍省第八十五號

海軍大臣子爵仁禮景範

但委任シタル事項ハ直ニ届出ヘシ

〔参照〕

海軍省達第八十九號(明治二十二年六月八日)抄録

第一項

左に掲ケル場合ニ於テハ司令官司令官及兵學校長ハ艦長ニ委任シ直ニ伺上申届照會報告ヲ爲サシムルコトヲ得

○海軍省達第八十六號

明治二十二年五月達第二百七號ヲ廢ス

〔参照〕

海軍省達第二百七號(明治二十三年五月二十三日)

補充スヘキ木工鍛冶員申下士卒補充規則第三條ニ關セズ船匠手鍛冶手木工鍛冶ノ定員ニ混用スルコトヲ得

○海軍省達第八十七號

明治二十二年十一月達第三百八十號ニ左ノ一項ヲ加フ

〔参照〕

海軍大臣子爵仁禮景範

又其他ノ卒缺員ノ場合ニ於テハ五等卒ヲ定員補缺トシテ艦團隊核ヘ配付シ各其教育規則ノ期限ニ依リ卒業セシムルコトヲ得

〔参照〕

海軍省達第三百八十號(明治二十三年十一月十八日)

補充スヘキ水兵火夫缺員ノ場合ニ於テハ實地練習セシムヘキ五等水兵五等火夫ヲ定員補缺トシテ常備艦ニ乗組シメ各教育規則ノ乘艦期限ニ依リ卒業セシムルコトヲ得

○海軍省達第八十八號

海軍下士卒再服役許可手續左ノ通改正ス

〔参照〕

海軍大臣子爵仁禮景範

第一條 艦團隊長其他下士卒ヲ直轄スル各長ハ翌年度中ニ現役満期ト爲ルヘキ下士卒ニシテ再服

役ヲ請願スル者ノ有無ヲ前年十月一日以前ニ調査シ海軍下士卒再服役條例第三條ニ適當スル者ノ官職姓名(姓名ノ上ニ徵兵ハ徵兵ト世)ヲ十一月一日マテニ本籍ノ海兵團ヲ管スル鎮守府ノ承認ヲ經テ之ヲ許可シ誓約ヲ爲サシム且ツ本人攜帶ノ履歴表ニ記入セシムヘシ

第二條 鎮守府ハ艦團隊長其他下士卒ヲ直轄スル各長ヨリ承認ヲ求メタル下士卒再服役請願者ヲ取總メ調査シ所管ノ下士卒定員ニ比較シ定員ニ超過セサルモノハ承認ヲ與フヘシ但上級者ノ定員ニ缺員アルトキハ其缺員ノ撤ヲ次級以下ノ定員ニ置クコトヲ得

第三條 鎮守府ハ承認ヲ與ヘタル下士卒再服役請願者ノ人員(官職等級及徵兵)及翌年度中ニ現役満期トナルヘキ人員(官職等級及徵兵)ヲ調フ添ヘ前年十一月十五日マテニ海軍省第一局ニ送附スヘシ

第四條 再服役ヲ請願スル者ニシテ再服役ノ後三箇年以内ニ於テ定限ノ年齢ニ達スルトキハ年齢満限マテ再服役ヲ許可スルコトヲ得

第五條 艦團隊長其他下士卒ヲ直轄スル各長ハ再服役ヲ許可シタル者ノ現役満期一箇月以内ニ於テ軍醫官ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ現役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ再服役ノ許可ヲ取消スヘシ但志願兵身體検査格例制定以前徵募ノ下士卒再服役者ノ身體検査ハ本人徵募ノ時ノ検査ニ準シ行フコトヲ得

第六條 艦團隊長其他下士卒ヲ直轄スル各長ハ再服役ヲ許可シタル下士卒ノ官職姓名(姓名ノ上ニ徵兵ト世シ志願兵ト世)ヲ其年十二月十五日マテニ下士卒ノ本籍アル海兵團ニ通知スヘシ又再服役ノ許可ヲ取消シタルトキハ其都度該海兵團ニ通知スヘシ

第七條 海兵團ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケ再服役請願者ノ人員ニ異動ヲ生シタルトキハ海軍省第一局ニ通知スヘシ

第八條 第一條ニ依リ下士卒ニ再服役ノ誓約ヲ爲サシムルニハ左ノ書式ニ依ルヘシ

再服役誓約書
今般願ニ依リ再服役許可相成候ニ付テハ明治何年何月何日ヨリ何箇年間規則ヲ嚴守シ誓テ服役可仕候也
明治 年 月 日

官(職) 姓 名 印

第九條 前條ノ誓約ヲ爲シタル後所轄ヲ變換シタルトキハ該誓約書ハ新所轄長ニ移スモノトス

補則

第十條 本年ニ限り第一條ノ十月一日ヲ十二月一日十一月一日十二月三十日第三條ノ前年十一月十五日ヲ翌年一月十五日及第六條ノ其年十二月十五日ヲ翌年一月三十日トス

第十一條 明治二十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ於テ現役滿期トナルヘキ者ノ再服役請願者モ本手續ニ依ル

○海軍省達第八十九號

備入被服規則及備入服制表中服制表備考ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十五年十一月八日

使丁ニ限り時宜ニ依リ常服地ニ「紺セルジ」ヲ用ヒ又雨雪ノ際ハ長靴ヲ用フルコトヲ得

○海軍省達第九十號

出納官吏保管ノ現金紛失シタルトキ取扱手續左ノ通定ム

明治二十五年十一月八日

海軍大臣子爵仁禮景範

一出納官吏水火盜難又ハ其他ノ事故ニ因リ其保管スル所ノ現金ヲ紛失シタルトキハ即時ニ所屬長ニ其始末ヲ詳具シ所屬長ハ金櫃ノ立會調査ヲ了シ被害ノ金額及事實ヲ具シ速ニ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出且會計監督部長ニ通知シ出納官吏ハ之ヲ所屬委任仕拂命令官ニ通知スヘシ
一會計監督部長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ現場ニ就キ所屬長並出納官吏ノ立會ヲ得テ帳簿ト現金トヲ照査檢案シ被害ノ實況保管上ノ適否ヲ査察シ同時ニ會計規則第九十三條ニ依リ檢定書ニ通テ作リ一本ヲ出納官吏ニ交付シ一本ニハ檢査ノ顛末及自己ノ意見ヲ附記シ直ニ中央會計監督部長ニ送付シ中央會計監督部長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ大臣ニ提出スヘシ
一出納官吏軍港外又ハ會計監督部ニ隔離シタル場所ニ在ルトキ若クハ所屬長ニ於テ探察上特ニ神速ノ檢査ヲ必要ト認メントキハ所屬長直ニ前項ノ手續ヲ施行シ其檢定書ノ一本ヲ中央會計監督

部長ニ移シ中央會計監督部長ハ之ニ意見ヲ附シ大臣ニ提出スヘシ但所屬長ニ於テ本項ノ手續ヲ施行シタルトキハ之ヲ所屬長官ニ報告シ且當該會計監督部長ヘ通知スヘシ
一出納官吏ハ被害ノ事實確定セシトキハ缺額補填ノ請求書ヲ作り必要書類ヲ添ヘ所屬長及所屬ノ委任仕拂命令官ヲ經テ大臣ニ差出スヘシ

○海軍省達第九十一號

海軍會計監督規則ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治二十五年十一月八日

海軍大臣子爵仁禮景範

海軍會計監督規則
第一條 仕拂命令官收入監督官出納官吏及物品會計官吏ハ會計法規ノ施行上ニ於テハ會計監督部ノ監督ヲ受クルモノトス

海軍會計監督規則

第二條 會計監督部ハ會計法規ノ施行ヲ監督シ且ツ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 會計規則第六十七條ノ調査ヲ作ル事
 - 二 會計規則第九十條ニ據リ會計事務引繼ノ立會ヲナス事
 - 三 會計規則第九十一條ノ檢査ヲ執行スル事
 - 四 會計規則第九十六條及第九十八條ノ下檢査ヲ執行スル事
 - 五 物品會計規則第十一條ノ照合ヲナシ其調査ヲ作ル事
 - 六 物品會計規則第十二條ノ調査ヲナシ其調査ヲ作ル事
 - 七 物品會計規則第十七條ノ下檢査ヲ執行スル事
 - 八 兵備品ノ受拂報告及糧食品ノ支出報告ヲ調査スル事
 - 九 金錢ノ紛失若クハ物品ノ亡失毀損ニ關スル報告ヲ調査スル事
- 第三條 中央會計監督部ハ前條ノ外會計檢査院法第十六條ニ由リ委託ヲ受ケタルトキハ計算ノ檢査及責任解除ノ事項ヲ掌ル

第四條 軍港外ニ在ル軍艦及監督部所在地外ニ在ル各廳ニ於テハ艦長若クハ廳長檢査員トナリ第
二條中第一項第二項第三項第五項第六項ノ事項ヲ施行シ其結果ヲ當該會計監督部ニ移牒シ當該
會計監督部長ハ之ニ意見ヲ附シ中央會計監督部長ニ報告スヘシ

第五條 物件ノ買賣貸借及運搬並ニ工事ニ關スル契約書案及其代用書類ハ實施前ニ於テ之ニ必要
ナル書類ヲ添ヘ會計監督部ノ調査ニ付スヘシ但一口金參拾圓未満ノ代用書類ハ實施後之カ調査
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ調査ヲ經タルモノニシテ納期又ハ竣工期限ヲ延期シ若クハ工事ヲ中止シ又ハ廢止シ其他
契約ノ改廢等ニ關スル事項ハ總テ其調査ヲ經タル當該會計監督部ニ通知スヘシ

第六條 會計監督部ノ調査ニ付スル書類ハ總テ原書ヲ以テスヘシ會計監督部ニ於テ異議ナキトキ
ハ捺印ノ己シテ返付シ意見アルトキハ付箋ヲ用ヒ之ニ捺印シテ返付スヘシ扣書又ハ寫書ヲ作ル
ヲ許サス

第七條 會計監督部條例第八條ニ據リ更訂セシムルコトヲ得ルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 計算書ニ掲出セル計數ニ關セサル書損又ハ事實ノ明瞭ヲ關クトキ
- 二 計算書ニ掲出セル計數ニ異動ナキ誤脱又ハ二重記載アリシトキ
- 三 計算書ニ掲出セル計數ニ關セサル證據ノ組違ヒ又ハ様式ニ違ヒアリシトキ
- 四 計算書ノ計數證據書ニ符合セザリシトキ

第八條 會計監督部長監督ノ事實ニ因リ不規則ノコトヲ發見シ訂正ヲ司令長官若クハ當該廳長ニ
照會シ司令長官若クハ該廳長ニ於テ訂正ヲ命令セサルコトアルトキハ中央會計監督部長ハ直ニ
海軍大臣ニ申報シ各地會計監督部長ハ其事由ヲ中央會計監督部長ニ報告スヘシ中央會計監督部
長ハ該報告ヲ查覈シ更ニ之ヲ海軍大臣ニ申報スヘシ

第九條 鎮守府及各艦隊等ハ左ニ掲グル書類ノ原本若クハ寫ヲ以テ當該會計監督部ヘ回覽又
ハ送付スヘシ且會計檢査ノ材料トナルヘキ書類ハ會計監督部ノ請求ニ應シ開示又ハ送付スヘシ

- 一 歳入歳出豫算及増減令示書
- 二 歳出仕拂豫算及増減通知書
- 三 定額戻入檢視濟ノ通知書
- 四 定額繰越令示書又ハ仕拂豫算増減檢視濟ノ通知書
- 五 過年度支出令示書又ハ承認通知書
- 六 歳出未済報告書
- 七 物品定數及年額表
- 八 金錢ノ紛失若クハ物品ノ亡失毀損ニ關スル報告書
- 九 金錢物件及其經理ニ關シ各廳若クハ艦隊長ノ具中ニ對スル指令書若クハ報告書及屆書類
- 第十條 會計監督部ハ隨時會計法規實施ノ如何ヲ現場ニ臨ミ檢査スヘシ但外國行又ハ隔地ニ航行
ノ軍艦ハ歸著後直ニ實況檢査ヲ行フヘシ

各地監督部ハ實況檢査ヲ行ハタル成績ヲ中央會計監督部ニ報告スヘシ

中央會計監督部ハ實況檢査ヲ行ハタル成績及前項ノ報告ニ就キ意見アルトキハ其意見ヲ附シ海
軍大臣ニ申報スヘシ

第十一條 金櫃ノ檢査ヲ施行スルニハ所轄長及管守者ヲシテ立會ハシムヘシ

第十二條 物品出納ノ實況檢査ヲナスニ當リ秘密圖書及兵器彈藥ニ在リテハ其出納帳簿ノ記注正
確ナルヤ否ヤノ檢査ニ止ムヘシ

第十三條 會計監督部長實況檢査ヲ施行スルニ當リテハ主任官ヨリ須要ノ辯明及報告ヲ求ムルコ
トヲ得但書類ヲ他所ニ携帶スルヲ要スルトキハ先ツ主任官ノ直屬スル長官ノ承認ヲ承クヘシ

第十四條 會計監督部長須要ト思考スルトキハ物品ノ授受ニ立會若クハ工事ニ臨檢スヘシ

第十五條 會計監督部ハ物件ノ買賣貸借及運搬其他工事受負條約執行ノ爲メ收置スヘキ身元保證
金アルトキハ其期限内ニ契約保證物ヲ領收シタルヤ否ヤヲ監視シ請負人其他物品供給者ニ於テ

其契約ニ明記スル條項ヲ相違ナク履行スルヤ否ヤ又其履行ヲ遷延スルコトナキヤ否ヤヲ監視シ
 若シ之ヲ遷延スルコトアルトキハ主務官ニ其督促ノコトヲ照會スヘシ
 第十六條 物件ノ購買賣却運搬及工事ヲ爲スニ當リ競争入札ニ付スルトキハ會計監督部ニ通知ス
 第十七條 會計監督部所在地ノ外ニアル各廳ハ第五條第六條及第十六條ノ手續ヲ要セス會計監督
 部ニ於テハ隨時該廳ニ臨ミ實況ヲ検査スヘシ
 第十八條 會計監督部長ハ日常ノ監督事務ニ就テハ職務ノ一部ヲ部員ニ委任スルコトヲ得
 第十九條 會計監督部長事故アルトキハ部員共事務ノ代理ヲ爲スヘシ
 第二十條 各地會計監督部ヨリ會計検査院ヘ送附スル書類ハ中央會計監督部ヲ經由スヘシ
 第二十一條 各地會計監督部長ハ毎年會計年度末ニ各廳艦團隊検査成績表ヲ製シ意見ヲ付シ中央
 會計監督部ニ出スヘシ但検査ノ成績ニ就キ意見アルトキハ其都度中央會計監督部長ニ報告スヘシ
 第二十二條 中央會計監督部長ハ會計監督ノ成績及前條ノ成績表竝ニ報告ニ就キ意見アルトキハ
 其意見ヲ付シ海軍大臣ニ申報スヘシ

○海軍省達第九十二號

明治二十二年十一月十一日 達第四百四十三號同二十三年九月達第三百二十一號ヲ廢ス
 明治二十五年十一月八日 海軍大臣子爵仁禮景範

〔參照〕

海軍省達第四百四十三號(明治二十二年十一月十四日)
 物件運搬ニ係ル契約書ハ會計監督部若クハ會計監督官ノ調査ニ付スヘキモノトシ主務官於テハ其草案ヲ作り大臣若クハ廳
 長ノ裁決ニ付スルノ前ニ於テ必要書類ヲ添ヘ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付ス可シ
 海軍省達第三百二十一號(明治二十三年九月三日)
 物件購買賣却及工事請負ニ係ル契約書中會計監督部ノ調査ヲ經タルモノニシテ納期又ハ竣工期限ヲ遷延シ若クハ工事ヲ中
 止シ又ハ廢止シ其他契約ノ改廢等ニ關スル事項ハ總テ其調査ヲ經タル會計監督部ニ通知スヘシ

○海軍省達第九十三號

海兵團徵募官服務規則中左ノ通改正ス
 明治二十五年十一月八日

海軍大臣子爵仁禮景範

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

五、各練習卒業兵員名簿

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

各練習艦各學校其他ノ規則ニ據リ卒業ノ後若干年ノ服役義務ヲ有スル下士卒其服役義務年數
 ヲ經過セサル内ニ服役滿期トナルヘキモノニシテ所轄長ヨリ海軍下士卒再服役許可手續ニ據
 リ鎮守府ニ承認ヲ求メタル姓名中ニ洩レタルモノアルトキハ所轄長ニ通知シ再服役ヲ爲サシ
 ムルモノトス但卒業後若干年ノ服役義務ヲ有セサル以前ノ卒業者ニアリテハ此限ニアラス

第十一條ヲ左ノ通改ム

第十一條 徵募官ハ現役兵ノ現員及其異動ニ關シテハ第一表甲乙ヲ作り毎月五日マテニ團長ニ
 出シ豫備役兵後備役兵ノ現員ニ關シテハ毎年一月一日七月一日調ヲ以テ第二表甲乙ヲ作り團長
 ニ出ス可シ

從前ノ第二表ヲ第二表甲トシ別紙ノ通第二表乙ヲ加フ (別紙略ス)

〔參照〕

海軍省達第四百十五號海兵團徵募官服務規則(明治二十二年十月十一日)抄録
 第二條 徵募官ハ左ノ簿冊ヲ主管ス
 一、徵募原簿
 二、兵員補充名簿
 三、現役兵名簿及履歴簿
 四、豫備役後備役兵名簿及履歴簿
 第三條 名簿ハ兵種コトニ區別シ服役滿期ノ年月ニ依リ再之ヲ區別シ官職等級ノ順序ヲ以テ記列シ履歴簿ハ兵種コトニ編
 綴シ入籍番號ノ順序ニ依リ記列シ増減異動アルコトニ訂正ヲ加フ可シ

豫備役ニ編入シタル兵員他領守府所管ノ者ナルトキハ名簿ヨリ除名シ其履歴表ヲ其領守府海兵團ニ移ス可シ
第十一條 徵募官ハ現役兵ノ理員及其異動ニ關シテハ第一表附乙ヲ作り又豫備役兵ノ理員ニ關シテハ第二表ヲ作り毎月五日マテニ團長ニ出ス可シ

○陸軍第八十一號

明治二十年二月陸軍第十八號擔架術教育規則左ノ通改ム

陸軍大臣伯爵大山 巖

擔架術教育規則

- 第一條 擔架術教育ハ戰場ニ於ケル傷者ノ救助運搬方法ヲ步兵隊ノ下士兵卒ニ修業セシムルモノトス
- 第二條 擔架術ノ修業人員ハ毎年一聯隊ニ軍曹三名近衛ニ在一大隊ニ上等兵一名一中隊ニ卒二名上等兵ヲ出シタルトス但一師團ニ付喇叭手一名ヲ混スルヲ要ス
- 第三條 下士ハ大隊長兵卒ハ中隊長ニ於テ適當ノ者ヲ選抜シテ名簿ヲ製シ大隊長ハ聯隊長ニ中隊長ハ大隊長ニ呈ス但兵卒ニ在テハ上等兵及二年兵ニシテ沈勇懇篤精力アリ且讀書作字ヲ爲シ得ル者ヲ選抜スルヲ要ス
- 第四條 聯隊長ハ大隊長ノ呈シタル名簿ニ就キ審査ノ上大隊長ヲシテ下士ニ擔架術修業ヲ命セシメ大隊長ハ中隊長ノ呈シタル名簿ニ就キ審査ノ上聯隊長ノ認可ヲ得テ中隊長ヲシテ兵卒ニ之ヲ命セシム
- 第五條 聯隊長ハ前條ト同時ニ教官ヲ選任スヘシ

教育

- 第六條 擔架術ノ教育科目ハ擔架術教則表ニ示ス
- 第七條 擔架術修業期限ハ凡ソ二箇月乃至三箇月ニシテ每年新兵入營ノ時ヨリ始ムルモノトス

第八條 修業中ハ衛兵其他ノ諸勤務ハ適宜之ヲ免スルヲ得ヘシ

第九條 修業中傷疾疾病等ニ由リ卒業ノ目途ナキモノヲ免除シタルトキハ成ルヘク補缺スヘシ

第十條 聯隊長ハ卒業ノ期ニ至レハ其檢閲ヲ行ヒ軍醫正ヨリ出シタル卒業名簿ニ依リ卒業證書ヲ附與シ旅團長ヲ經テ之ヲ師團長ニ報告スルモノトス

第十一條 聯隊長ハ尙擔架術ヲ練習セシムル爲メ卒業後ト雖トモ屢之カ練習ヲナサシムヘシ

第十二條 擔架術ノ教育ハ聯隊ニ於テス故ニ分遣中隊ニ在テハ所屬聯隊ニ合シテ之ヲ行フモノトス

教官

第十三條 教官ハ二三等軍醫一名トシ其下ニ助教トシテ看護長二名ヲ屬ス

第十四條 教官ハ每週日課豫定表ヲ製シ一教程ヲ終ハル毎ニ小試験ヲ行ヒ全教程ヲ終ハリタルトキハ大試験ヲ行フヘシ

第十五條 聯隊附軍醫正ハ聯隊長ノ命ヲ承ケ教育ヲ監督シ教官ヨリ出シタル卒業名簿ヲ審査シ之ニ教育上ノ景況書ヲ添ヘテ聯隊長ニ呈シ且其頭末ヲ所管軍醫長ニ報告スルモノトス

演習

第十六條 毎年一回豫備役及後備役下士兵卒中擔架術ヲ修業シタル者ヲ召集シ之ニ現役中ノ擔架術修業者ヲ加ヘテ衛生隊ヲ編成シ演習ヲ施行ス之ヲ衛生隊演習ト謂フ

第十七條 衛生隊演習ハ一ハ修業者ヲシテ實地ニ就キ擔架術ヲ練習セシメ一ハ衛生隊幹部ヲシテ其任務ヲ練習セシムルヲ以テ目的トス

第十八條 衛生隊演習ノ日數ハ概ネ二週日トス然レトモ時宜ニ由リ之ヲ伸縮スルコトヲ得

前項ノ日數内若干日ハ舍内ニ於テシ若干日ハ野外ニ於テス其舍内ニ於ケル復習ハ衛生隊醫長專ラ之ニ任ス又野外演習ニ在テハ衛生隊ノ演習ヲシテ實地ニ適切ナラシメンカ爲メ別ニ一部隊ヲ出シテ戰線正一名ヲ以テ軍醫長ノ職ニ充ナルコトヲ得

假設スルモノトス

假設スルモノトス

假設スルモノトス

假設スルモノトス

假設スルモノトス

第十九條 演習ノ時期施行ノ方法及場所ハ毎年擔架術ノ教育ヲ終リタル後師團長適宜ニ之ヲ定メ師團軍醫長ヲシテ衛生隊ノ事ヲ統裁セシム

第二十條 師團軍醫長ハ演習施行中衛生勤務上ニ就テ講評ヲ下タシ演習畢レハ演習實施ノ景況ヲ師團長及醫務局長ニ報告スヘシ

第二十一條 演習衛生隊ノ編成方法ハ師團長適宜之ヲ定ムヘシト雖トモ概テ其基準ヲ示スコト左ノ如シ

- 一 擔架卒ハ現役中ノ擔架術修業者ニ豫備役若クハ後備役ノ擔架術修業者ヲ加ヘテ編成ス
- 二 尉官曹長及本部附ノ下士兵卒ハ現役隊附他ノ下士ハ現役或ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テシ或ハ擔架術ヲ修業シタル上等兵ニシテ下士適任證書ヲ所持スル者ヲ以テ下士ノ勤務ヲ爲サシム
- 三 衛生部及軍吏部ノ士官下士兵卒ハ各隊各部及病院附ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但衛生部員中士官下士各二名看護手四名ハ成ルヘク師團司令部所在地外ノモノヲ充ツヘシ但近衛師團ハ此限ニアラス
- 四 輜重輸卒ハ豫備役若クハ後備役ノ者ヨリ附屬セシムルコトヲ得

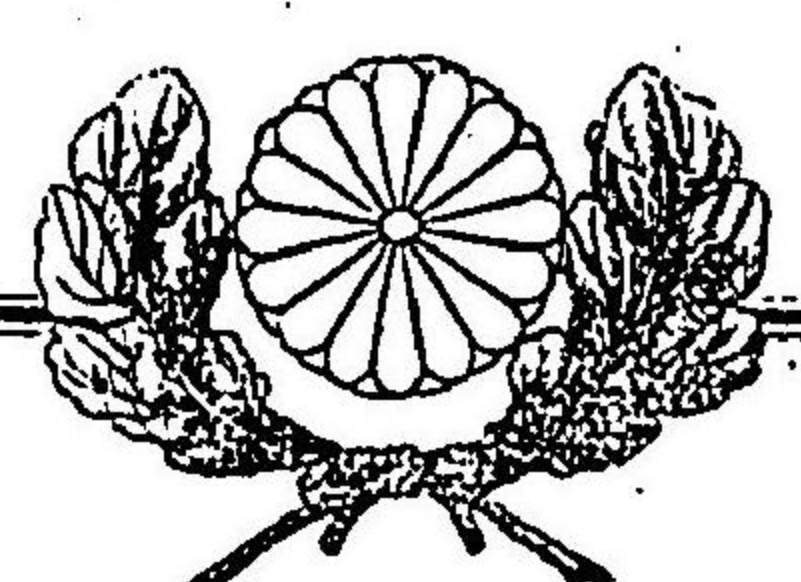
擔架術教則表

學科	第一 術科		第二 術科	
	第一	第二	第一	第二
人體構造	止血	擔架	擔架	擔架
携帶品及其解脫	人工呼吸	擔架	擔架	擔架
創傷一般ノ取扱	三角巾	擔架	擔架	擔架
創傷一處ノ取扱	卷軸	擔架	擔架	擔架
創傷數處ノ取扱	急製	擔架	擔架	擔架
一般患者ノ救急法	徒手運搬	擔架	擔架	擔架

○海軍省達第九十四號
明治二十五年十一月 陸軍省第九十四號

三二三

四寸六分



陸軍省 陸軍部

卒業證書

何師團

陸軍歩兵(何等軍曹) 姓名

何等軍曹(何等兵卒) 姓名

擔架術卒業

明治何年何月何日

步兵第何聯隊長官 勳位 姓名

印職

五寸六分

六寸六分

雛形 用紙爲ノ子紙ノ紙

佐世保鎮守府所管警備艦松島ヲ常備艦隊ニ編入セラル

明治二十五年十一月十八日

海軍大臣子爵仁禮景範

○宮内省達第六號

明治二十四年甲第四號達中官等ヲ改正シ一等ヲ親任トシ二等ヲ一等トシ三等ヲ二等トシ四等以下ヲ順次繰上ケ八等ニ止ム其親任セラレタルモノ及一等二等ヲ勅任官トシ三等以下ヲ奏任官トス

明治二十五年十一月十九日

奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

〔參照〕

宮内省達第四號(明治二十四年十二月二十二日)抄録
一宮内高等官等ヲ廢シ更ニ官等九等ヲ設ケ一等ヨリ三等マテヲ勅任トシ四等ヨリ九等マテヲ奏任トス
一宮内大臣内大臣侍從長ハ一等式部部長兼典長皇太后宮大夫皇太后宮大夫ハ二等華族女學校校長ハ三等トシ其他從前ノ官制ニ於テ勅任トアルハ二等三等勅任一等トアルハ二等同二等トアルハ三等奏任一等トアルハ四等トス以下之ニ准ス

○海軍省達第九十五號

龍驤及橫須賀鎮守府海兵團定員職別表中左ノ通改正ス

明治二十五年十一月二十二日

海軍大臣子爵仁禮景範

龍驤定員職別表機關手火夫鍛冶手鍛冶ノ欄ヲ左ノ通改ム

一等機關手				四三一	火夫	二
二等機關手				四三	火夫	二
一等鍛冶手				一	鍛冶	二
二等鍛冶手				四三二	鍛冶	一
				等	鍛冶	六

橫須賀鎮守府海兵團定員職別表機關手火夫鍛冶手鍛冶ノ欄ヲ左ノ通改ム

一等機關手	新兵教員			一	火夫	一
二等機關手	新兵教員			二	火夫	三
三等機關手				四三	火夫	八
一等鍛冶手	新兵教員			一	鍛冶	二
二等鍛冶手				二	鍛冶	二
三等鍛冶手				七	鍛冶	八

○海軍省達第九十六號

水兵火夫ノ練習艦ニシテ定員職別表ニ教員ノ設ケナキ者ハ乗組ノ下士中適當ノ者ヲ以テ教員ノ職ヲ執ラシムヘシ

明治二十五年十一月二十二日

海軍大臣子爵仁禮景範

○海軍省達第九十七號

明治二十三年五月達第九十八號ヲ廢ス

明治二十五年十一月二十二日

海軍大臣子爵仁禮景範

〔參照〕

海軍省達第九十八號(明治二十三年五月十四日)
高等水兵練習艦及水兵火夫ノ練習艦ニハ教員ノ職名ヲ設ケス乘組ノ下士ヲ以テ教員タラシムヘシ但水兵ノ教員ニハ掌帆長
副甲板長甲板次長按針手樁樓長帆縫手ノ職ニ在ル者ヲ以テ充テ高等水兵練習艦普通學ノ教員ニハ主組ヲ以テ充ツヘシ
教員ノ數ハ練習生又ハ新兵ノ十分ノ一トス但主組帆縫手ハ此數ノ外トス

○宮内省達甲第七號
宮内省官制第三十條式部官二十八ヲ二十八人ト改メ名譽官二等一人ヲ五人同三等以下十二人ヲ十七人トシ第四十三條主獵官十八ヲ十五人ト改ム
明治二十五年十一月二十六日

奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

○海軍省達第九十八號

橋立定員職別表ノ通定ム

明治二十五年十一月二十六日

海軍大臣子爵仁禮景範

(別表)

橋立定員職別表		
官名	職名	人員
大佐	艦長	一
少佐	副長	一
上等兵曹	曹長	一
一等兵曹	曹長	一
二等兵曹	曹長	一
三等兵曹	曹長	一
一等水兵	水頭	一
二等水兵	水頭	一
三等水兵	水頭	一
一等信託兵	信託兵	一
二等信託兵	信託兵	一
三等信託兵	信託兵	一
一等船匠	船匠	一
二等船匠	船匠	一
三等船匠	船匠	一
一等鑄治手	鑄治手	一
二等鑄治手	鑄治手	一
三等鑄治手	鑄治手	一
一等火夫	火夫	一
二等火夫	火夫	一
三等火夫	火夫	一
一等看護病夫	看護病夫	一
二等看護病夫	看護病夫	一
三等看護病夫	看護病夫	一
一等廚夫	廚夫	一
二等廚夫	廚夫	一
三等廚夫	廚夫	一
合計		三百六十名

橋立定員職別表		
官名	職名	人員
大尉	砲術長	一
大尉	水雷長	一
大尉	航海長	一
大尉	分隊長	四
少尉	航海士	一
少尉	分隊士	五
機關少監	機關長	一
大機關士	水雷主機	一
少機關士	水雷主機	一
大軍醫	軍醫長	一
少軍醫	軍醫長	一
大主計	主計長	一
少主計	主計長	一
合計		三百六十名

○陸軍第八十二號

三本木軍馬育成所支所ヲ青森縣下上北郡六ヶ所村ニ置キ三本木軍馬育成所倉内支所ト稱ス
明治二十五年十一月三十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十三號

三本木軍馬育成所冬師山支所ヲ鍛冶谷澤軍馬育成所ニ屬シ鍛冶谷澤軍馬育成所冬師山支所ト改稱ス
明治二十五年十一月三十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十四號

二十八珊米榴彈砲制式別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)
明治二十五年十一月三十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十五號

明治二十四年十月陸軍第百四十三號蹄鐵工看病人磨工及病院病室ノ厨夫定員表中被服工長學會ノ全
畫ヲ削ル
明治二十五年十二月二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十六號

明治二十四年八月陸軍第百一十一號本省並陸軍諸官衙立關番以下定員表中左ノ通改正ス (改正文略ス)
明治二十五年十二月二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第九十九號

水路圖誌供給規則第一條及第四條七項中東洋燈臺表ノ下ニ「毎年曆ノ三字ヲ追加ス」
明治二十五年十二月六日 海軍大臣子爵仁禮景範

〔參照〕

海軍省第十一號水路圖誌供給規則(明治二十四年一月三十一日)抄録
第一條 水路圖誌ハ左ノ種類トス
海圖(海風及海流圖、世界全圖、水路誌、水路誌道補、水路告示、水路報導、巡洋報告、航海歴、航泊日誌、東洋燈臺表其他航
海ニ必要ノ圖誌類)
第四條 水路圖誌ハ左ノ區別ニ據リ艦艇其他へ供給スルモノトス但海圖ハ海軍海圖ヲ以テ之ニ充ツヘシト雖モ其海軍海圖
ナキ場所ハ英國海軍海圖ヲ以テ之ヲ補フ
七 東洋燈臺表ハ航行ノ役務ニ服スル艦艇ニノミ毎年一部ヲヲ給ス

○海軍省達第百號

祕密圖書測器海圖出納規程中左ノ通改正ス
明治二十五年十二月六日 海軍大臣子爵仁禮景範
第十四條第十五條ヲ左ノ通改ム

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號 陸軍第八十六號 海軍省第九十九號 第百號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

○海軍省第九十九號

第百號

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

○海軍省第九十九號

第百號

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

○海軍省第九十九號

第百號

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

○海軍省第九十九號

第百號

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

○海軍省第九十九號

第百號

○陸軍省陸軍第八十五號

陸軍省陸軍第八十五號

○陸軍省陸軍第八十六號

海軍省第九十九號 第百號

第十四條 兵備品會計官吏ハ第九號様式ニ準シ前年度間ノ祕密圖書、測器、海圖ノ出納計算書及第十一號受拂供用代價仕譯書ヲ作り之ニ第十號出納證明書ヲ添ヘ年度後三箇月以内ニ會計監督部ニ出シ會計監督部ハ之ヲ調査シテ會計検査院ニ送付スヘシ但兵備品會計官吏交替ヲ爲シタルトキハ事務引繼ノ日ヲ以テ區分シ本條ノ例ニ依リ計算書ヲ調製差出スヘシ

第十五條 出納計算書及受拂供用代價仕譯書又出納證明書等ニ關シ會計検査院ニ送付スル書類ハ總テ會計監督部ヲ經由スヘキモノトス

第十一號受拂供用代價仕譯書式ヲ別紙ノ通加フ (別紙略ス)

〔參照〕

海軍省達第六十七號祕密圖書測器海圖出納規程(明治二十三年四月二十一日)抄録

第十四條 物品會計規則第十五條ノ出納計算書ハ兵備品會計官吏又ハ臨時命スル所ノ官吏第九號様式ニ準シ之ヲ調製シテ年度經過後三箇月以内ニ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付スヘシ

兵備品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シ計算書ヲ調製シ十五日以内ニ又前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ臨時命セラレタル官吏之ヲ調製シ二十日以内ニ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付スヘシ

第十五條 圖書測器數量ノ精確證明書ハ第十號様式ニ依ルヘシ但該證明書兵備品會計官吏ニ於テ調製スル計算書ニ就キ會計検査院へ答辨書ヲ送付スルトキハ總テ會計監督部ヲ經由スヘキモノトス

○陸軍第八十七號
輜重鞍及屬品制式中第二號輜重鞍制式別冊圖面ノ通追加ス (別冊略ス)

但二十一年^四制定ノ分ヲ第一號輜重鞍ト稱ス
陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍第八十八號
二十一年^四陸軍第七十八號輜重鞍及屬品制式中左ノ通改正加除ス (改正加除略ス)
陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍第八十九號
平時輜重鞍馬具定數別表ノ通定ム (別表略ス)
但明治二十四年^二陸軍第十一號ハ廢止ス
明治二十五年十二月七日
陸軍大臣伯耆大山 巖

〔參照〕
明治二十四年^二陸軍第十一號ハ平時輜重兵一大隊鞍鞍及屬品定數表ナリ

○陸軍第九十號
明治二十一年^四陸軍第七十八號輜重鞍及附屬品制式ヲ輜重鞍馬具制式ト改ム
明治二十五年十二月七日
陸軍大臣伯耆大山 巖

○海軍省達第一百號
海軍銃隊操式別冊ノ通改正ス
但別冊ハ別ニ頒布ス (別冊略ス)
明治二十五年十二月七日
海軍大臣子爵仁禮景範

○陸軍第九十一號
明治二十三年^六陸軍第三百二十號衛生部治療器械並調劑器械定數第二表備考第六(被服工長學會ニハ醫療器械編帶ヲ省キ)ノ十七字及同表中(被服工長學會)ノ六字ヲ削ル
明治二十五年十二月八日
陸軍大臣伯耆大山 巖

○海軍省達第一百二號
吳鎮守府所管軍艦築紫ヲ警備艦ト定メラル
明治二十五年十二月八日
海軍大臣子爵仁禮景範

○宮内省達第八號

明治十九年十二月宮内省達第十五號文官大禮服制表中奏任官袴ノ飾章左ノ通改定ス
明治二十五年十二月十日

奉 勅

袴飾章 左右共ニ外側面ニ單線各一條ヲ附ス
其幅一寸六分トス

宮内大臣子爵土方久元

○海軍省達第三百三號

水路部處務細則中第十九條左ノ通改正ス

明治二十五年十二月十五日

第十九條 製圖彫刻印刷掛ノ執務時間ハ七月十一日ヨリ九月十日マテハ一般ノ執務時間ニ一時
間ヲ增加ス

〔參照〕

海軍省達第二百五十五號水路部處務細則(明治二十三年七月五日)抄錄
第十九條 製圖彫刻印刷掛ノ執務時間ハ一般ノ執務時間ニ一時間ヲ增加ス

○海軍省達第四百四號

明治二十四年十一月達第二百十九號ヲ左ノ通改正ス

明治二十五年十二月十五日

各鎮守府造船部兵器部及造兵廠職工ノ服業時間ハ左表ニ依ルヘシ但戰時事變ニ際シ本表外ノ増服
業ヲ爲サシムルトキハ其都度令達ス

服業時間	
二月二十六日	午後四時三十分至
二月二十五日	午後四時三十分至
二月二十四日	午後四時三十分至
二月二十三日	午後四時三十分至
二月二十二日	午後四時三十分至
二月二十一日	午後四時三十分至
二月二十日	午後四時三十分至
二月十九日	午後四時三十分至
二月十八日	午後四時三十分至
二月十七日	午後四時三十分至
二月十六日	午後四時三十分至
二月十五日	午後四時三十分至
二月十四日	午後四時三十分至
二月十三日	午後四時三十分至
二月十二日	午後四時三十分至
二月十一日	午後四時三十分至
二月十日	午後四時三十分至
二月九日	午後四時三十分至
二月八日	午後四時三十分至
二月七日	午後四時三十分至
二月六日	午後四時三十分至
二月五日	午後四時三十分至
二月四日	午後四時三十分至
二月三日	午後四時三十分至
二月二日	午後四時三十分至
二月一日	午後四時三十分至

二月二十六日ヨリ午後四時三十分至 停起 業業

服業時間	
二月二十六日	午後四時三十分至
二月二十五日	午後四時三十分至
二月二十四日	午後四時三十分至
二月二十三日	午後四時三十分至
二月二十二日	午後四時三十分至
二月二十一日	午後四時三十分至
二月二十日	午後四時三十分至
二月十九日	午後四時三十分至
二月十八日	午後四時三十分至
二月十七日	午後四時三十分至
二月十六日	午後四時三十分至
二月十五日	午後四時三十分至
二月十四日	午後四時三十分至
二月十三日	午後四時三十分至
二月十二日	午後四時三十分至
二月十一日	午後四時三十分至
二月十日	午後四時三十分至
二月九日	午後四時三十分至
二月八日	午後四時三十分至
二月七日	午後四時三十分至
二月六日	午後四時三十分至
二月五日	午後四時三十分至
二月四日	午後四時三十分至
二月三日	午後四時三十分至
二月二日	午後四時三十分至
二月一日	午後四時三十分至

二月二十六日ヨリ午後四時三十分至 停起 業業

一 公暇日ノ服業及本表外二時間以内ノ増服業ハ鎮守府司令長官及造兵廠長限リ之ヲ命シ施行セ
シムヘシ

一 鎮守府司令長官及造兵廠長ニ於テ臨時本表外二時間ヲ超過スル増服業ヲ爲サシムルトキハ其
都度工事ノ事項時間及日數ヲ記シ届出ツヘシ但工事ノ種類ニ依リ常ニ二時間ヲ超過スル増服
業ヲ爲サシムルトキハ其都度令達ス

○海軍省達第三百五號

各鎮守府造船部兵器部造船材料倉庫及造兵廠執務時間左ノ通定ム

但佐世保鎮守府造船部ハ職工ヲ使役スルマテ本年閣令第六號ノ執務時間ニ據ルヘシ

明治二十五年十二月十五日

海軍大臣子爵仁禮景範

高等官及官廳諸造船材料倉庫判任官		工場諸判任官	
二月二十六日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十五日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十四日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十三日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十二日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十一日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二十日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十九日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十八日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十七日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十六日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十五日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十四日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十三日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十二日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十一日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月十日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月九日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月八日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月七日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月六日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月五日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月四日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月三日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月二日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至
二月一日	午後四時三十分至	午後六時三十分至	午後六時三十分至

○陸軍第九十二號

陸軍服裝規則中ノ通改正ス

明治二十五年十二月十六日

陸軍大臣伯耆大山 巖

一 第四十九條第一中「曹長」ノ下ニ「憲兵」ノ割註ヲ加ヘ並ニ「憲兵」ノ二字ヲ削ル

一同條第二ヲ左ノ如ク改ム

一 憲兵曹長一 二等軍曹及上等兵ハ刀ヲ佩ヒ半長靴ヲ袴上ニ穿テ警察勤務ニ服スルトキハ拳銃ヲ携帯ス

一同條第五中「背囊ヲ負ヒ」ノ下ニ「場合ニ依リ背囊及ヒ」ノ割註ヲ加フ

〔參照〕

陸軍省令乙第四百四十四號陸軍服裝規則(明治十九年十月二十五日)抄録

第四十九條 各兵種ニ依リ區別アルモノノ左ノ如シ

第一項

一 曹長ハ其兵種ノ如何ヲ問ハス皆刀ヲ佩ヒ步兵要塞砲兵工兵ニ在テハ短靴ヲ穿テ脚絆ヲ袴下ニ著シ騎兵ニ在テハ長靴ヲ穿テ憲兵野戰砲兵及ヒ騎重兵ニ在テハ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ

第二項

一 憲兵曹長一 二等軍曹及ヒ兵卒ハ刀ヲ佩ヒ拳銃ヲ携帯シ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ

第五項

一 野戰砲兵一 二等軍曹及ヒ兵卒ハ砲兵刀ヲ佩ヒ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ而シテ隊伍ニ列スルトキ徒歩ノ者ハ背囊ヲ負ヒ外裝ヲ附シテ對馬醫務隊野戰砲兵隊一 二等軍曹及兵卒ニ在テハ銃劍ヲ佩ヒ短靴ヲ穿テ脚絆ヲ袴下ニ著シ隊伍ニ列スルトキハ背囊ヲ負ヒ彈藥盒ヲ附著シ銃劍ヲ携持ス

○宮内省達甲第九號

宮中儀式上席次別表ノ通改定ス

但明治二十四年十二月宮内省達甲第六號宮中儀式上席次條項第七條但書中「等ノ上」(親任ヨリ

一等ニ)ノ七字ヲ加フ

明治二十五年十二月十七日

奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

(別表)

大 勳 位	敘勳ノ前後ヲ以テ席次ス
内閣總理大臣	
各 大 臣	任官ノ前後ヲ以テ席次ス
樞密院議長	
陸 軍 大 將	任官ノ前後ヲ以テ席次ス
海 軍 大 將	
侍 從 長	
樞密院副議長	
樞密顧問官	任官ノ前後ヲ以テ席次ス
旭日桐花章	敘勳ノ前後ヲ以テ席次ス
公 爵	敘位ノ前後ヲ以テ席次ス
勳 一 等	
旭日章	敘勳ノ前後ヲ以テ席次ス
瑞 寶 章	同上
一 等 式 部 長	
掌 典 長	

皇太后宮大夫	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
皇后宮大夫	
大審院長	
會計検査院長	
行政裁判所長官	
中將ニシテ參謀總長及監軍ニ補セラル、コトアルトキハ一等官中特別席ニ列シ任補ノ前後ヲ以テ席次ス	
高等官一等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
侯	敘位ノ前後ヲ以テ席次ス
二等	
會計検査院長	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
高等官二等	爵位ノ前後ヲ以テ席次ス
府香間祗候	從前ノ例ヲ以テ席次ス
錦鶏間祗候	敘位ノ前後ヲ以テ席次ス
伯	敘勳ノ前後ヲ以テ席次ス
勳二等	同上
旭日章	敘位ノ前後ヲ以テ席次ス
瑞寶章	同上
子	敘勳ノ前後ヲ以テ席次ス
勳三等	
旭日章	

瑞寶章	同上
男	敘位ノ前後ヲ以テ席次ス
三等	
高等官三等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
四等	
高等官四等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
五等	
高等官五等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各公立學校校長教諭ハ其任補ノ前後ヲ以テ席次ス	
六等	
高等官六等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各公立學校校長教諭ハ其任補ノ前後ヲ以テ席次ス	
七等	
高等官七等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
雅樂部副長	
奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各公立學校校長教諭及尋常師範學校教諭ハ其任補ノ前後ヲ以テ席次ス	
八等	
高等官八等	任補ノ前後ヲ以テ席次ス
雅樂部副長	
奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各公立學校校長教諭及尋常師範學校教諭ハ其任補ノ前後ヲ以テ席次ス	

テ席次ス

九等 高等官九等 任補ノ前後ヲ以テ席次ス

〔參照〕

宮内省禮部第六號(明治二十四年十二月二十二日)抄録
第七條 官職ヲ降リタル者ハ現官同等中ノ首座トス
但一等ヨリ二等ニ降リタルモノハ同等中特別席ノ次席トス

○陸軍第九十三號

輜重兵隊馬調教教範別冊ノ通定メラル (別冊略ス)

明治二十五年十二月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十四號

七珊米野砲材料中左ノ通改正ス

明治二十五年十二月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一前車箱ノ草條方環ノ位置ヲ變更シ其數ヲ増加ス

一前被託脚環ノ位置ヲ變更ス

一前車箱及豫備品箱前被ノ形狀ヲ改ム

一背囊繩草條ノ數ヲ増加ス

一彈藥車ノ方輪托鉤ヲ平輪托鉤ニ改ム

一各車輪ノ穀ヲ鍛製ニ改ム

○陸軍第九十五號

七珊米山砲用裝具中階圓鐵鉗ヲ駄載録ト改稱シ別紙圖面ノ通改ム (別紙略ス)

明治二十五年十二月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第百六號

平時水雷艇左ノ區域外ニ出航スルトキハ水雷隊攻撃部司令又ハ艇長ヨリ電報地ハ郵便ヲ以テ其發
著ヲ海軍大臣官房ニ報告スヘシ

明治二十五年十二月二十二日

海軍大臣子爵仁禮景範

横須 賀

劍崎ト洲崎トノ結合線以外

吳

宮島 瀬戸

那沙美 瀬戸

大野 瀬戸

佐世 保

早瀬ノ瀬戸

隠戸ノ瀬戸

竹 敷

軍 港 外

大口 灣 外

○海軍省達第百七號

糧食品計算帳簿報告書様式中第五號ヲ別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

明治二十五年十二月二十二日

海軍大臣子爵仁禮景範

○陸軍第九十六號

明治二十三年七月陸軍第九十二號陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例左ノ通改ム

明治二十五年十二月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例

第一條 軍人恩給法第九條各項ニ基ク傷痍疾病等差ノ概例ハ左ノ如シ

一 不具若クハ發疾トナリ常ニ介護ヲ要スルモノハ第一項若クハ第二項トシ其常ニ介護ヲ要セ
サルモノハ第三項若クハ第四項トシ其介護ヲ要セサルモノハ第五項若クハ第六項トス

- 二 生殖器ヲ失シ其機能ヲ廢シタルモノハ第二項トシ生殖器ヲ失シ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第四項乃至第六項トス
- 三 一眼一耳ノ機能ヲ併セ廢シタルモノハ第四項トス
- 四 兩耳ノ機能ヲ廢シタルモノハ第三項トス
- 五 鼻ヲ失シ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 六 咀嚼言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノハ第一項トシ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第二項乃至第六項トス
- 七 内臟器ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第一項若クハ第二項トシ其機能ヲ妨クルニ至リタルモノハ第三項乃至第六項トス
- 八 頸若クハ腰ノ運動ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 九 四肢ノ運動ヲ廢シタルモノ若クハ其運動ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 十 拇指ヲ併セ三指以上ヲ失シタルモノ若クハ示指中指環指小指ヲ併セ失シタルモノハ第四項若クハ第五項トシ拇指示指ヲ併セ失シタルモノ若クハ示指中指環指ヲ併セ失シタルモノハ第五項若クハ第六項トシ拇指ヲ失シタルモノ若クハ示指中指環指ヲ併セ失シタルモノ若クハ拇指示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ若クハ示指中指環指小指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第五項若クハ第六項トシ拇指示指ノ用ヲ併セ廢シタルモノ若クハ示指中指環指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第六項トス
- 十一 拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ若クハ示指中指環指小指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第五項若クハ第六項トシ拇指示指ノ用ヲ併セ廢シタルモノ若クハ示指中指環指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第六項トス
- 十二 踝關節ノ下概ネ三分ノ一以上ヲ失シタルモノハ第四項若クハ第五項トス
- 十三 第一趾ヲ併セ三趾以上ヲ失シタルモノハ第六項トス

第二條 軍人恩給法第十四條ニ當ルヘキ傷疾疾病ノ等差ハ五款トス其概例ハ左ノ如シ但各款共ニ甲症乙症ニ區分ス

- 一 本例第一條ノ各症ヨリ輕キモ身體ノ機能ニ著シキ妨アルニ至リタルモノハ其輕重ニ依リ第一款乃至第五款トス
 - 二 頭首ニ大ナル醜形ヲ遺シタルモノハ第三款乃至第五款トス
 - 三 一眼ノ視力ヲ妨クルニ至リタルモノハ第一款乃至第五款トス
 - 四 一耳ノ機能ヲ廢シタルモノハ第一款トシ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第二款乃至第五款トス
 - 五 四肢ノ運動ヲ妨クルニ至リタルモノハ第一款乃至第五款トス
 - 六 示指ヲ失シタルモノ若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ二指ヲ失シタルモノハ第一款若クハ第三款トス
 - 七 拇指ノ用ヲ廢シタルモノ若クハ示指中指ノ用ヲ併セ廢シタルモノ若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノハ第二款若クハ第三款トシ示指ノ用ヲ廢シタルモノ若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノハ第三款若クハ第四款トス
 - 八 第一趾ヲ併セ二趾ヲ失シタルモノハ第一款トシ第一趾ヲ失シタルモノ若クハ第一趾ヲ除キ他ノ四趾ヲ失シタルモノハ第二款トシ第一趾ヲ除キ他ノ三趾ヲ失シタルモノハ第三款トス
 - 九 第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノハ第二款トシ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノハ第三款トス
- 第三條 第一條第二條中四肢ノ各症ニ在テハ一肢ニ就テ示スト雖モ兩肢ニ同一ノ症アルトキハ第一條ノ症ニ在テハ二項ヲ上ホセ第一條ノ症ニ在テハ一款ヲ上ホセ第二條第一款第二款ノ症ニ在テハ第六項ニ上ホスヘキモノトス

第一條中第六項ノ症トシテ掲クルモノノ症狀輕キトキハ第二條第一款若クハ第二款ニ下スヘキモノトス

第一條第二條ノ各症ト雖モ傍症アルトキハ等差ヲ上ホスヘキモノトス

第四條 第一條第二條ニ掲クル各症ノ他ハ同條各症ニ比準シテ其等差ヲ策定スヘシ
本例中某部ヲ失ストアルハ其一部分ヲ失シタルモノヲモ包含シ其部ノ用ヲ廢ストアルハ僅ニ其機能ヲ存スルモ作用上之ヲ廢スルニ等シキモノヲモ包含ス

○海軍省達第百八號

海軍軍人俸給及手當金支給細則中左ノ通改正ス

明治二十五年十二月二十四日

海軍大臣子爵仁禮景範

第四十一條中「乘艦若クハ」ノ五字ヲ刪ル

第四十二條中「職」ノ一字ヲ刪ル

第四十三條第二項第五項及第八項ヲ左ノ通改正第七項ヲ刪ル

二 水雷船ニ乘組軍港外若クハ碇泊港又ハ所屬本艦碇泊港外ニ於テ十二時間以上航行スルトキハ拔錨發航ノ日ヨリ軍港若クハ碇泊港又ハ所屬本艦ニ歸到ノ日マテ支給ス但練習其他沿岸巡視等ノ爲メ乘組ノ者ハ此限ニアラス

六 艦船乘員陸地療養若クハ私事ノ故ヲ以テ在艦セサルトキハ退艦ノ日ヨリ歸艦ノ前日マテ支給セス

八 官有船舶若クハ官ニテ借入備入タル船舶ニ乘組ヲ命シ運轉其他ノ職務ヲ執ラシムルトキハ乘船ノ日ヨリ退船ノ日マテ支給ス

(參照)

海軍省達第百六十三號海軍軍人俸給及手當金支給細則(明治二十四年八月十六日)抄錄

第四十一條 士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シ又ハ一等下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ乘艦若クハ就職ノ日ヨリ其官職相當ノ手當金ヲ給ス

第四十二條 退職ニ依リ轉勤スル場合ニ於テ事務引繼其他事故アリ尙在艦スルトキハ其官職相當ノ航海手當金ヲ給ス

第四十三條 航海手當金ノ支給區分ハ左ノ如シ
一 水雷船ニ乘組軍港外若クハ碇泊港外ニ於テ十二時間以上航行スルトキハ拔錨發航ノ日ヨリ軍港若クハ碇泊港ニ投錨ノ日若クハ本艦船ニ歸到ノ日マテ支給ス

六 艦船ノ乘員陸地ニ於テ療養シ若クハ公務ニ因ラスニテ在艦セサルトキハ退艦ノ日ヨリ歸艦ノ前日マテ支給セス

八 官有船舶若クハ官ニテ借入備入タル船舶ニ乘組ノ際令書ヲ與ヘ出張セシムル等ニ當リ糧食ヲ給スルトキハ乘船ノ日ヨリ退船ノ日マテ支給ス

○海軍省達第百九號

海軍内國旅費規則中左ノ通改正ス

明治二十五年十二月二十四日

海軍大臣子爵仁禮景範

第五條但書日當ヲ給スノ下ニ左ノ通加フ

陸路一里汽車路二哩海路二哩以上ノ端里數ニハ日當一日分ヲ給ス各種ニ跨ルトキハ合計シ端里數ヲ定メ其陸路ノ端里數ハ總テ汽車路、海路ニ改算スヘシ此場合ニ於テハ陸路一里ヲ汽車路、海路二哩トス

第十二條第二項中「船舶ニテ」ヲ「船舶ニ乘組ヲ命セラレト」改メ第四項中「二日以上」ノ下ニ「ニ涉リ」ノ三字ヲ加ヘ第三項ヲ左ノ通改ム

官有船舶又ハ各艦ニ於テ借入備入タル船舶ニ便乗ヲ命シ轉勤轉乘セシムルモノハ官ヨリ贈ヲ爲サハルトキニ限リ日當ヲ給ス

第十四條中「辭令書受領後二十日以内」ノ下「若クハ乘組艦船所轄ヲ轉シ」ノ十二字ヲ刪リ第三項中「豫備艦」ノ下ニ「非役艦」ノ三字ヲ加ヘ及第八項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

九 豫備艦非役艦ノ航海艦トナリタルトキ其所在地ヨリ東京ニ家族ヲ移轉セシムルトキ

十 甲廳在勤又ハ甲定製艦乘組中就學ヲ命セラレタル者其所在地ヨリ東京ニ家族ヲ移轉セシムルトキ

第十八條ヲ左ノ通改ム

第十八條 水路測量出張ノトキ測地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日マテハ車馬賃ヲ給セス旅費等級四等以上ノ者ニハ日當一割増五等以下ノ者ニハ日當三割増ヲ給ス但甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第二十四條第四項ヲ刪ル

〔參照〕

海軍省達第百六十四號海軍内國旅費規則(明治二十四年八月十六日)抄錄

第五條 日當ハ旅行ノ現日數ニ應ジテ之ヲ給ス但第六條但書及第二十四條第八項ニ當ルモノハ汽車路二百哩海路二百哩陸路

十二里詰ヲ以テ日當ヲ給ス

第十二條 軍艦運送船若クハ官有車馬又ハ各職ニ於テ借入借入タル車馬等ニテ旅行スルトキハ現日數ニ應ジ日當ヲ給ス

官有船泊又ハ各職ニ於テ借入借入タル船泊ニテ旅行スルトキ亦前項ニ同シ但旅行二日以上ニ涉リ官ヨリ贈ヲ爲サルハ場

合ニ於テ特令アルトキハ旅費等級一等ニハ日當四割増二等以下ニハ日當五割増ヲ給シ各種ニ跨ル當日ハ日當ノ多額ヲ給ス

前二項ノ場合ニ於テ艦船乗組ノ辭令書ヲ與ヘ出張セシムル者及軍艦若クハ運送船ニ便乗ヲ命シ轉動轉乘セシムル者ニハ日當ヲ給セス

艦船試運轉若クハ銃砲水雷試射ノ爲メ艦船ニ乘組ニ日以上旅行スルトキハ其日數ニ應ジ日當ノミヲ給ス

第十四條 武官准士官以上及文官轉勤轉乘ヲ命セラレ辭令書受領後三十日以内若クハ乘組艦船所轄ヲ轉シ若クハ役務ヲ變

シタル後三十日以内左ノ場合ニ於テ家族ヲ及下附ヲ移轉セシムルトキハ各本項ノ路程ニ應シ本人旅費

ノ外別ニ一人分汽車料船泊料及車馬賃ヲ給ス但家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムルニハ所管長官ノ承認ヲ受テヘシ又其發

著ノ届出ヲヘシ

三 甲廳ヨリ定製艦船及軍艦内國出張ノ爲メ出張セシムル者ハ其出張ノ日數ニ應ジ日當ヲ給ス

第十八條 水路測量出張ノトキハ測地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日マテ車馬賃ヲ給セス日當一割増ヲ給ス但甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第二十四條 左ニ掲ケル事項ノ一ニ該ルトキハ第一表ノ日當及汽車料船泊料ノ定價及車馬賃ヲ給ス其車馬賃ハ陸路一里毎ニ旅費等級四等以上ニ當ル者ニハ十錢同五等以下ニ當ル者ニハ六錢ヲ給ス

四 會計監督部職員其職務ヲ以テ各艦團隊ニ隨檢ノ爲メ旅行スルトキ

○陸達第九十七號

工兵操典第四編對壕ノ部別冊ノ通定メナル (別冊略ス)

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十五年十二月二十六日

○海軍省達第百十號

艦團隊校需用品定額表定備第五類中「綱」及「鋪綱」並知港事所屬船需用品定額表定備第五類中「鋪綱」全部ヲ刪除ス

明治二十五年十二月二十七日

海軍大臣子爵仁禮景範

法令全書

告示

○大藏省告示第一號

舊銅貨天保通寶ハ明治十九年勅令第七十號ニ依リ明治二十四年十二月三十一日限通用禁止ニ候處
 人民ニ於テ所持ノモノ有之候ハ、明治二十三年法律第十三號ニ依リ明治二十九年十二月三十一日
 マテハ政府ニ於テ引換可致候ニ付至急最寄金庫ヘ引換方申出ヘシ
 但交換期限内ハ國稅其他國庫納入金ノ内ヘ天保通寶取交セ金庫ニ納入スルモ妨ナレ
 明治二十五年一月四日
 大藏大臣伯耆松方正義

〔參照〕

法律第十三號(明治二十三年三月一日官報)
 政府發行ノ補助貨幣及紙幣ニシテ通用ヲ廢止シタルモノハ其廢止ノ翌日ヨリ起算シ滿五年内ニ引換ヲ請求セザレハ即
 廢除トシテ政府ハ其引換義務ヲ免ル、モノトス但明治二十年六月三十日ヲ以テ通用ヲ廢止シタル拾錢紙幣ハ本法發布ノ日
 ヲリ起算シ滿三年ヲ以テ期滿免除ノ期限トス

○逓信省告示第一號

一貨幣封入郵便物受授見合印鑑 通第四百三號
 內國通運會社ヘ下渡ノ分

右印鑑紛失ノ旨今般届出候條所在發見ノモノハ本省ニ届出ツ可シ
 明治二十五年一月四日
 逓信大臣伯耆後藤繁三郎

○逓信省告示第二號

相模國足柄上郡松田、遠江國敷知郡磐津、三河國寶飯郡蒲郡、山城國乙訓郡山崎、信濃國上水内郡柏
 原、各鐵道停車場電信取扱所ニ於テ本月十六日ヨリ左ノ事項ニ依リ公衆電報取扱ヲ開施ス

但萬國電信條約書ニ依リ取扱フヘキ電報及歐文電報ハ取扱ハス

明治二十五年一月四日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

- 一通信取扱時限ハ一般郵便電信局及電信局ニ同シ
- 但柏原電信取扱所ニ限リ午後八時以後ハ取扱ハス
- 一取扱所ヨリ十八町以内ニ宛タル電報ハ直配達ヲナス
- 一本所ニ於テハ特ニ別使配達ヲ取扱フ

○司法省告示第一號

名古屋地方裁判所管内新城區裁判所富岡出張所明治二十五年一月十一日ヨリ開廳ス

明治二十五年一月六日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○司法省告示第二號

大阪地方裁判所管内茨木區裁判所高槻出張所明治二十五年一月十一日ヨリ開廳ス

明治二十五年一月八日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○遞信省告示第三號

相模國津久井郡吉野郵便局始メ左ノ各局へ郵便爲替及郵便貯金事務ヲ開施シ來ル二月一日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但當分ノ内小爲替振出ノ事務ヲ取扱ハシメス

明治二十五年一月八日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

- 相模國津久井郡吉野郵便局
- 陸中國東閉伊郡田老郵便局
- 甲斐國南都留郡小沼郵便局
- 肥後國玉名郡江田郵便局

- 上總國夷隅郡松野郵便局
- 播磨國揖西郡正條郵便局
- 讃岐國三野郡栗島郵便局
- 大隅國大島郡徳ノ島龜津郵便局

- 常陸國真壁郡海老島郵便局
- 紀伊國日高郡印南郵便局
- 筑前國宗像郡福岡郵便局

○遞信省告示第四號

武藏國北足立郡鳩ヶ谷郵便局始メ左ノ各局へ郵便爲替事務ヲ開施シ來ル二月一日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但當分ノ内小爲替振出ノ事務ヲ取扱ハシメス

明治二十五年一月八日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

- 武藏國北足立郡鳩ヶ谷郵便局
- 武藏國秩父郡本野上郵便局
- 武藏國荏原郡世田ヶ谷郵便局
- 駿河國庵原郡由比郵便局
- 上總國武射郡柴山郵便局
- 上野國吾妻郡長野原郵便局
- 下野國鹽谷郡平田郵便局
- 越後國北蒲原郡築地郵便局
- 越後國刈羽郡中田郵便局
- 三河國碧海郡安城郵便局
- 紀伊國南牟婁郡上野郵便局
- 美濃國山縣郡谷合郵便局
- 信濃國西筑摩郡上松郵便局
- 越前國丹生郡江波郵便局
- 加賀國河北郡北森下郵便局
- 越中國下新川郡生地郵便局
- 岩代國耶麻郡大鹽郵便局

- 武藏國北埼玉郡大越郵便局
- 武藏國北葛飾郡平沼郵便局
- 武藏國西多摩郡氷川郵便局
- 伊豆國君澤郡土肥郵便局
- 常陸國鹿島郡和村郵便局
- 上野國吾妻郡岩下郵便局
- 越後國南魚沼郡鹽澤郵便局
- 越後國中魚沼郡中魚沼中條郵便局
- 佐渡國雜太郡新町郵便局
- 尾張國愛知郡平針郵便局
- 伊勢國員辨郡阿下喜郵便局
- 美濃國可兒郡兼山郵便局
- 信濃國南佐久郡高野町郵便局
- 越前國足羽郡安原郵便局
- 能登國鹿島郡向田郵便局
- 越中國礪波郡津澤郵便局
- 磐城國田村郡新館郵便局

- 武藏國北埼玉郡騎西郵便局
- 武藏國新坐郡白子郵便局
- 遠江國敷知郡新所郵便局
- 上總國長柄郡木納郵便局
- 常陸國新治郡柿岡郵便局
- 上野國南甘樂郡新羽郵便局
- 越後國北蒲原郡木崎郵便局
- 三河國渥美郡二川郵便局
- 尾張國海東郡神守郵便局
- 伊勢國奄美郡上野郵便局
- 美濃國本巢郡山口郵便局
- 信濃國南佐久郡豐里郵便局
- 越前國今立郡谷口郵便局
- 能登國鳳至郡栗藏郵便局
- 越中國射水郡堀岡新郵便局
- 磐城國東白川郡川上郵便局

陸前國玉造郡鳴子郵便局
陸前國河邊郡和田郵便局
陸前國上北郡百石郵便局
和泉國日根郡淡輪郵便局
大和國吉野郡中戸郵便局
近江國坂田郡春照郵便局
播磨國飾西郡前ノ庄郵便局
但馬國美奈郡竹野郵便局
甲斐國東八代郡南八代郵便局
阿波國名東郡府中郵便局
伊豫國久米郡川上郵便局
美作國勝南郡勝間田郵便局
備前國上道郡長岡郵便局
備中國淺口郡鴨方郵便局
安藝國豐田郡大草郵便局
出雲國意宇郡入江郵便局
伯耆國日野郡霞郵便局
筑前國鞍手郡福丸郵便局
日向國西臼杵郡家代郵便局

○遞信省告示第五號
左記各局ニ於テ來ル二月一日ヨリ小爲替振出ノ事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月九日

渡島國爾志郡熊石郵便電信局

陸前國柴田郡村田郵便局
陸前國雄勝郡横堀郵便局
陸前國下北郡下風呂郵便局
舞津國島下郡福井郵便局
丹波國南桑田郡馬路郵便局
近江國滋賀郡木戸郵便局
播磨國飾西郡飾西郵便局
紀伊國西牟婁郡朝來郵便局
阿波國板東郡與野郵便局
讃岐國小豆郡小江郵便局
伊豫國北宇和郡宮野下郵便局
備前國邑久郡神崎郵便局
備中國小田郡小田郵便局
安藝國高田郡甲立郵便局
備後國高石郡福永郵便局
石見國邑智郡中野郵便局
筑前國宗像郡神港郵便局
肥後國天草郡二江郵便局
日向國兒湯郡水城郵便局

陸前國宮城郡根白石郵便局
陸前國東磐井郡摺澤郵便局
和泉國和泉郡伯太郵便局
大和國山邊郡三本松郵便局
丹後國與謝郡日置郵便局
近江國神崎郡石塚郵便局
播磨國神東郡屋形郵便局
紀伊國西牟婁郡田並郵便局
阿波國那賀郡桑野郵便局
讃岐國瀨足郡造田郵便局
伊豫國東宇和郡東多田郵便局
備前國磐梨郡澤原郵便局
備中國上房郡川面郵便局
安藝國山縣郡壬生郵便局
出雲國飯石郡原郵便局
因幡國氣多郡寶木郵便局
筑前國御笠郡太宰府郵便局
肥後國託麻郡砂取郵便局

遞信大臣伯耆後藤象二郎

渡島國上磯郡上磯郵便局

渡島國松前郡福島郵便電信局
後志國磯谷郡磯谷郵便局
後志國古宇郡神恵内郵便局
石狩國濱益郡濱益郵便電信局
天鹽國苫前郡燒尻郵便局
根室國標津郡標津郵便電信局
北見國紋別郡紋別郵便局
北見國利尻郡鬼脇郵便局
十勝國廣尾郡茂寄郵便局

○遞信省告示第六號

筑前國鞍手郡直方鐵道停車場電信取扱所ニ於テ來ル十六日ヨリ左ノ事項ニ據リ公衆電報取扱ヲ開始ス

但萬國電信條約書ニ依リ取扱フヘキ電報ハ取扱ハス

明治二十五年一月九日

遞信大臣伯耆後藤象二郎

一 遞信取扱時間ハ一般郵便電信局及電信局ニ同シ
一 停車場所在宿驛内ニ宛タル電報ハ直配達ヲナス
一 本所ニ於テハ特ニ別使配達ヲナス

○遞信省告示第七號

本月十六日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月九日

遞信大臣伯耆後藤象二郎

國郡名

舊稱

新稱

後志國島牧郡

永豐郵便局

永豐郵便電信局

越後國北蒲原郡
三河國碧海郡
紀伊國東牟婁郡
伊豫國上浮穴郡
筑後國上妻郡
筑後國生葉郡

中條郵便局
北大濱郵便局
三輪崎郵便局
久万町郵便局
福島郵便局
吉井郵便局

中條郵便電信局
北大濱郵便電信局
三輪崎郵便電信局
久万町郵便電信局
福島郵便電信局
吉井郵便電信局

○逓信省告示第八號
本月十六日ヨリ左ノ郵便局電信局ヲ合併シ共事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月九日

國郡名

郵便局名

合併局名

等級

渡島國松前郡
越後國刈羽郡
相模國足柄下郡

福山郵便局
同山郵便局
柏崎郵便局
同小田原郵便局

福山郵便電信局
柏崎郵便電信局
小田原郵便電信局

三等
三等
三等

○逓信省告示第九號
後志國島牧郡永豐郵便局ヲ始メ左ノ各局へ郵便爲替及郵便貯金事務ヲ開施シ來二月一日ヨリ共事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月十一日

○逓信省告示第十號
本月十六日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ共事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月十一日

後志國島牧郡永豐郵便局

渡島國爾志郡乙部郵便局

逓信大臣伯耆後藤象二郎

明治二十五年一月十一日

逓信大臣伯耆後藤象二郎

逓信大臣伯耆後藤象二郎

國郡名
但馬國七美郡
但馬國二方郡

舊稱
村岡郵便局
濱坂郵便局

新稱
村岡郵便電信局
濱坂郵便電信局

○内務省告示第一號
日本渡島函館港登圓切符日本銀行登圓兌換銀券ニ換出シタルモノ

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十五年一月十二日

發行者未詳

一枚

發行者未詳
一枚
內務大臣子爵品川彌二郎

○内務省告示第二號
一西野君名譽此當ニト題スル雜畫

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十五年一月十二日

發行者未詳

一枚

發行者未詳
一枚
內務大臣子爵品川彌二郎

○大藏省告示第二號
一中山道鐵道公債元金三百萬圓

右整理償還ノ爲メ本月中抽籤執行ス

但抽籤ノ都合ニ依リ償還額ニ多少ノ増減アルヘシ

明治二十五年一月十二日

大藏大臣伯耆松方正義

大藏大臣伯耆松方正義

○外務省告示第一號
從來清國官吏公用ノ爲メ外商ヨリ金圓ヲ借入ルハ時ハ勅裁ヲ請ヒ且貸主ノ國ノ公使ニ照會シ然ル

後貸借致スヘキ成規ニ有之候處近來直接ニ借入候者等有之不都合ノ趣ヲ以テ今般同國總理衙門ニ

於テハ已來右ノ手續ヲ履マスシテ貸借セシ者ハ證書中官印押捺ノ有無ニ拘ラス一切之ニ關セス又

之ヲ代償セサルコトニ決定シタル旨同國政府ヨリ通知アリタリ

明治二十五年一月十三日

外務大臣子爵本武揚

外務大臣子爵本武揚

○內務省告示第三號

山口縣士族頼野廣太郎ノ私設ニ係ル山口縣吉敷郡上宇野令村頼野私立山口測候所ハ本年一月一日開始ス

明治二十五年一月十三日

內務大臣子爵品川彌二郎

○海軍省告示第一號

明治二十五年海軍志願兵徵募兵員左ノ通定

明治二十五年一月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

海軍志願兵徵募區	鎮守府水兵	兵備隊兵	軍樂生	火夫	工役	治着病夫	夫計
第一 櫻須賀	六三	二六	四三	三六	一〇	八	一〇二
第二 吳	九	三三	一	一三	六	九	一六
第三 佐世保	六五	二	一	二六	四	五	八
合計	一三七	六〇	四五	七五	二〇	一九	二九一
							一四一
							五五

○司法省告示第三號

明治二十四年七月當省告示第七十九號區裁判所出張所裁判開庭場所管轄區域及期日表中左ノ通改定

大分	谷川		從前ノ通
	中戸次	從前ノ通	
分	田	長	湯
付	田	長	湯
			從前ノ通
			四月十一月 各十日間

司法大臣子爵田中不二麻呂

○遞信省告示第十一號

濠洲英領殖民地南「ヌーペールガル」西「オーストラリ」及「ヌーペール、ゼランド」ノ諸郵政廳ハ書留郵便物ノ紛失ニ對シ賠償セサル旨通知アリタリ

明治二十五年一月十三日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

○遞信省告示第十二號

左記各局ニ於テ電信爲替ヲ開設シ來ル二月一日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月十三日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

- 遠江國豐田郡二保郵便電信局 伊豆國君澤郡三島郵便電信局
- 甲斐國北巨摩郡進藤郵便電信局 甲斐國東山梨郡勝沼郵便電信局
- 甲斐國北都留郡上野原郵便電信局 甲斐國南巨摩郡敷澤郵便電信局
- 陸中國東和賀郡黒澤尻郵便電信局 陸中國東閉伊郡山田郵便電信局
- 陸中國西閉伊郡遠野郵便電信局 長門國厚狹郡船木郵便電信局
- 北見國宗谷郡稚内郵便電信局

內務省告示第四號

一日本銀行兌換錄卷(銀行兌換券ニ類似)日本銀行發行 發行者未詳
右出版物ハ治安ニ妨害アリト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス 內務大臣子爵品川彌二郎
明治二十五年一月十四日

○大藏省告示第三號

- 一金壹萬圓 六分付金札引換公債元金
- 一金壹萬圓 六分付金札引換無記名公債元金
- 一金壹萬圓 六分付金祿公債元金

一金壹萬圓

一金六萬圓

六分 起業公債元金
七分 中山道鐵道公債元金

右二十四年度豫計豫算ニ據リ償還ノ爲メ本月中抽籤執行ス
但抽籤ノ都合ニ依リ償還金額ニ多少ノ増減アルヘシ

明治二十五年一月十四日

大藏大臣伯爵松方正義

○逓信省告示第十三號

來二月一日ヨリ渡島國爾志郡三ツ谷郵便局ヲ同國同郡蚊柱村ニ移シ蚊柱郵便局ト改稱ス

明治二十五年一月十四日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○文部省告示第一號

右ハ明治二十二年ハ法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ノモノト認ム

明治二十五年一月十五日

山口縣赤間關市市立赤間關商業學校
文部大臣伯爵大木喬任

〔參照〕

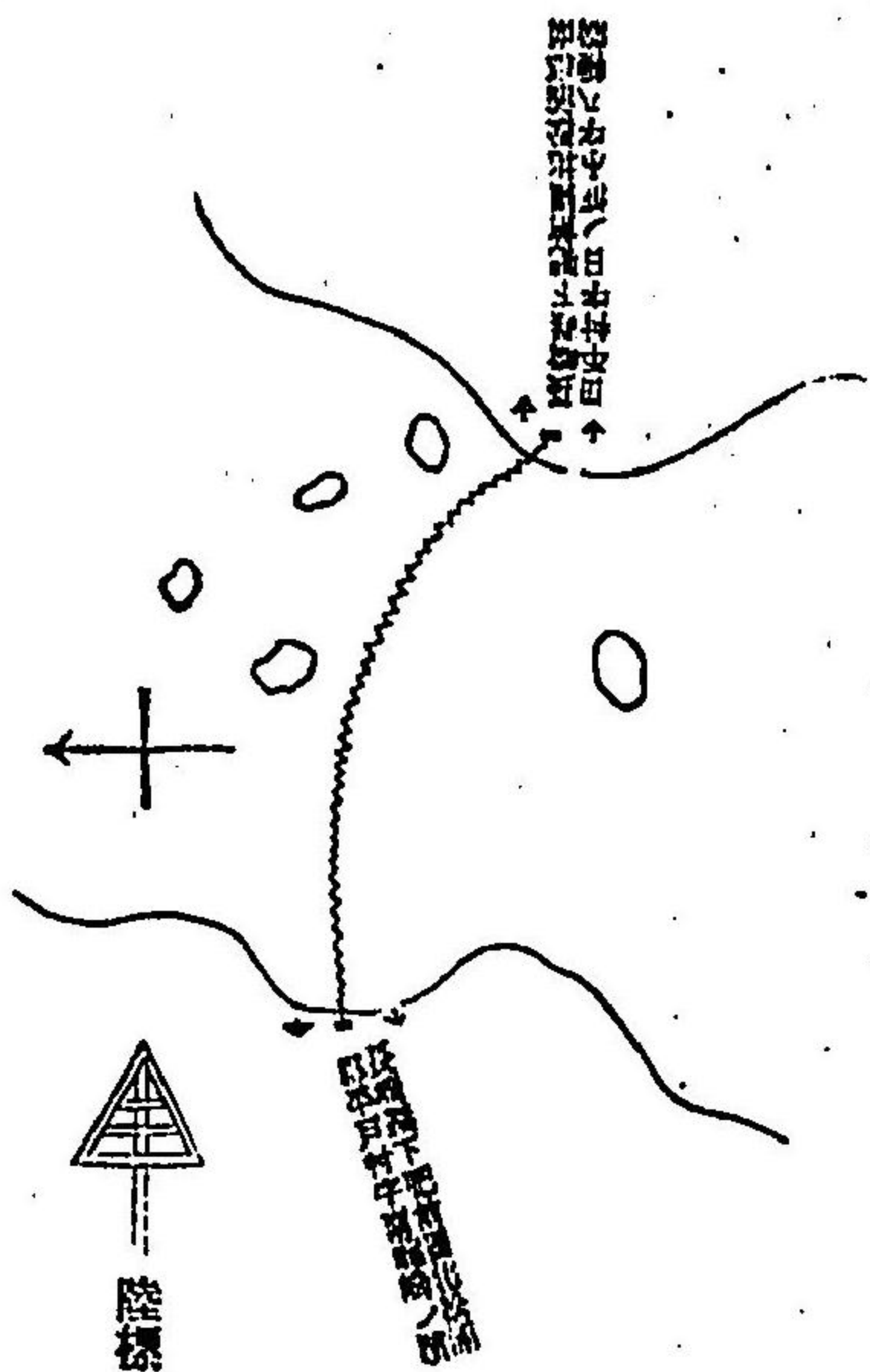
法律第一號徵兵令(明治二十二年一月二十二日官報抄録)
第十一條第一項 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校ノ小學校及中等學校ノ課程ヲ修メ且テ府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學校ニ依リ法律學政治學經濟學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服履具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其殘部ヲ官給スルコトアル可シ

○逓信省告示第十四號

長崎縣下肥前國北松浦郡南田平村字日ノ浦小字八幡崎ト同郡平戸村字南龍崎ノ濱トノ間ニ海底電信線一條ヲ沈布シ左圖線條ノ左右各五十間以內ヲ以テ該線路内ト定ム

明治二十五年一月十五日

逓信大臣伯爵後藤象二郎



○逓信省告示第十五號

一 汽船己卯丸免狀 第八十三號 明治二十二年六月二十四日登載

右ハ北海道渡島國函館區豐川町佐々木市造所有ノ處明治二十四年十月二十三日陸奧國東津輕郡平館沖ニ於テ本船沈没ノ際流失セシ旨届出ニ付其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ヘ申出ヘシ但該免狀ハ無効ニ屬ス

明治二十五年一月十五日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○逓信省告示第十六號

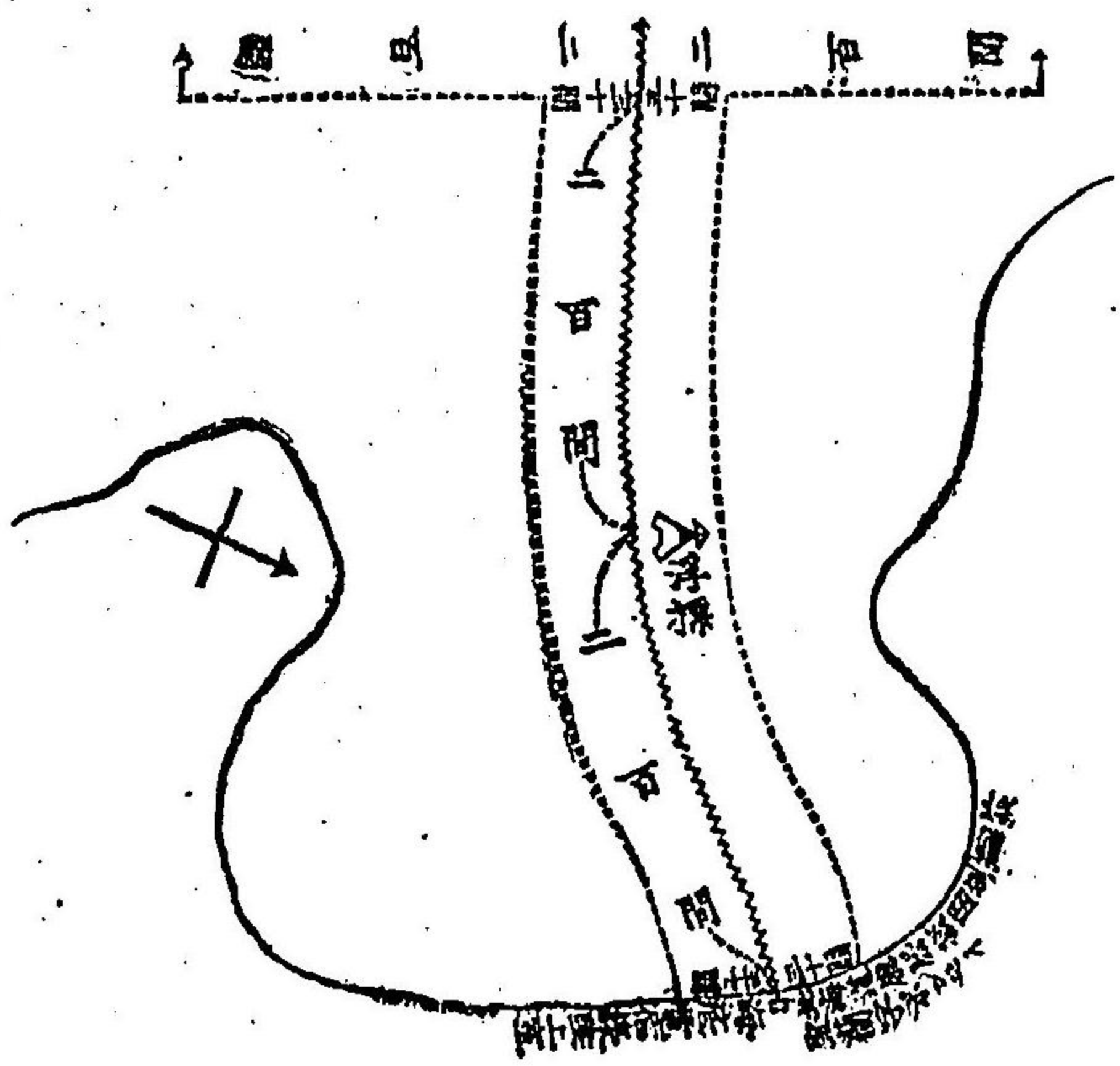
兵庫縣下播磨國明石郡西垂水村ト同縣下淡路國津名郡岩屋浦トノ間ニ布設ノ海底電信線ハ客年十二月十五日之ヲ撤去ス

明治二十五年一月十五日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○逓信省告示第十七號

明治二十四年八月當省告示第九十一號海底電信線路室蘭字ホシモイ海岸ノ部分左圖ノ通陸揚地ヨリ四百間以内ハ線條ノ左右各三十間ヲ該線路内ト改正ス
明治二十五年一月十八日
逓信大臣伯爵後藤象二郎



○大藏省告示第四號

一六分利付金祿公債證書額面百十圓
一七分利付金祿公債證書額面三千七百四十圓
右ハ明治二十年三月大藏省告示第二十九號及同二十二年三月同省告示第二十八號第二項ニ依リ二十四年四月ヨリ同年十二月マテニ整理公債證書ト引換タリ
一二十年發行整理公債證書額面三千百圓
一二十一年發行整理公債證書額面九百圓
一二十二年發行整理公債證書額面七千五百圓
一二十三年發行整理公債證書額面一万二千九百五十圓
一二十四年發行整理公債證書額面二百五十万四千五百圓
右ハ明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例第三十條竝ニ二十年三月大藏省告示第二十九號及二十二年三月同省告示第二十八號第二項ニ依リ二十四年四月ヨリ同年十二月マテニ引換タル證書ニ對シ發行シタリ
明治二十五年一月二十日
大藏大臣伯爵松方正義

〔參照〕

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄録
第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ
大藏省告示第二十九號(明治二十年三月十五日)
一七分利付金祿公債ニ限リ整理公債ニ交換スルヲ得ヘキ旨各年十一月大藏省告示第九十一號ヲ以テ告示ニ及候處自今六分以上利付各種公債共所有者ノ望ニ由リ其交換ヲ請フコトヲ得
一前項ノ交換ヲ望ムモノハ其請求書ニ本證書ヲ添ヘ日本銀行本店又ハ代理店へ申込ムヘシ
但舊證書ハ當省ヨリ新證書發行ノ月マテ新證書ハ其翌月ヨリ利子ヲ付スルモノトス

大藏省告示第二十八號(明治二十二年三月十五日)抄録

第一項
 一 明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例第三十條ニ據リ六分以上利付公債證券ノ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リテ整理公債證券ヲ交付スルトキハ日本銀行ヲシテ其請求期限及其他ノ手續ヲ廣告セシム

第二項
 一 償還ヲ受クヘキ證券ノ額面五拾圓未満ニシテ整理公債證券ノ額面ニ滿タサルモノアルトキハ之ニ他ノ六分以上利付公債證券ヲ加ヘテ前項ノ請求ヲナスコトヲ得

○逓信省告示第十八號

自今左ノ在外國本邦二等郵便電信局郵便局等級ヲ一等ニ改定ス

明治二十五年一月二十日

逓信大臣伯爵後藤象二郎
朝鮮國釜山郵便電信局 朝鮮國元山郵便局 朝鮮國仁川郵便局 清國上海郵便局

○司法省告示第四號

鳥取地方裁判所管内鳥取區裁判所郡家出張所及ヒ若櫻出張所明治二十五年二月一日ヨリ開廳ス

明治二十五年一月二十一日
司法大臣子爵田中不二麻呂

○逓信省告示第十九號

一 乙種二等機關手技術免狀 第二百八十號 明治二十二年九月二十日登簿

右者滋賀縣平民清水政次郎所有ノ處二十四年十一月十四日品川海員寄宿所ヨリ本所區北二葉町迄ノ途中ニ於テ遺失セシ旨届出ニ依リ其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ヘ可申出但該免狀ハ無効ニ屬ス

明治二十五年一月二十一日
逓信大臣伯爵後藤象二郎

○逓信省告示第二十號

巴里締結里斯本改正萬國郵便條約實施細目規則第四條貨幣比例表中「シロ」ノ次ニ左ノ如ク追加シ同細目規則第二十八條第五項第一等中「英印度」ノ次ニ「濠太刺利英領殖民地」ヲ追加ス

明治二十五年一月二十一日

濠太刺利 ニハンス半 一ハペンニー 半ハペンニー

○逓信省告示第二十一號

來二月一日ヨリ後志國壽都郡壽都郵便局及壽都電信局ヲ合併シ其等級ヲ三等トシ壽都郵便電信局ト稱シ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年一月二十一日
逓信大臣伯爵後藤象二郎

○逓信省告示第二十二號

客年十二月中西洋形船ヘ左ノ信號符字ヲ點附ス

明治二十五年一月二十二日
逓信大臣伯爵後藤象二郎

西洋形船

信號符字	免狀番號	船名	種類	定 點 場	船主氏名
H J K T	二六六 1266	第三 共立丸 Korisan Maru	汽	尾張國熱田	共立汽船株式會社
H J K V	二六七 1267	後志丸 Shiribeshi Maru	汽	渡島國函館	岩田 榮藏
H J K W	二六八 1268	第二號 八幡丸 Yuwaku Maru	帆	土佐國夜須村	手結 七

○宮内省告示第一號

能久親王殿下第四王女信子女王殿下昨二十二日薨去セラル

明治二十五年一月二十三日
宮内大臣子爵土方久元

○內務省告示第五號

明治十八年二月第六號告示國道表中第十六號路線變換ニ付鶴川野田尻及犬目ヲ除ク

明治二十五年一月二十三日
內務大臣子爵品川彌二郎

○内務省告示第六號

明治二十四年七月勅令第二百二十號第四條ニ依リ従前指定ノ外仍ホ左ノ郡ヲ指定ス

大阪府

東成郡住吉郡

神奈川縣

大住郡洵綾郡

兵庫縣

川邊郡 揖西郡

新潟縣

刈羽郡 南蒲原郡

埼玉縣

大里郡幡羅郡榛澤郡男衾郡

群馬縣

山田郡

千葉縣

望陀郡周准郡天羽郡

茨城縣

東茨城郡 那珂郡

奈良縣

式上郡式下郡宇陀郡十市郡

三重縣

飯高郡飯野郡

愛知縣

中島郡 碧海郡

静岡縣

豐田郡山名郡磐田郡

滋賀縣

蒲生郡 甲賀郡

岐阜縣

厚見郡各務郡方縣郡

長野縣

惠那郡

上伊那郡

羽栗郡中島郡

福島縣

田村郡

巖手縣

耶麻郡

青森縣

稗貫郡東和賀郡西和賀郡

南津輕郡

秋田縣

南巖手郡北巖手郡紫波郡

山木郡

福井縣

大野郡
 島根縣
 遼摩郡安濃郡
 德島縣
 名東郡
 香川縣
 三野郡豐田郡
 愛媛縣
 西宇和郡
 福岡縣
 上座郡下座郡夜須郡
 山門郡
 大分縣
 北海部郡
 鹿兒島縣
 給黎郡播磨郡額姓郡川邊郡
 明治二十五年一月二十三日
 〔參照〕
 勅令第百二十號地方官俸給令(明治二十四年七月二十七日官報)抄録
 第四條 部長ノ年俸ハ六百圓トス
 内務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ部長ハ年俸八百圓ヲ給ス但其人ハ二百人以内トス

○逓信省告示第二十三號
 内務大臣子爵品川彌二郎

來二月一日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
 明治二十五年一月二十三日
 國郡名

丹後國與謝郡	岩瀧郵便局	新稱	岩瀧郵便電信局
丹波國氷上郡	柏原郵便局		柏原郵便電信局
播磨國加古郡	高砂郵便局		高砂郵便電信局
肥後國玉名郡	高瀬郵便局		高瀬郵便電信局
肥後國菊池郡	隈府郵便局		隈府郵便電信局
陸前國氣仙郡	盛 郵便局		盛 郵便電信局
加賀國石川郡	松任郵便局		松任郵便電信局
伊豫國北宇和郡	吉田郵便局		吉田郵便電信局
伊豫國東宇和郡	卯之町郵便局		卯之町郵便電信局
三河國寶飯郡	豐川郵便局		豐川郵便電信局

○逓信省告示第二十四號
 來二月一日ヨリ信濃國西筑摩郡末川郵便局ヲ同國同郡開田村大字西野ニ移轉シ西野郵便局ト改稱ス
 明治二十五年一月二十五日
 逓信大臣伯爵後藤藤三郎

○宮内省告示第二號
 露西亞國皇帝陛下ノ皇伯父太公コンスタンタンニコライヴチ殿下薨去ニ付今二十六日ヨリ來ル
 三十一日マテ六日間宮中喪 仰出サル
 明治二十五年一月二十六日
 宮内大臣子爵土方久元

明治二十五年一月 告示 逓信省第二十四號 宮内省第二號
 一九

○宮内省告示第三號

露西亞國皇帝陛下ノ皇伯父太公コンスタンタン、ニコライウヰチ殿下薨去ニ付宮中喪六日間高等官有爵者從六位勳六等以上ノ輩參内ノ節左ノ通喪服着用可致旨 仰出サル

明治二十五年一月二十六日

宮内大臣子爵土方久元

男子

○大禮服

一 黒紗ヲ左腕ニ纏フ

一 手套鼠又ハ白色

○通常禮服

一 手套鼠又ハ白色

○通常服(上下黒)

一 黒羅紗ヲ以テ帽ニ纏フ

一 襟飾黒色手套黒又ハ鼠色

婦人

一 服地黒色

一 手套黒又ハ鼠色

陸海軍將校及相當官ハ左腕ニ黒紗ヲ纏フ

○内務省告示第七號

北海道廳下十勝國河西郡帶廣村ニ測候所ヲ設置シ十勝三等測候所ト稱シ本年一月ヨリ開始ス

明治二十五年一月二十六日

内務大臣子爵品川彌二郎

○農商務省告示第一號

二箇以上ノ借區ヲ合併シ一借區ト爲スノ許可ヲ得タルトキ其借區年限ハ原借區中最後ニ許可ヲ得タル借區ノ年限ニ據ルモノトス

明治二十五年一月二十七日

農商務大臣陸奥宗光

○逓信省告示第二十五號

亞細亞露西亞ブラゴウエチエンスク及ポーセツトヘノ隱語電報ハ一時之ヲ禁止スル旨萬國電信總局ヨリ通報シ來レリ

明治二十五年一月二十八日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○宮内省告示第四號

本月三十日 孝明天皇御例祭ニ付當日除喪 仰出サル

明治二十五年一月二十九日

宮内大臣子爵土方久元

○逓信省告示第二十六號

英領殖民地南オーストラリア郵政廳ハ書留郵便物ノ紛失ニ對シ賠償セサル旨通知アリタリ

明治二十五年一月二十九日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○大藏省告示第五號
 三重縣下津本金庫所屬久居支金庫ヲ二十五年二月十五日一志郡久居町大字久居旅籠町へ移ス
 明治二十五年二月一日
 大藏大臣伯耆松方正義

○遞信省告示第二十七號
 一貨幣封入郵便物受授見合印鑑 東三五九號 一葉
 但上總國八幡郵便局へ下渡ノ分
 右紛失ノ旨届出候條自今該印鑑ハ無効トス
 明治二十五年二月二日
 遞信大臣伯耆藤象二郎

○遞信省告示第二十八號
 來二月十六日ヨリ左ノ郵便局電信局ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシム
 明治二十五年二月二日
 遞信大臣伯耆藤象二郎

國郡名	郵便局名	合併局名	等級
肥前國北高來郡	同 陝早郵便局	諫早郵便電信局	三等
越後國南蒲原郡	同 三條郵便局	三條郵便電信局	三等
越後國古志郡	同 長岡郵便局	長岡郵便電信局	三等
羽後國山本郡	同 能代郵便局	能代郵便電信局	三等
後志國岩内郡	同 岩内郵便局	岩内郵便電信局	三等

○遞信省告示第二十九號
 來ル十六日ヨリ信濃國下伊那郡平岡村字滿島へ三等郵便局ヲ置キ滿島郵便局ト稱シ其事務ヲ取扱

ハシム
明治二十五年二月二日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

○遞信省告示第三十號

一 遞信省監察章 第八十四號

右ハ山口郵便電信局書記西村忠二郎へ交付ノ分今般紛失ノ旨届出候條自今該章ハ無効トス

明治二十五年二月四日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

○司法省告示第五號

長崎地方裁判所管内對馬國樫瀧村登記所明治二十五年三月一日ヨリ開廳ス

明治二十五年二月五日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○司法省告示第六號

千葉地方裁判所管内八日市場區裁判所東金出張所及木更津區裁判所市場出張所裁判ノ備當分ノ内開廷セス

明治二十五年二月五日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○司法省告示第七號

静岡地方裁判所管内下田區裁判所南中出張所明治二十五年二月二十日ヨリ開廳ス

明治二十五年二月六日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○遞信省告示第三十一號

門司鐵道停車場電信取扱所ニ於テ本月十六日ヨリ返信料前納電報モ亦發著共之ヲ取扱フ

明治二十五年二月六日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

○內務省告示第八號

一國會の解散及改撰に就き人民の心得問答 熊本縣熊本市米屋町一丁目九番地梅田又次郎發行

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十五年二月八日

內務大臣子爵品川彌二郎

○遞信省告示第三十二號

本月十六日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
但信濃國高遠郵便電信局ニ限リ當分ノ内歐文電報歐字及亞刺比亞數字ヲ挿入シタル和文電報ハ取扱ハス

明治二十五年二月八日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

國郡名	舊稱	改稱
遠江國城東郡	橫須賀郵便局	橫須賀郵便電信局
三河國碧海郡	刈谷郵便局	刈谷郵便電信局
武藏國北葛飾郡	幸手郵便局	幸手郵便電信局
信濃國上伊那郡	高遠郵便局	高遠郵便電信局
肥前國藤津郡	鹿島郵便局	鹿島郵便電信局
北見國紋別郡	紋別郵便局	紋別郵便電信局
阿波國勝浦郡	小松島郵便局	小松島郵便電信局
武藏國北埼玉郡	行田郵便局	行田郵便電信局

○遞信省告示第三十三號

本月十六日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
明治二十五年二月九日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

國郡名	舊稱	新稱
豐後國北海郡	臼杵郵便局	臼杵郵便電信局

豐後國速見郡

杵築郵便局

杵築郵便電信局

○逓信省告示第二十四號

左ノ郵便電信局ニ於テ本月十六日ヨリ歐文電報及歐字又ハ亞刺比亞數字ヲ記入シタル和文電報ノ取扱ヲ開始ス

明治二十五年二月九日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

陸中國花巻郵便電信局

陸中國釜石郵便電信局

○逓信省告示第二十五號

遠江國引佐郡澁川郵便局ヲ始メ左ノ各局へ郵便爲替及郵便貯金事務ヲ開施シ來三月十六日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但釧路國太田郵便局ヲ除クノ外ハ當分ノ内小爲替振出事務ヲ取扱ハシメス

明治二十五年二月十日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

遠江國引佐郡澁川郵便局

釧路國厚岸郡太田郵便局

土佐國香美郡大柄郵便局

大隅國大島郡喜界島早町郵便局

大隅國大島郡大島赤木名郵便局

琉球國本部郵便局

○逓信省告示第二十六號

下總國香取郡滑川郵便局始メ左ノ各局へ郵便爲替事務ヲ開施シ來三月十六日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但當分ノ内小爲替振出ノ事務ヲ取扱ハシメス

明治二十五年二月十日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

下總國香取郡滑川郵便局

越中國上新川郡五百石町郵便局

羽後國西置賜郡秋生郵便局

羽後國飽海郡遊佐郵便局

播磨國印南郡大鹽郵便局
土佐國長岡郡川口郵便局
長門國厚狹郡厚狹郵便局
長門國大津郡古市郵便局
豐後國大分郡野津原郵便局
肥前國西彼杵郡野母郵便局
壹岐國石田郡印通寺郵便局

土佐國吾川郡新川郵便局
周防國佐波郡島地郵便局
長門國豐浦郡特牛郵便局
豐後國大野郡野津市郵便局
肥前國西彼杵郡矢上郵便局
肥前國小城郡多久郵便局
大隅國西瞻嚙郡濱ノ市郵便局

○逓信省告示第二十七號

肥前國南高來郡高原町ニ郵便爲替取扱所ヲ設ケ島原町郵便爲替取扱所ト稱シ來ル三月十六日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年二月十日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○司法省告示第八號

秋田地方裁判所管内秋田區裁判所新屋出張所明治二十五年二月二十日ヨリ開廳ス

明治二十五年二月十五日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○司法省告示第九號

宮崎地方裁判所管内都城區裁判所加久藤出張所本年一月十日火災ニ罹リ宮崎縣日向國西諸縣郡加久藤村地所建物賃入書入公證割印簿悉皆燒失シタルヲ以テ同村地所建物ニ賃入書入ノ公證ヲ受ケタルモノハ本年三月十日限更ニ加久藤出張所ニ登記ヲ願出ツ可シ

但本文期限内ハ燒失セシニ依リ更ニ登記ヲ爲ス可キモノ、外同村地所建物ノ登記ヲ停止ス

明治二十五年二月十五日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○内務省告示第九號

一日本前橋小兒手遊堂圖 日本銀行兌換銀 一枚 群馬縣前橋町大字榎町三十二番地田邊作太郎發行
右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス
明治二十五年二月十六日 内務大臣子爵品川彌二郎

○陸軍省告示第一號

明治二十五年ニ於テ陸軍一年志願兵條例第六條ニ依リ官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ人員左ノ通定ム
明治二十五年二月十六日 陸軍大臣子爵高島綱之助

第六條第二項ノ者前記ノ定員ニ滿タサルトキ其定員ニ滿ツル迄之ヲ許ス		第六條第六項ノ者						第六條第七項ノ者					
第六條第六項ノ者		第六條第七項ノ者		第六條第八項ノ者		第六條第九項ノ者		第六條第十項ノ者		第六條第十一項ノ者		第六條第十二項ノ者	
要塞砲兵	野戰砲兵	騎兵	歩兵	砲兵	騎兵	歩兵	砲兵	騎兵	歩兵	砲兵	騎兵	歩兵	砲兵
計	三九	六七	六〇	六〇	六一	六〇	六七	四一四	計	三三	四八	四八	四八
工兵	一	三	三	三	三	三	三	一	工兵	一	三	三	三
要塞砲兵	四	六	六	六	六	六	六	四〇	野戰砲兵	二	二	二	二
騎兵	二	二	二	二	二	二	二	二	騎兵	二	二	二	二
歩兵	三三	四八	四八	四八	四八	四八	四九	三二一	歩兵	三三	四八	四八	四八
砲兵	二	二	二	二	二	二	二	二	砲兵	二	二	二	二
計	三九	六七	六〇	六〇	六一	六〇	六七	四一四	計	三三	四八	四八	四八

者ノ項	
工兵	騎兵
一 近衛師團ニ於テ服役セシム可キ者ハ第一師團ニ於テ出願ノ者ニ限ル	一 近衛師團ニ於テ服役セシム可キ者ハ第一師團ニ於テ出願ノ者ニ限ル
一 第六師團定員中ノ歩兵及要塞砲兵ニハ對馬警備隊ニ於テ服役ヲ許ス可キ者各一名ヲ含有ス	一 第六師團定員中ノ歩兵及要塞砲兵ニハ對馬警備隊ニ於テ服役ヲ許ス可キ者各一名ヲ含有ス

〔參照〕

勅令第十四號陸軍一年志願兵條例(明治二十二年二月二十七日官報)抄録
第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム
一 居宅及食糧ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同機部隊ヨリ被服裝具彈藥武器及器具ヲ給與ス
二 武器及器具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同機部隊ヨリ食糧被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシ

○遞信省告示第三十八號

來三月一日ヨリ石狩國上川郡永山村ニ三等郵便局ヲ置キ永山郵便局ト稱シ其事務ヲ取扱ハシム
明治二十五年二月十六日 遞信大臣伯爵後藤象二郎

○内務省告示第十號

一高知縣民吏兩黨の激戰(圖畫) 三枚續キ 東京日本橋區馬喰町二丁目十一番地澤久次郎發行
右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス
明治二十五年二月十七日 内務大臣子爵品川彌二郎

○司法省告示第十號

富山地方裁判所管内富山區裁判所保存ノ左記各市村舊公證簿明治二十三年十月五日水害ニ罹リタルニ因リ朽腐シタルヲ以テ右各市村地所建物船舶ニ付買賣讓與質入書入ノ公證ヲ受ケタルモノハ本年三月二十日限更ニ富山區裁判所ニ登記ヲ願出ツ可シ
明治二十五年二月 告示 遞信省第三十八號 内務省第十號 司法省第十號

地所賣買讓渡割印簿 自明治十四年一月 三册
 至明治十九年一月
 建物賣買讓渡割印簿 自明治十九年一月 五册
 至明治十九年一月
 船舶賣買讓渡割印簿 自明治十九年一月 一册
 至明治十九年一月
 富山縣越中國上新川郡元町新庄村戸長役場備付分
 上新川郡元町新庄村同藤木町同新庄野村同河原新村同朝日村同新村同大中島村同藤木新村
 同金代村同高島新村同向新庄村同大江千村同中間島村同朝日新村同川原毛村同日俣村同本江
 島村
 地所賣買公證割印簿 自明治十七年一月 四册
 至明治二十年一月
 建物賣買公證割印簿 自明治十七年一月 四册
 至明治二十年一月
 富山縣越中國上新川郡元針原中村戸長役場備付分
 上新川郡元針原中村同針原橫越村同濱黑崎村同平榎野田村同野中村同野田村同日影村同針水
 村同小西村同宮村同楠村
 地所賣買公證割印簿 自明治十九年一月 五册
 至明治二十年一月
 上新川郡元濱黑崎村同針原中村同平榎野田村
 建物賣買公證割印簿 自明治十九年一月 一册
 至明治二十年一月
 上新川郡元手屋村同針原中村同高來村同濱黑崎村同宮成新村同金泉寺村同道正村同野中村同
 針原橫越村同針原中村同下飯野村
 建物賣買公證割印簿 自明治十八年一月 一册
 至明治二十年一月
 上新川郡元針原中村同針原中村同島等村同新保村同針原橫越村同平榎野田村同高來村同
 濱黑崎村同針水村同日影村同下飯野村同手屋村同金泉寺村同宮村同小西村同楠村同一本木村

同宮成村同野中村同宮成新村同宮條村同中野新村同五本榎村同高島村同町袋村同道正村同野
 中新村同上村
 地所賣買公證割印簿 自明治十七年八月 一册
 至明治二十年十二月
 富山縣越中國上新川郡元赤田村戸長役場備付分
 上新川郡元赤田村同二俣村同小杉村同布市村同下堀村同大町村同木郷下新村同大泉村同西中
 野村同根塚村同太郎丸村同小泉村同西田地方村同磯部村同布瀨村同二口村同下黑瀨村同今泉
 村同下掛尾村同上掛尾村同袋村
 地所賣買公證割印簿 自明治十四年十二月 一册
 至明治十七年四月
 富山縣越中國上新川郡元秋ヶ島村戸長役場備付分
 上新川郡元秋ヶ島村同八日町村同黑崎村同最勝寺村同黑瀨村同上轡田村同福井村同神通村同
 別名皆新田村同西荒屋村同經田村同惣在寺村同吉倉村同任海村同萩原村同才覺寺村同大和利新
 村同南中田村同西塚原村同友杉村同押川村同東塚原村同下板倉村同和田村同野飼村同羽根新
 村同下轡田村同島黑瀨村同增田村同羽根村同上栗山村同西新保村同西本郷村同高田新村同和
 田新村同上大久保村同東本郷村同高田村
 地所賣買約定證割印簿 明治十四年分
 富山縣越中國上新川郡元新庄新町村戸長役場備付分
 上新川郡元山室町村同古手村同大場村同流杉村同西野新村同川原新村
 地所賣買公證割印簿 自明治十七年一月 一册
 至明治十七年七月
 上新川郡元新庄新町村同蓮花寺村同荒川村同中裝浦村同東下赤江村同東上赤江村同綾山村
 同上富居村同鍋田村同經堂村同上飯野村同東双代村同中富居村
 地所賣買公證割印簿 自明治十七年八月 一册
 至明治十七年八月

地所建物割印錯雜更正割印簿 明治十八年分 一册
 地所建物賣買割印簿 自明治十九年一月 二册
 富山縣越中國上野村元大村戶長役場備付分 自明治二十年一月
 上新川郡元大村同日方江村同東岩瀬村同田畑村同西宮村同森村同金山新村同草島村 一册
 地所建物船賣買讓渡割印簿 自明治十七年八月 一册
 富山縣越中國婦負郡元金屋村戶長役場備付分
 婦負郡元下野村 一册
 地所建物公證割印簿 自明治十七年六月 一册
 富山縣越中國婦負郡元田苧屋村戶長役場備付分
 婦負郡元針原村同舟橋新村同五艘村同北代村同石坂新村同四ノ屋村同百塚村同田苧屋村同宮尾村同駒見村同山岸村同針原新村同百塚新村同松木村同北代新村同林新村同石塚村同田尻村同畑中村同牛島村同寺島村同愛宕村同本庄村 自明治十七年八月 十一册
 建物賣買割印簿 自明治二十年一月
 富山縣越中國婦負郡元八幡村戶長役場備付分
 婦負郡元八幡村同布目村同八町村同今市村同荒屋村同草島村同古川村同四方新村同打出村同北窪村同打出新村 自明治十四年一月 七册
 地所賣買割印簿 自明治二十年一月
 婦負郡元八町村同荒屋村同北窪村同四方新村同草島村同古川村同今市村同打出村同八幡村 自明治十九年三月 四册
 建物賣買割印簿 自明治十九年三月
 婦負郡元草島村同八町村同北窪村同荒屋村同布目村同今市村同四方新村同八幡村同古川村同打出村

船舶賣買割印簿 自明治十八年一月 二册
 至明治二十年一月
 富山縣越中國婦負郡元四方町戶長役場備付分
 婦負郡元四方町 一册
 地所建物船公證割印簿 明治二十年一月分 一册
 富山縣越中國婦負郡元西押川村戶長役場備付分
 婦負郡元西押川村同北押川村同新谷村同古澤村同杉谷村同境ノ新村同平岡村同開蕨村同三ノ熊村同坂下新村同北野村同推木村同山本新村同土代村 自明治十四年一月 九册
 地所建物賣買割印簿 自明治十四年一月
 富山縣越中國婦負郡元中ノ名村戶長役場備付分
 婦負郡元中ノ名村同堀村同清水島村同下井澤新村同道喜島村同持田村同萩島村同十五丁村同爲成新村同青島村同成子村同横野村同廣田村同濱子村同中島村同田屋村同田屋新村同下井澤村同道場村同袋村同麥島村同笹倉村同坪野村同海川原村同御門村同下宮ノ島村同上田島村同田島村同有澤村同鶴阪村同鶴阪新村同分田村同添島村同藏島村同板倉新村同板倉村同砂子田村同上新屋村
 地所賣買讓渡割印簿 明治十八年分 一册
 建物賣買割印簿 明治十八年分 一册
 ○逕信省告示第三十九號
 一乙種船長免狀第九十一號 明治二十二年一月二十九日發給
 右ハ廣島縣士族神保正登ハ付與
 一第三則一等逆轉手免狀第九十一號 明治十四年十月二十七日發給

右ハ大阪府平民南條治兵衛ヘ付與
右夫々受有ノ處汽船佐波川丸へ乗組執職中本年一月十九日讚岐國小豆島大角沖合ニ於テ汽船關西丸ト衝突ノ際右免狀執レモ流失ノ旨届出候條其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ可届出但該免狀無效ニ屬ス
明治二十五年二月十七日
逓信大臣伯爵後藤象二郎

○司法省告示第十一號
和歌山地方裁判所管内田邊區裁判所申本出張所御坊區裁判所印南出張所及新宮區裁判所三尾川出張所明治二十五年三月十日ヨリ閉廳ス
明治二十五年二月十八日
司法大臣子爵田中不二麻呂

○大藏省告示第六號
明治二十三年一月當省告示第一號出納區域ノ内札幌本金庫所屬増毛支金庫出納區域中宗谷、枝幸、禮文、利尻ノ四郡ヲ札幌本金庫出納區域中ニ編入ス
明治二十五年二月二十日
大藏大臣伯爵松方正義

○逓信省告示第四十號
明治二十四年逓信省告示第九十七號萬國電信條約書附屬細目規則中各國適宜規定事項ノ内左ノ逓改正追加シタル旨萬國電信總局ヨリ報告シ來レリ
明治二十五年二月二十日
逓信大臣伯爵後藤象二郎
乙號第二電信局及電報用時刻歐羅巴内諸國(羅馬尼)ノ部左ノ逓改正ス
羅馬尼各電信局ニ於テハ鐵道事務ニ用ユル標準時ヲ採用ス但首府
ブカレストニ於ル正午時ヨリ早キコト十六分トス

乙號第十海外郵送電報ノ郵便稅日耳曼ノ部郵便聯合外ノ海外諸國ニ宛タル通信一法トアルヲ「七十五參」ト改正シ私立電信會社ノ部「東方擴張電信會社」ノ六字ヲ削除シ更ニ「西部亞弗利加電信會社」ノ次ニ左ノ逓追加ス
東方擴張電信會社
電報一通ニ付
南濠太刺利 無料
及多斯馬尼
新南威爾斯、
インストラント 二十五參
及西濠太刺利
新 西 蘭 五十參

○逓信省告示第四十一號
來三月一日ヨリ左ノ郵便局電信局ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシム
明治二十五年二月二十日
逓信大臣伯爵後藤象二郎

國郡名	郵便局名	合併局名	等級
長門國阿武郡	萩郵便局	萩郵便電信局	三等
周防國玖珂郡	岩國郵便局	岩國郵便電信局	三等
周防國都濃郡	徳山郵便局	徳山郵便電信局	三等
周防國佐波郡	三田尻郵便局	三田尻郵便電信局	三等

○内務省告示第十一號
一恨みの太刀風
駿河國靜岡市吳服町四丁目二番地平民酒井源五郎發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス
明治二十五年二月二十二日 內務大臣子爵品川彌二郎

○遞信省告示第四十二號

來三月一日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
但出雲國杵築郵便電信局ニ限リ當分ノ内歐文電報歐字及亞刺比亞數字ヲ挿入シタル和文電報ハ
取扱ハス

明治二十五年二月二十二日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

國郡名	舊稱	新稱
武藏國兒玉郡	兒玉郵便局	兒玉郵便電信局
武藏國榛澤郡	深谷郵便局	深谷郵便電信局
武藏國榛澤郡	寄居郵便局	寄居郵便電信局
武藏國秩父郡	大宮郷郵便局	大宮郷郵便電信局
紀伊國南牟婁郡	木ノ木郵便局	木ノ木郵便電信局
出雲國神門郡	杵築郵便局	杵築郵便電信局
備前國兒島郡	味野郵便局	味野郵便電信局
備中國上房郡	高梁郵便局	高梁郵便電信局
美作國大庭郡	久世郵便局	久世郵便電信局
美作國真島郡	勝山郵便局	勝山郵便電信局
豐後國南海部郡	佐伯郵便局	佐伯郵便電信局
肥後國山鹿郡	山鹿郵便局	山鹿郵便電信局
肥後國合志郡	大津郵便局	大津郵便電信局

肥後國韋北郡 佐敷郵便局 佐敷郵便電信局
 肥前國北松浦郡 平戸郵便局 平戸郵便電信局
 能登國羽咋郡 羽咋郵便局 羽咋郵便電信局
 佐渡國加茂郡 夷郵便局 夷郵便電信局
 信濃國南安曇郡 豊科郵便局 豊科郵便電信局

○遞信省告示第四十三號
 本月二十九日限り武藏國榛澤郡深谷鐵道停車場電信取扱所ノ公衆電報取扱ヲ廢止ス
 明治二十五年二月二十二日 遞信大臣伯爵後藤象二郎

○內務省告示第十二號

一幹枝學 第十號 東京市淺草區墨田町十七番地藏手縣平民高爾實品發行

右ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十五年二月二十三日

內務大臣子爵品川彌二郎

○內務省告示第十三號

明治二十四年七月勅令第百二十號第四條ニ依リ從前指定ノ外仍ホ左ノ郡ヲ指定ス

- 京都府
- 船井郡
- 栃木縣
- 足利郡 梁田郡
- 宮城縣
- 栗原郡

山形縣

最上郡

岡山縣

上房郡

上道郡

廣島縣

賀茂郡

熊本縣

八代郡 葦北郡

山鹿郡 山木郡 菊池郡 合志郡

明治二十五年二月二十四日

內務大臣子爵品川彌二郎

〔參照〕

勅令第百二十號 地方官等官俸給令(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第四條 部長ノ年俸ハ六百圓トス

內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ部長ハ年俸八百圓ヲ給ス但共人員ハ二百人以内トス

○農商務省告示第二號

明治二十二年一月農商務省告示第一號第七條左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

第七條 手数料ハ特許局長ノ通知ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ納付書ニ貼用シ消印ノ上特許局ニ差

出スヘシ

明治二十五年二月二十四日

農商務大臣陸奥宗光

〔參照〕

農商務省告示第一號(明治二十二年一月四日)抄録

第七條 手数料ハ現金又ハ爲替券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ

○司法省告示第十二號

長野地方裁判所管内松木區裁判所裁判出張所出張裁判ノ儀本年三月ノ一期ニ限リ開廷セス

明治二十五年二月二十五日

司法大臣子爵田中不二麻呂

○內務省告示第十四號

一新板宇都宮手塚屋情死親尋一ツトセぶし 一册 栃木縣河內郡宇都宮大字川町八十三番地小島重登發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス

明治二十五年二月二十六日

內務大臣子爵品川彌二郎

○陸軍省告示第二號

本年四月要塞砲兵幹部練習所生徒八名東京府下ニ於テ臨時召集候補志願ノ者ハ左ノ規則ニ從ヒ三月十日迄ニ出願スヘシ

明治二十五年二月二十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

臨時要塞砲兵幹部練習所生徒召集規則

第一條 要塞砲兵幹部練習所生徒ハ東京府下在住(本籍寄留)華士族平民中要塞砲兵ノ下士出身志願ノ者ニシテ年齡十八年以上二十五年迄ノ者ヲ身置検査學科試驗ノ成績ニ依リ必要ノ人員ヲ採用スルモノトス但年齡ヲ算スルハ本年四月ヲ以テス

第二條 左ニ記スルモノハ志願者タルノ資格ヲ有セス

一 妻アル者

二 復權ヲ得サル家資分産者及ヒ身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四 前項ノ外平常素行修マラス同郷ニ於テ排斥セラル者

第三條 體格ハ身長五尺二寸以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス

第四條 學科試驗科目左ノ如シ

其一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)

其二 作文 記事(真片假名)及通俗文

但作文ニテ作字ノ巧拙ヲ検査ス

其三 數學 四則雜問、分數雜問、比例、開平、開立

試驗ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム而シテ其一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セズ

第五條 生徒志願者ハ第一號第二號書式ニ照準シ願書及履歷書(各副書ヲ要セス)ヲ東京府知事ヘ差出シ該官ハ之レニ與書シテ三月十五日迄ニ麻布大隊區司令官ニ送付スヘシ而シテ此書類ニハ父兄親族等必ス一家ノ戶主ニシテ身元體格ナル者ニ名ヲ以テ身元保證人トナシ書式ノ如ク連署ス

第六條 志願者ノ身體検査學科試驗ハ麻布大隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ而シテ身體検査ハ陸軍軍醫之レニ從事シ大隊區司令官ハ身體検査合格ノ者ニ就キテ學科試驗ヲナスモノトス但受験ノ爲メ往復旅費及滞在費ハ志願者ノ自辨タルヘシ

第七條 大隊區司令官ハ検査及試驗ノ時日及ヒ場所ヲ定メ之ヲ郡區長ニ通知シ郡區長ハ之ヲ本人ニ傳達スヘシ

第八條 試驗ノ問題ハ要塞砲兵幹部練習所長ニ於テ調製シ密封シテ之レヲ大隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條 大隊區司令官ハ試驗ヲ終レハ問題ノ答解ヲ遲クモ三月二十五日迄ニ要塞砲兵幹部練習所長ニ送付スヘシ

第十條 要塞砲兵幹部練習所長ハ大隊區司令官ヨリ送付スル處ノ試驗書類ヲ審査シ其優劣ニ因テ採用スヘキ者ヲ決定シ大隊區司令官及郡區長ヲ經テ之レニ入所ヲ命ス但採用セラレサル者ハ大隊區司令官ヨリ郡區長ヲ經テ之レヲ本人ニ傳達スヘシ

第十一條 生徒入所ノ上ニ要塞砲兵幹部練習所條例第十七條ニ據リ誓約ヲ爲サシムルコト左ノ如シ
誓文
今陸軍出身志願ニ付要塞砲兵幹部練習所生徒志願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守リ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令病氣ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラズシテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛願仕間敷候依テ誓文如件
年月日 姓 名 印

第十二條 志願者ハ必ス検査時日ニ後レサル様麻布大隊區司令部ニ出頭シ指揮ヲ受クヘシ検査及試驗時日ニ際シ志願者中疾病又ハ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ遷延スルコトナレ然レトモ開場中疾病快復シ又ハ事故止ムトキハ受験スルコトヲ得

第十三條 受験者出場スルトキハ筆墨硯及小刀ノ外總テ書籍草案等ヲ携持スルヲ許サス

第十四條 採用スヘキ者出所ノ上ハ再ヒ身體ノ検査ヲ行ヒ入所セシムルモノトス總テ出所途中病氣其他止ムヲ得サル事故アリテ定規日限ニ到著シ難キ者ハ郵便若クハ電報ヲ以テ練習所ニ届出テ置キ病氣ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市區町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ到著ノ上直ニ届出ヘシ但夫レカ爲メ多數ノ日子ヲ費シ入所結了ニ著キ滯留ヲ來ス者ハ除名スヘシ

第十五條 出所ノ達ヲ受ケタル者狼リニ出發ヲ遷延シ又ハ無届ニテ期日ニ到著セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス裝ニ支給セシ出所旅費ヲ返納セシム

第十六條 志願者ニシテ試驗ヲ受ケタル後チ其住地ヲ轉スルトキハ速カニ大隊區司令部ヲ經テ練習所ヘ届ケ出ヘシ

第十七條 出所ノ達ヲ受ケタル者ニハ居住地ヨリ練習所迄其里程ニ應シ舟車馬料及日當ヲ給ス其支給方ハ練習所ヨリ麻布大隊區司令部ニ送付スルヲ以テ就テ受領スヘシ但自己ノ便宜ヲ以テ出

所期日前早著シ滞在スル者ニハ日當ヲ増給スルノ限リニアラス
第十八條 出所ノ上再ヒ身體ノ検査ヲ爲シ不合格トナリタル者ハ歸郷セシメ其趣ヲ練習所ヨリ大
隊區司令部ニ通報ス若シ自己ノ不攝生等ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ歸郷旅費ヲ給セサル
ノミナラス出所ノ旅費ヲモ返納セシム

第一號書式

要塞砲兵幹部練習所入所願用紙表紙白紙

陸軍出身志願ニテ此度要塞砲兵幹部練習所生徒ニ入所仕度候間御試験ノ上御採用被下度入所ノ上ハ固ヨリ御規則嚴重ニ相守リ
習テ陸軍ニ從事可仕萬一行狀不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ退所ヲ命セラル候共決シテ違背不仕御定期ノ服役年限ヲ相終リ可申
且又本人身上ノ儀ハ何事ニ依テ身元保證人ニ於テ引受可仕依テ願書相添保證人並署此段奉願候也

何國何郡(市)何町(村)産
東京府何郡(區)何町(村)何番地寄留

身元保證人
府(縣)何族(平民)
東京府何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
年號月日生
明治何年何月何年何箇月

年號月日

同上
同上
同上

要塞砲兵幹部所長官姓 名殿

東京府郡區長 姓 名印

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

前格之通相違無之候也

第二號書式

履歷書 用紙類書用紙ニ同シ而シテ書式ニ示ス外
歴ニ係ルモノアルトキハ悉ク記載スヘシ

東京府知事 姓 名印

何年何月種痘(天然痘)

府(縣)何族(平民)職業
戸主ニ非サレハ離子弟等
姓 名

一何年月日任何官(補)何等出仕(免)本官(出仕被免)(何番)府(縣)(職)等

一何年月日何職被申付(何職被免)(何番)府(縣)(職)等

一何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)

一何年月日徴兵(士官候補生、士官學校、幼年學校、教導團生徒、海軍兵學校等)ノ検査ヲ受ケ體格(身軀)固體(學科)ニ合セス

一何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜

一何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

本人 姓 名印
身元保證人 姓 名印

姓 名印
姓 名印

○遞信省告示第四十四號

來三月一日ヨリ佐渡國羽茂郡西三川郵便局ヲ同國同郡小布勢村字田切須ニ移轉シ小布勢郵便局ト
改稱ス

明治三十五年二月二十六日

遞信大臣伯爵後藤藤三郎

○逓信省告示第四十五號

今般大分縣豐後國大分郡西大分町ニ於テ大分港埠頭ニ燈竿ヲ建設シ不動白色ノ燈明ヲ設ケ明治二十五年三月二十日以後毎夜點火ス

明治二十五年二月二十七日

逓信大臣伯耆後藤象二郎

一該燈竿ノ位置ハ水路部出版第五百七十七號ノ海圖ニ據レハ北緯三十三度十五分三秒ニシテ東經百三十一度三十五分三秒ニ當ル

一該燈竿ハ木造白色ニシテ基礎ヨリ燈火マテ高サ三丈ナリ

一該燈火ハ全度ヲ照輝ス

一該燈火ハ水面ヨリ高サ四丈一尺五寸其光遠距離ハ晴天ノ夜六海里トス

○農商務省告示第三號

農商務省令第二號ニ據リ獸醫蹄鐵工免許及書換手数料トシテ納付スヘキ登記印紙ハ免狀下付ノトキ受領書ニ貼付シ消印スヘシ

明治二十五年二月二十九日

農商務大臣陸奥宗光

○大藏省告示第七號

明治二十五年四月一日ヨリ六月三十日マテ輸入從價稅品元價ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣日本銀貨比較表左ノ通之ヲ定ム

但外國銀貨ト日本銀貨トノ比較ハ從前ノ通

明治二十五年三月一日

大藏大臣伯耆松方正義

外國貨幣日本銀貨比較

金貨	日本銀貨
英 吉 利 一ポント	六五六二
獨 逸 一マーク	三三二
北 米 合 衆 國 一ドルラル	一三五四
佛 國 一フランク	二六〇
瑞 西 一フランク	二六〇
白 耳 義 一フランク	二六〇
伊 太 利 一リラ	二六〇
丁 抹 一クローン	三六一
瑞 典 一クローン	三六一
諸 威 一クローン	三六一
和 蘭 一ギルドル	五四三

西	班	牙	一リール	〇六八
葡	葡	牙	一ミルリ	一・四五五
土	耳	其	一ピアストル	〇五九

○逓信省告示第四十六號
左ノ郵便電信局ニ於テ來ル三月十一日ヨリ歐文電報歐字又ハ亞刺比亞數字ヲ記入シタル和文電報ノ取扱ヲ開始ス

明治二十五年三月一日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

伊豫國西條郵便電信局

越後國村上郵便電信局

越後國高田郵便電信局

羽後國大館郵便電信局

越前國武生郵便電信局

○逓信省告示第四十七號

本年一月中西洋形船ヘ左ノ信號符字ヲ附ス

明治二十五年三月一日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

西洋形船

信號符字	免狀番號	船名	種類	定 聚 場	船主氏名
HJLB	一二六九	新川丸	帆	土佐國長濱村瀨洲	友永元次
HJLC	一二七〇	幸照丸	汽	攝津國神戸	藤岡庄一郎
HJLD	一二七一	鯉洋丸	汽	大	阪共榮社
HJLF	一二七二	御代島丸	汽	同	住友トク
HJLG	一二七三	新榮丸	汽	同	尾崎伊三郎

信號符字	免狀番號	船名	種類	定 聚 場	船主氏名
HJLK	一二七四	兩津丸	汽	佐渡國	淡屋野和三次
HJLM	一二七五	越羽丸	汽	越後國新潟	早川啓三郎
HJLN	一二七六	第一 太湖水湖丸	汽	大	阪太湖汽船會社

○内務省告示第十五號

一日本銀行兌換券(日本銀行發圓兌換銀)

一枚 發行者 未詳

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス

明治二十五年三月三日

内務大臣子爵品川彌二郎

○逓信省告示第四十八號

萬國電信條約書附屬細目規則中各國適宜規定事項ニ付萬國電信總局ノ報告ニ基キ明治二十四年九月逓信省告示第九十七號中左ノ通改正追加ス

明治二十五年三月三日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

乙號第二電信局及電報用時刻歐羅巴內諸國(匈牙利及攝兒比亞)ノ部左ノ通改正ス

匈牙利

匈牙利電信局ニ於テ鐵道事務ニ用ユル標準時ヲ採用ス但首府ブダペスト子午線ニ基キタル時刻ヨリ後ル、コト十六分トス

攝兒比亞

攝兒比亞電信局ニ於テ鐵道事務ニ用ユル標準時ヲ採用ス但首府ベルグラト子午線ニ基キタル時刻ヨリ後ル、コト二十二分トス

戊號第十六ノ次ニ左ノ通追加ス

己號 露西亞電信局ノ回答ハ左ノ如シ

第一 歐羅巴内外各國ニ關スル問題

第一 否

- 第二 聖比得堡子午線
- 第三 暗號電報ノ中繼ノミヲ許ス
- 第四 商用電報ニ限リ隱語ヲ許ス
- 第五
- 第六 本文ナキ電報ヲ許ス
- 第七 木八直交付電報(MP)ノミヲ許ス
- 第八 至急私報ニ關スル規定ヲ適用ス
- 第九 電線沿路外ニ於テハ騎使ヲ以テ萬國電報ヲ遞送ス其遞送料ハ細目規則目第六十條第一節ノ規定ニ從ヒ受信人ヨリ之ヲ徵收ス
- 第十 否
- 第二 歐羅巴外各國ニ關スル問題
- 第十一 否
- 第十二 露西亞ノ歐羅巴外線路ニ於テハ歐羅巴內線路ニ於ケルカ如ク句讀點及其他ノ記號ヲ傳送ス
- 第十三 著信局名電報番號及依託ノ日時分モ亦之ヲ傳送ス
- 第十四 返信料前納ニ關スル規定ヲ適用ス
- 第十五 キヤクヲ支那間ノ騎使賃ハ一馬ニ付三百九十二法、二馬ニ付五百八十八法ヲ發信人ヨリ徵收ス
- 第十六 露西亞ト直接ノ關係アル不同盟地方ニ於テハ聖比得堡子午線ニ依リ電信局ノ時刻ヲ定

○逓信省告示第四十九號

今般英領印度郵政廳ハ他ノ外國ト「アツガニスタン」省府「ガブール」トノ間ニ於ケル郵便物ノ媒介ヲ廢シタルニ付自今該首府ニ發送スル郵便物ハ之ヲ取扱ハス

明治二十五年三月三日

逓信大臣 伯爵後藤藤象二郎

○逓信省告示第五十號

本月十六日ヨリ渡島國檜山郡江差郵便局ト同地電信局トヲ合併其等級ヲ三等トシ同日ヨリ共事務ヲ取扱ハシム

明治二十五年三月四日

逓信大臣 伯爵後藤藤象二郎

○内務省告示第十六號

一 史學會雜誌 第二十三號 第二十四號

東京市神田區鍛冶町三番地中村小兵衛發行

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス

明治二十五年三月五日

内務大臣 子爵品川彌二郎

○内務省告示第十七號

一 史海 第八卷

東京市京橋區彌左衛門町七番地龜島仁吉發行

右出版物ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス

明治二十五年三月五日

内務大臣 子爵品川彌二郎

○逓信省告示第五十一號

一 貨幣封入郵便物受授見合印鑑 第百六十九號

第百六十九號

内國通運會社へ下渡ノ分

右印鑑紛失ノ旨今般届出候條所在發見ノモノハ本省ニ届出ツヘシ

明治二十五年三月五日

逓信大臣 伯爵後藤藤象二郎

○大藏省告示第八號

本年一月大藏省令第一號登記印紙ノ見本左ノ如シ (見本略ス)
明治二十五年三月七日

大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省告示第二號

海軍兵學校將校生徒二十名召募候ニ付本年八月年滿十六年以上二十年未滿 明治二十五年十月ヨリ同
者)ニシテ出身志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年五月十五日限リ海軍兵學校長ニ出願スヘシ

明治二十五年三月八日

海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十五年海軍兵學校將校生徒志願者心得

第一條 志願者ハ海軍兵學校條例中左ノ條條ヲ心得ヘシ

第一條 海軍兵學校ハ將校及機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

將校ト爲ルヘキ生徒ヲ將校生徒ト稱シ機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ機關生徒ト稱ス

第四條 生徒ハ年滿十六年以上二十年未滿ニシテ海軍將校若クハ海軍機關官トランコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選拔シテ採用ス

第五條 左ノ諸項ニ掲グル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者

第七條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第八條 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ

第九條 生徒ハ左ニ掲グル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ展訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷疾疾病等ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

第二條 志願者ハ其願書(第一號)ニ誕辰證書(第二號)及履歷書(第三號)ヲ添ヘ府縣知事(寄留者ハ其
事)ノ與書證印ヲ受ケ海軍兵學校長ニ送付スヘシ

志願者ハ身元確實ナル者二名ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第三條 志願者ニハ左ノ入校試験ヲ受ケシム

一 身體検査

二 學科試験

身體検査ニ不合格ノ者ハ學科試験ヲナサス

第四條 志願者ハ前以テ地方醫師ノ下検査ヲ受ケ置キ身體検査ニ出ツル時(第四號)身體検査證ヲ
携フヘシ

第五條 志願者ハ身體検査ニ出ツルトキ新ニ撮影セル寫真一葉ヲ携フヘシ

第六條 入校試験ノ場所ハ左ノ地ニ設ク

一 東京

二 廣島

第七條 入校試験ノ身體検査ハ東京ニ在リテハ二十五年八月一日ヨリ廣島ニ在リテハ同月三日ヨ
リ開始ス

第八條 志願者ハ東京ニ在リテハ七月二十五日限リ受験中現在ノ宿所ヲ築地海軍大學校内兵學校
出張員ニ廣島ニ在リテハ同日限リ縣廳ニ届出ツヘシ

第九條 何等ノ事故アリト雖トモ之カ爲メ時日ヲ延ハシ検査ヲ爲スコトナシ

第十條 志願者検査地ニ往復並ニ滞在費等ハ一切自辨タルヘシ

第十一條 生徒ヲ命スルト否トハ本人願書ニ與書シタル府縣廳ヲ經テ保證人ニ達ス

第十二條 生徒ヲ命スヘキ者ニハ本人願書ニ與書シタル府縣廳ヨリ本校マテノ里程ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第十三條 生徒ヲ命セラレタル者ハ誓約書(第五號)ニ署名捺印シ海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ表スヘシ

第十四條 生徒ハ入校ノ日ヨリ修學ノ費用及被服食料等悉皆官費トス

第十五條 條例第九條第一項第二項ニ依リ生徒ヲ免シタル者ニハ既ニ給與シタル手當金一日二十錢宛ヲ償還セシム

第十六條 遺傳病其他身丈體重胸圍ノ不足或ハ疾病等ニ依リ體格ニ適合セサル者ハ大略左ノ如シ

第一 發作性ノ疾病アル者

發作性ノ疾病トハ總テ時々發歇スル處ノ病ニテ其類例左ノ如シ

癲癇胃癱喘息眩暈心悸亢進(聊カノ事ニ驚キ易ク僅ノ勞働等ニ因テ忽チ胸ノ動氣タカマリ短息等ヲ發シテ容易ニ鎮靜セサル者)癱瘓質斯關節痛(氣候ノ變換ニ誘發シテ手足ノ關節頸背或ハ腰部等ニ痛ヲ發スル病)癱瘓質斯疝(氣候ノ變換ニ誘發スル疝氣ニシテ殊ニ涼風寒氣等ヲ胃セハ俄ニ起ルモノ)間歇性頭痛(天氣ノ變換ニ誘發シ自己ノ感覺ニテ天氣ノ晴雨ヲ豫メト知スルコトアリ)

第二 狹窄症内痔症其他自己識得スル疾病及遺傳ノ疾病アル者

狹窄症トハ眼耳鼻口咽喉食道尿道肛門等カ先天性或ハ疾病或ハ外傷ノタメ狹ハマリ小サクナル症ヲ云フ

癩病父母兄弟ハ勿論其血統中肺勞咯血吐血癩狂癩癩腺病(瘰癧)中風全身梅毒

第三 宿病舊創ニヨリ患フル處アル者

舊創トハ打撲挫傷斷骨創痍等ノ痍痕アリテ勞働或ハ寒濕ニ觸レ疼痛或ハ麻痺或ハ鬱急等ヲ發シ其部ノ運營不充分ナル症ナリ

第四 身丈五尺一寸ニ達セサル者

第五 體重十二貫ニ達セサル者

第六 胸圍二尺五寸三分ニ達セサル者

第七 胸廓擴張一寸八分ニ達セサル者

但十七年以下ニシテ身丈體重胸圍等些少ノ不足アルモ無病健全ニシテ發育ノ目的アル者ハ検査ノ上適合スルコトモアルヘシ胸圍ヲ測定スルニハ尺度ヲ橫乳線ト平行圍繞シ呼吸ノ中間ヲ取り測定ス

第八 發育 身丈體重胸圍等ニ不足ナキモ爾他ノ發育不全ニシテ身體薄弱ノ者或ハ年齡不相應ニ身丈ノミ發育シ身丈ニ比スレハ體重輕ク頭長ク胸廓扁平勞瘵質ヲ固有スル者

第九 皮膚 慢性皮膚病腋臭麻痺内部ノ疾患ニ因テ施ス處ノ著キ發泡打撲ノ痕跡頭面部巨

大ノ痍痕醜形ヲ呈スル者其他各部ノ痍痕巨大ナラサルモ骨ニ密著シテ動搖セサル者著シキ瘦體肥大脂肪過多體毛非常ノ過多癩風母斑(面部ニアリテ著ク醜形ヲ呈スル者)

第十 眼目 眼瞼ノ畸形眼目不透明ニシテ健體ノ徵ナキ者失明淚管瘻眼瞼下垂睫毛內刺怒

肉反睛險裡顆粒角膜炎諸病視力二十尺ノ距離ニ於テ一般ニ八ノ視定スヘキ小形ヲ見認メサル者及識色ハ綠藍黃赤等各種色ヲ鑑別シ能ハサル者

第十一 耳 内外聽道ノ疾病殊ニ鼓膜穿孔著キ耳漏片耳若クハ兩耳ノ耳聾或ハ低聲ヲ聽取

シ難キ者

第十二 鼻 鼻ノ畸形鼻骨鼻軟骨ノ疾病鼻孔狹窄閉塞ノ者

- 第十三 口、咽喉、舌唇口蓋或ハ扁桃腺ノ著シキ疾病畸形、齒牙不足、齒牙及齶眼ノ不具、矢矧兒陪苦、全身病ニ起因スル呼吸惡臭アル者
- 第十四 手足、四肢ノ著シキ不同内海外灣著シキ扁平足或ハ骨折筋力ノ薄弱指趾ノ缺損或ハ畸形下肢靜脈怒張スル者
- 第十五 胸腹、胸廓ノ著シキ扁平(肺勞質ノモノ)畸形、胸膈骨傷、心悸亢進(著シキモノ)心肺ノ疾患、呼吸短息、慢性咳嗽、聲音嘶啞、肋膜炎後ノ障害、腹壁腫脹、膨滿、脫腸、腹輪ノ薄弱膨脹、内臟ノ諸疾患等アル者
- 第十六 背腰、頸背或ハ腰椎ノ骨盤ノ諸疾患背椎諸病アル者
- 第十七 會陰、肛門内痔外痔痔瘻コンヂロマタ肛門皸裂瘻瘻脱肛アル者
- 第十八 生殖器、舉丸諸病例ノ精系靜脈怒張片舉丸若クハ兩舉ノ下降セサル者淋疾尿道狹窄、硬性下疳ノ瘻痕真包莖(但包莖ハ志願前治療ヲ加ヘ妨碍ナキ者ハ此限ニアラス)小便失禁尿道瘻孔等ノ者
- 第十九 精神及言語、精神痴鈍或ハ異狀白痴癲癩言語妨碍或ハ啞吃等
- 第十七條 學科ノ試験左ノ如シ

英	文法	スウヰントン小文典位ニ照スルヲ要ス
和文英譯	邦文數節ヲ英譯セシム	
漢	白文副點	史類中ヨリ數節ヲ出シ副點ヲ施サシム
學	作文	記述或ハ尺牘中 一題 眞片假名交リ文ヲ作ラシム
算	算術	參考書ロウク氏スミス氏等ノ算術書
代數	代數	四術ヨリ多元二次方程式ニ至ル其外開法、自乘法、指數法不盡根數比、比例參考書チアールズ、スミス氏トンド、ハンター氏等ノ代數書
平面幾何	アウソン、エーシヨ、シオメトリ、或ハ菊池理學博士著英文幾何學卷ノ一終リ迄	

- 一 問題ハ會話ヲ除ク外總テ筆答トス
- 二 數學ハ原理ト應用ノ二種トス
- 三 學科試験ハ身體ノ検査ニ合格スル者ノミ之ヲ受ケシム
- 四 三學科中白文副點代數英文和譯ニ各百分ノ三十五以上ヲ得ル者而シテ各科ノ點數百分ノ四十以上ヲ得ル者ヲ及第トス
- 五 試験場ニ於テハ一切他人ト言語ヲ交フルヲ禁ス
- 六 自己ノ書籍草案等一切携帯スルヲ禁ス但要用ノ筆墨硯白紙小刀ハ之ヲ持參スルモノトス
- 七 問題ノ文意等一切質問スルヲ禁ス
- 八 答紙ニ塗抹多ク字格等明瞭ナラス又數學ニ於テ運算解式ナク答ノミヲ記スルモノハ點ヲ與ヘス
- 九 答ハ必ス時限内ニ出スモノトス時間過クルノ後ハ之ヲ出スヲ得ス

海軍兵學校將校生徒願

海軍出身志願ニ付御検査ノ上兵學校將校生徒ニ御採用被下度御許可入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守可申ハ勿論拙者身上ノ儀ハ何事ニ限ラス身元保証人ニテ引受可申候依テ保證人連署此段申添候也
但東京(廣島)ニ於テ御検査相成度此段申添候也
亦故アリ受驗地ノ變換ヲ望ムトキハ其旨兵學校長ニ届出ツヘシ
年 號 月 日

前番相違無之候也
海軍兵學校長姓名殿

第二號書式用紙表紙紙ニツ折 一通
誕辰證書

誕辰 何府縣何國何郡市區何町村ニ於テ何年何月何日生
右ノ通相違無之候也
年 號 月 日

前番保護候也
年 號 月 日

戸主(親子也)
姓 名 印
明治二十五年何月
何年何箇月

保證人
何府縣華士族平民
何國何郡市區何町村何番地住
姓 名 印

保證人
何府縣華士族平民
何國何郡市區何町村何番地住
姓 名 印

府縣知事 姓 名 印

何府縣華士族平民
姓 名

保證人 姓 名 印
保證人 姓 名 印

本籍ノ市區町
市長ニ限ル
何府縣何國何郡市區町村
市區町村長 姓 名 印

第三號書式 一通

履歴書

- 一住所(國郡市區町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ)
- 一生長ノ地名(同上)
- 一親父母父母(養子ハ養父共ニ之ヲ記スハ亡ト記シ父兄官位勳アハ存亡共ニ之ヲ記スヘシ)
- 一兄弟姉妹名(養子ハ養父共ニ之ヲ記スハ亡ト記シ父兄官位勳アハ存亡共ニ之ヲ記スヘシ)
- 一教育ヲ受ケタル學科年月校名等
- 一職業技術等
- 一官職會社等ノ職務ニ従事シタル等
- 一賞罰
- 右ノ通相違無之候也
- 年 號 月 日

何府縣華士族平民
戸主或ハ何某男父兄弟伯叔舅附屬
姓 名

保證人 姓 名 印
保證人 姓 名 印

何府縣華士族平民
姓 名

何府縣市區町村番地
檢査官 何 某 印

第四號書式用紙表紙紙ニツ折

身體檢査証

右精細檢査候處其體格海軍兵學校將校生徒志願者必得第十六條ニ抵觸セサル者ト思考候也
年 號 月 日

第五號書式

誓約書

拙者海軍出身志願ニ依リ今般兵學校將校生徒被命候ニ付テハ自今御規則ヲ遵守シ修業中ハ私事ヲ顧ミス卒業ノ後ハ嘗テ帝國海

軍ニ從事可仕候依テ誓約如件
年 號 月 日

海軍兵學校將校生徒 姓 名 印

○司法省告示第十三號

大阪地方裁判所管内岸和田區裁判所佐野出張所明治二十五年三月十四日ヨリ開廳ス
明治二十五年三月八日 司法大臣子爵田中不二麻呂

○內務省告示第十八號

一 錢占意氣奈好此 明治二十一年屆出 一册
一 錢占意氣奈好此 明治二十二年三月屆出 一册
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス
明治二十五年三月九日 內務大臣子爵品川彌二郎

○司法省告示第十四號

松山地方裁判所管内今治區裁判所明治二十五年四月一日ヨリ裁判事務ヲ取扱フ
明治二十五年三月九日 司法大臣子爵田中不二麻呂

○逓信省告示第五十二號

本月十五日限り筑前國鞍手郡直方鐵道停車場電信取扱所ノ公衆電報取扱ヲ廢止ス
明治二十五年三月九日 逓信大臣伯爵後藤象二郎

○逓信省告示第五十三號

本月十六日ヨリ左ノ郵便局ヲ郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
但見附八幡、上布地、布袋野、美川、安宅郵便電信局ニ限り當分ノ内歐文電報歐字及亞刺比亞歐字

ヲ挿入シタル和文電報ハ取扱ハス

明治二十五年三月九日

國郡名

舊 稱

改 稱

逓信大臣伯爵後藤象二郎

越中國礪波郡	出町郵便電信局	越中國礪波郡	出町郵便電信局
越中國礪波郡	福野郵便電信局	越中國礪波郡	福野郵便電信局
越中國礪波郡	井波郵便電信局	越中國礪波郡	井波郵便電信局
越中國礪波郡	福光郵便電信局	越中國礪波郡	福光郵便電信局
越後國三島郡	與板郵便電信局	越後國三島郡	與板郵便電信局
越後國南蒲原郡	見附郵便電信局	越後國南蒲原郡	見附郵便電信局
越後國南蒲原郡	今町郵便電信局	越後國南蒲原郡	今町郵便電信局
越後國南蒲原郡	加茂郵便電信局	越後國南蒲原郡	加茂郵便電信局
越後國西蒲原郡	卷郵便電信局	越後國西蒲原郡	卷郵便電信局
越後國西蒲原郡	地藏堂郵便電信局	越後國西蒲原郡	地藏堂郵便電信局
佐渡國羽茂郡	小木郵便電信局	佐渡國羽茂郡	小木郵便電信局
紀伊國北牟婁郡	尾鷲郵便電信局	紀伊國北牟婁郡	尾鷲郵便電信局
美濃國郡上郡	八幡郵便電信局	美濃國郡上郡	八幡郵便電信局
美濃國武儀郡	上布地郵便電信局	美濃國武儀郡	上布地郵便電信局
羽後國北秋田郡	鷹ノ巣郵便電信局	羽後國北秋田郡	鷹ノ巣郵便電信局
伊豫國西宇和郡	川ノ石郵便電信局	伊豫國西宇和郡	川ノ石郵便電信局
筑前國宗像郡	赤間郵便電信局	筑前國宗像郡	赤間郵便電信局
筑前國鞍手郡	直方郵便電信局	筑前國鞍手郡	直方郵便電信局

豐前國上毛郡 八屋郵便局
 信濃國北安曇郡 大町郵便局
 尾張國知多郡 武豐郵便局
 尾張國丹羽郡 布袋野郵便局
 尾張國海東郡 津島郵便局
 加賀國石川郡 美川郵便局
 加賀國能美郡 安宅郵便局

○大藏省告示第九號

岐阜本金庫所屬笠松支金庫ヲ本月十五日羽栗郡笠松町字下新町へ移ス

明治二十五年三月十日

大藏大臣伯爵松方正義

○逓信省告示第五十四號

本月十六日ヨリ京都郵便電信局今出川郵便支局ニ電信取扱ヲ開始シ京都郵便電信局今出川支局ト改稱ス

明治二十五年三月十日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

○大藏省告示第十號

兵庫縣下神戸本金庫所屬龍野支金庫ヲ本月十五日ヨリ揖西郡龍野町大字日山村へ移ス

大藏大臣伯爵松方正義

○逓信省告示第五十五號

陸前國宮城郡松島陸奥國三戸郡尻内各鐵道停車場電信取扱所ニ於テ本月二十五日ヨリ左ノ事項ニ據リ公衆電報取扱ヲ開始ス

但萬國電信條約書ニ依リ取扱ヘキ電報及歐文電報ハ取扱ハス

明治二十五年三月十二日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

一 通信取扱時間ハ午前七時ヨリ午後七時マテトス
一 取扱所ヨリ三町以内ニ宛タル電報ハ直配達ヲナス

○内務省告示第十九號

一 粹 一册 東京市京橋區南船場町一番地小川寅松發行

明治二十五年三月十四日

内務大臣伯爵副島種臣

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

○内務省告示第二十號

一新謎わらひぬくろ 一册 京都市下京區寺町通松原上ル京極町十三番戶今井七太郎發行

明治二十五年三月十四日

内務大臣伯爵副島種臣

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十五年三月十四日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

但萬國電信條約書ニ依リ取扱ヘキ電報及歐文電報ハ取扱ハス	逓信大臣伯爵後藤象二郎
明治二十五年三月十二日	
一 通信取扱時間ハ午前七時ヨリ午後七時マテトス	
一 取扱所ヨリ三町以内ニ宛タル電報ハ直配達ヲナス	
○内務省告示第十九號	
一 粹 一册 東京市京橋區南船場町一番地小川寅松發行	
明治二十五年三月十四日	
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス	内務大臣伯爵副島種臣
○内務省告示第二十號	
一新謎わらひぬくろ 一册 京都市下京區寺町通松原上ル京極町十三番戶今井七太郎發行	
明治二十五年三月十四日	
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス	逓信大臣伯爵後藤象二郎
○逓信省告示第五十六號	
墨西哥及中南亞米利加地方ノ内左記ノ電信局ニ於テハ電報ノ傳送及交付ニ關スル照會竝料金還付ノ請求ニ應セサル旨萬國電信總理局ヨリ報告シ來レリ	
明治二十五年三月十四日	
各局名	各局名
ボリツイ	フニナヅニシニラ
コロンビア	コロン及バナマヲ除ク諸局
コスタリカ	各局
イキニエドル	グヤキル及サントアレナヲ除ク諸局